

Forum on



2006

Information Technology

第5回情報科学技術フォーラム

プログラム

交通案内図	1
キャンパス図	2
情報アラカルト	8
プログラム概要	9
講演論文集の内容	13
FIT委員名簿	14
イベント企画の御案内	15
会場別イベント企画プログラム	16
イベント企画講演概要	22
一般講演プログラム	66

平成18年9月5日(火)～7日(木)
福岡大学七隈キャンパス(福岡県福岡市城南区七隈8-19-1)

懇親会 9月6日(水) 18:00より
文系センター棟16F スカイラウンジ(会場キャンパス内)

FIT2006本部 ヘリオスプラザ2F
電話・FAX:(092)871-6708

社団法人 電子情報通信学会

The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers

情報・システムソサイエティ(ISS)

Information and Systems Society

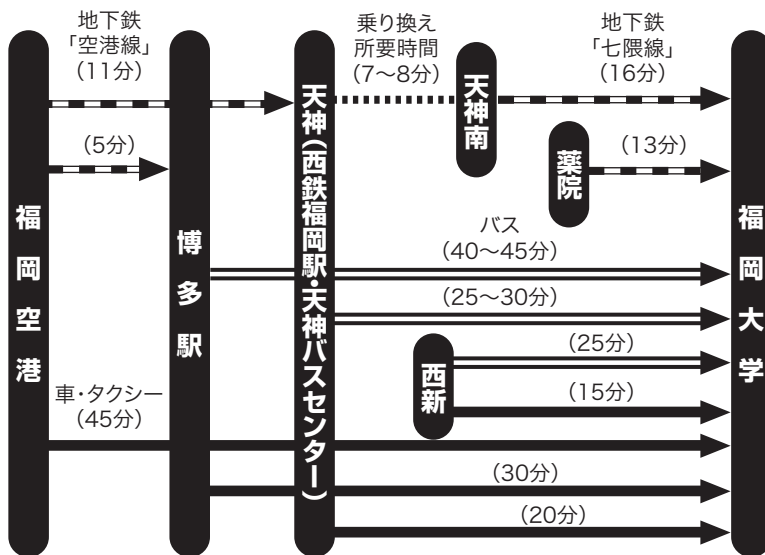
ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)

Human Communication Group

社団法人 情報処理学会

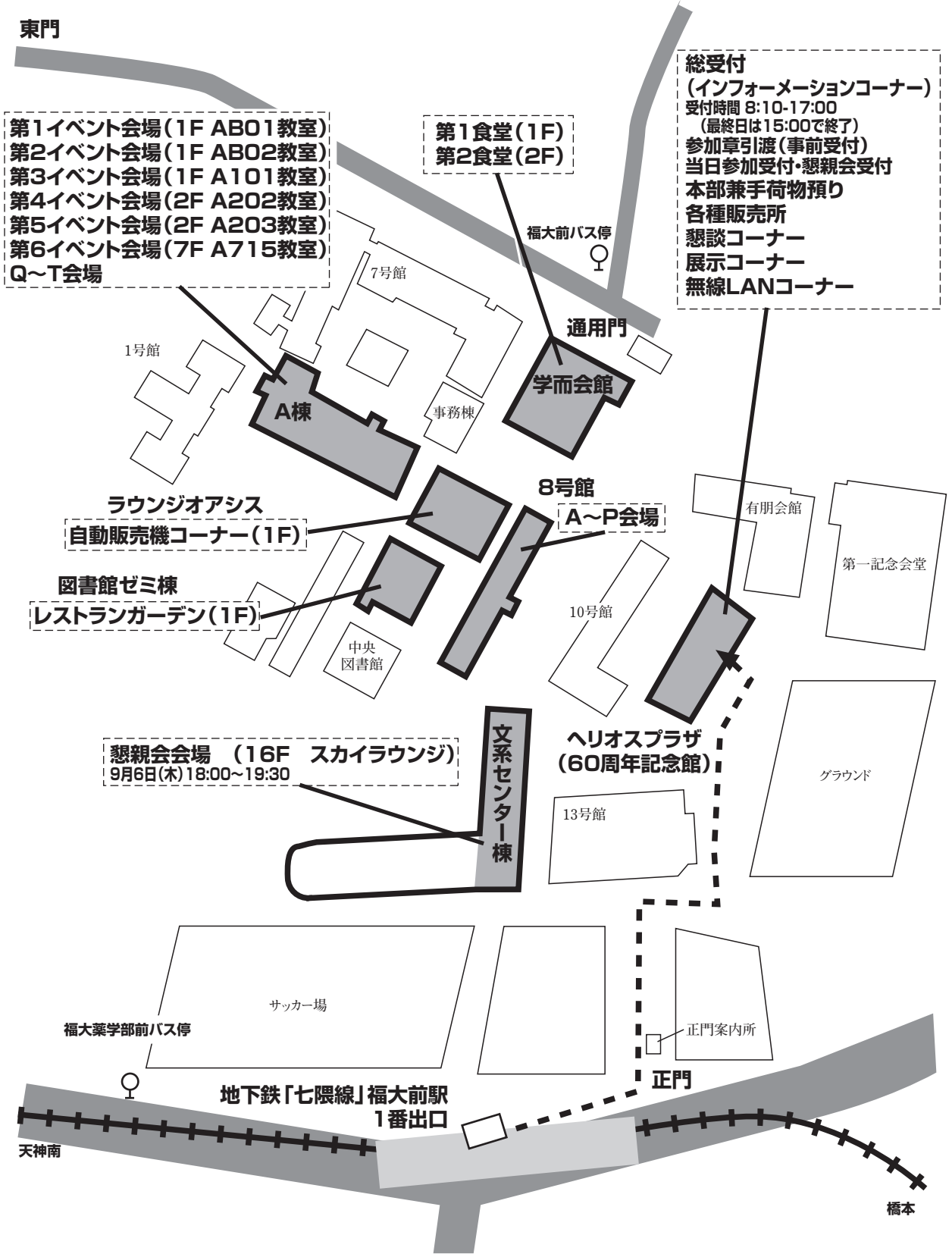
Information Processing Society of Japan

大会交通案内

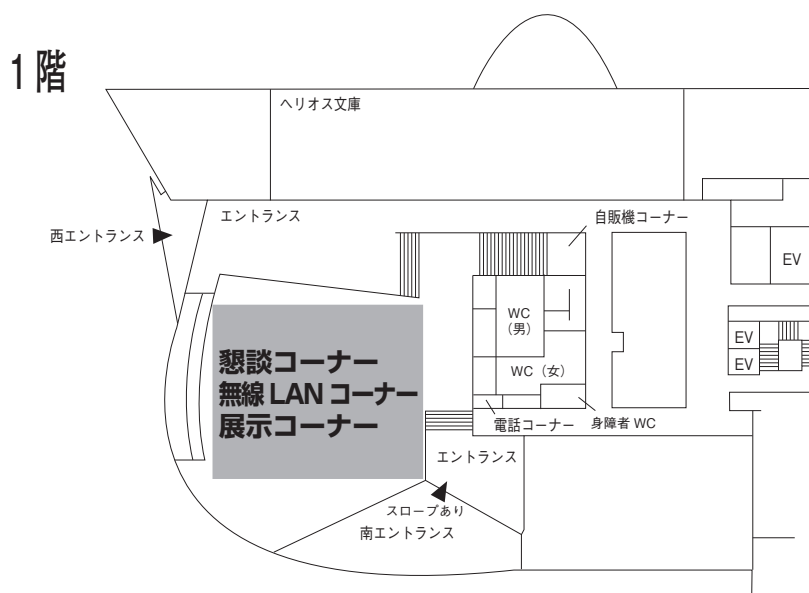
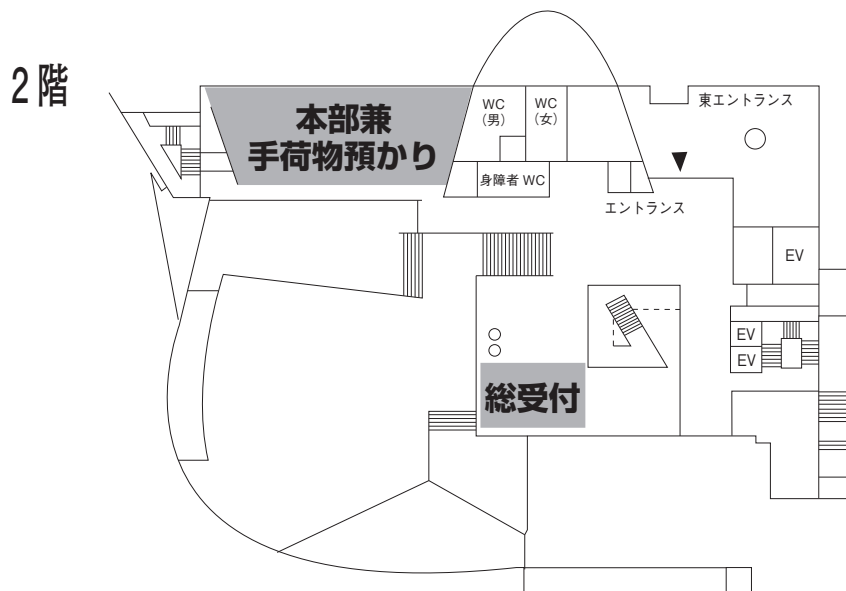


※カッコは所要時間です。
※時間帯により、交通混雑が予想されますので、所要時間は目安としてください。

福岡大学七隈キャンパス図



60周年記念館（ヘリオスプラザ）



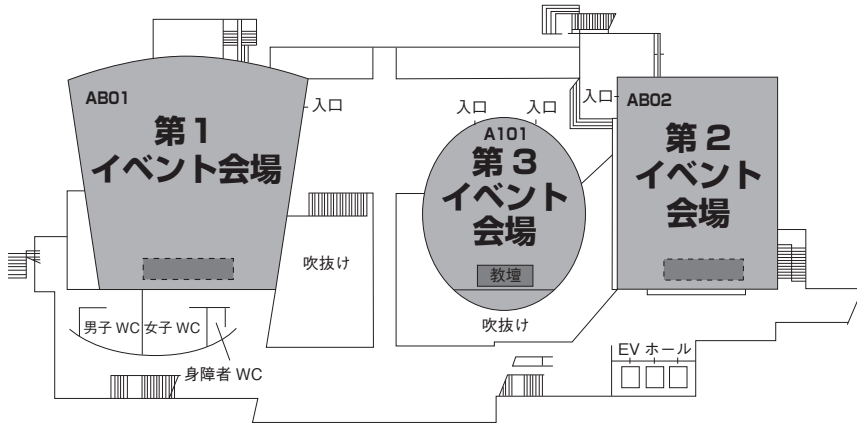
★無線LANコーナーのご利用にあたって

無線LANコーナー用にゲストアカウントを用意しますが、このアカウントでは HTTPしか利用できません。
(メールもWEBメールを使っていたいただくことになります)。

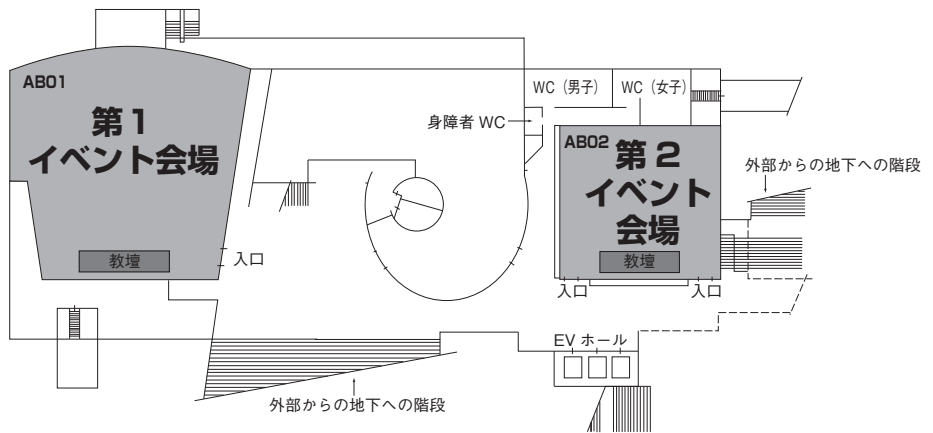
また現在設置されている数台のパソコン(有線接続)は、外部の方は利用できません。

A棟 (その1)

1階

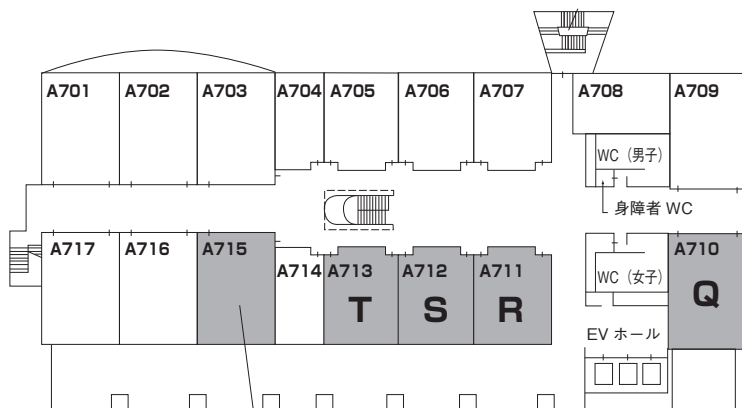


地下1階



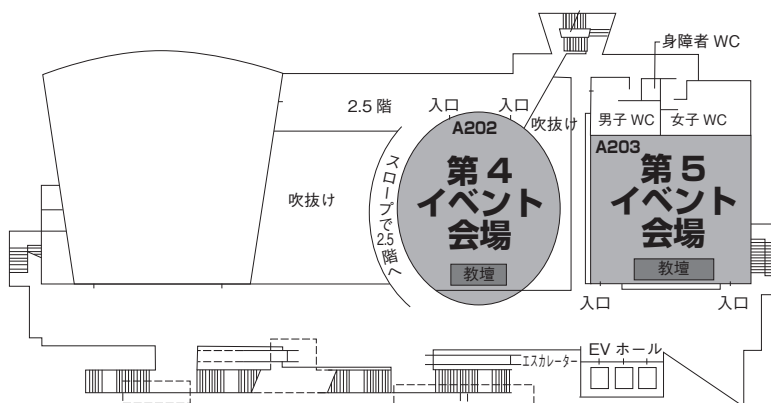
A棟 (その2)

7階



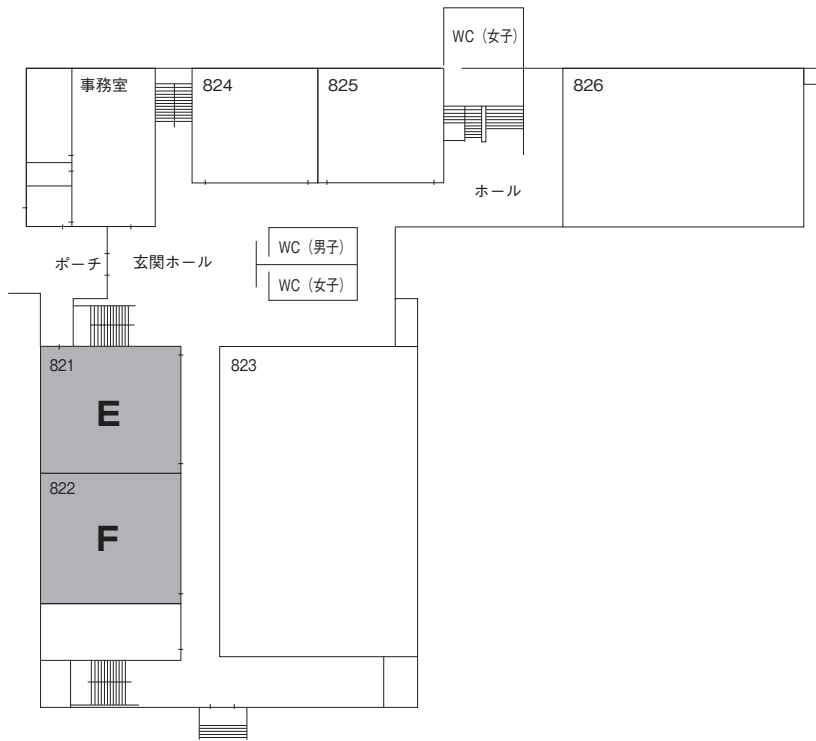
第6 イベント会場

2階

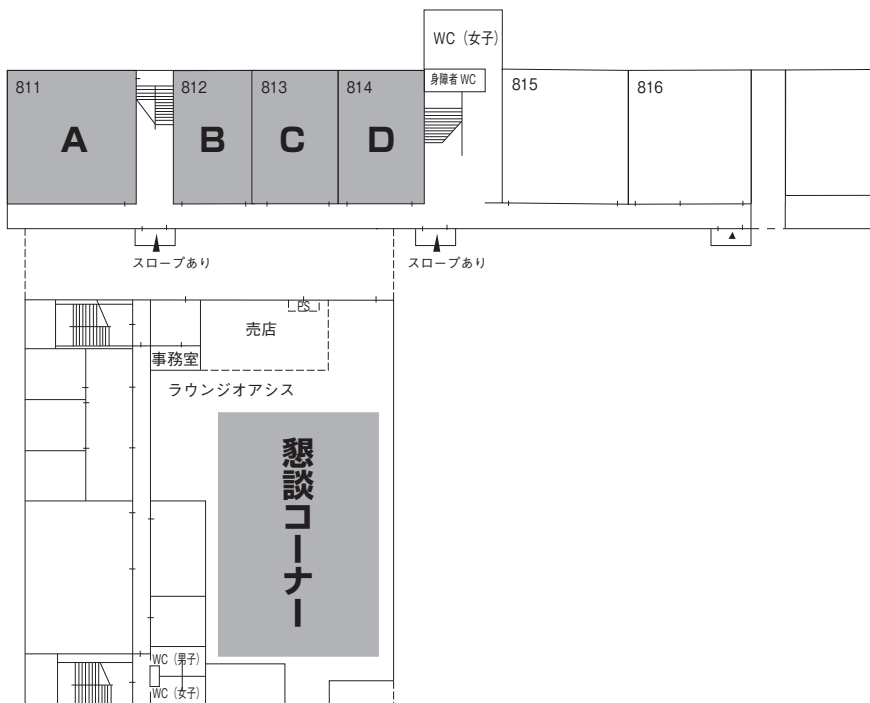


8号館 (その1)

2階

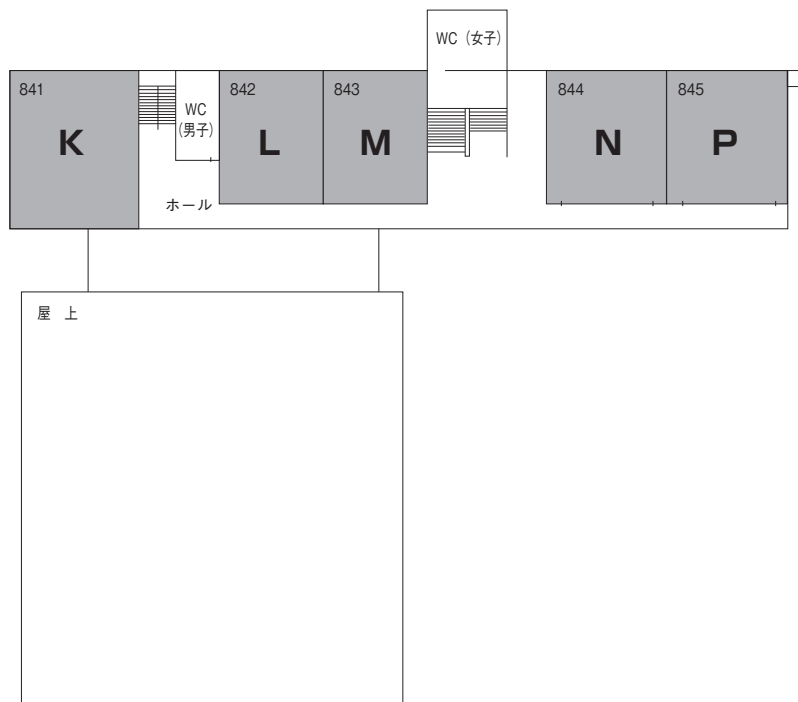


1階

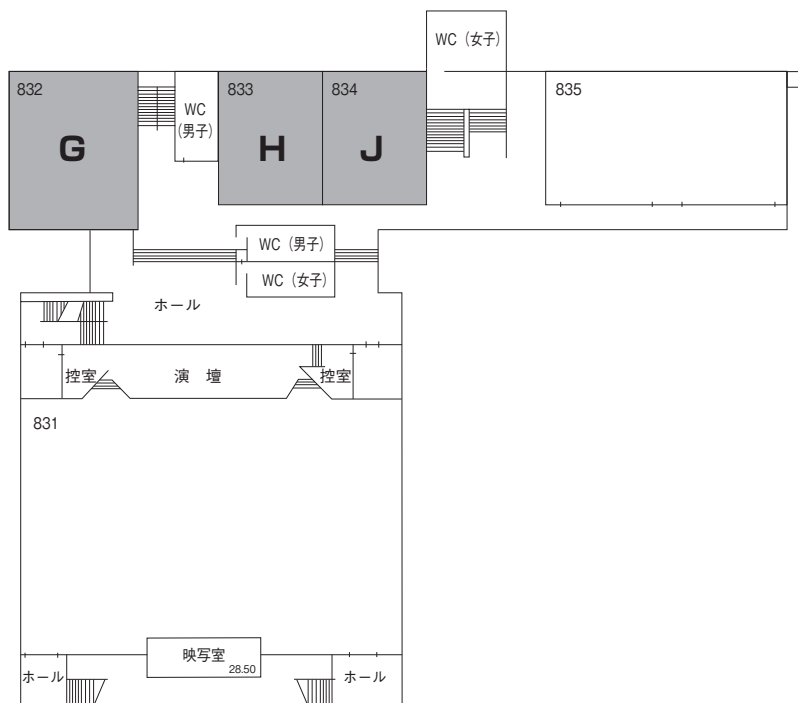


8号館 (その2)

4階



3階



FIT2006情報アラカルト

〔総受付(インフォメーションコーナー)〕 ヘリオスプラザ(60周年記念館)1,2F
 ・当日参加章引渡(事前受付)・当日参加受付, 懇親会参加受付・懇談等各種コーナー

〔本部・手荷物預り所〕 ヘリオスプラザ(60周年記念館)2F
 臨時電話(FAX兼用)092-871-6708(大会期間中)
 落し物,忘れ物は本部にお問い合わせ下さい。

〔当日聴講参加費〕 (参加章・CD-ROMを含む)
 会 員：8,500円(予約7,500円) 学生：無料(プログラム,参加章のみ)
 非会員：17,000円(予約15,000円) ※学生へのCD-ROM販売価格 2,500円

〔講演件数〕

講演種別	イベント企画			査読付き論文	一般講演論文
	研究会提案型	委員会提案型	現地提案型		
件 数	21	4	1	120	697

〔FIT2005ヤングリサーチャー賞/FIT2006論文賞 表彰式〕

開催日：9月6日(水) 17:30~18:00 (予定)
 会 場：文系センター棟 16F スカイラウンジ

〔懇親会 船井業績賞/船井ベストペーパー賞 表彰式〕

開催日：9月6日(水) 18:00~19:30(予定)
 会場：文系センター棟16F スカイラウンジ
 参加受付は「総受付(ヘリオスプラザ(60周年記念館))」および当日, 懇親会場でも行います。

★お知らせ事項

〔キャンパスの開門と受付開始時間〕

キャンパス開門は8:00です。FIT2006会期中の受付開示時間は8:10からとなります。
 受付場所：ヘリオスプラザ(60周年記念館)2F

〔連絡掲示板〕

大会関係の周知・伝言はヘリオスプラザの総受付に設置する「大会連絡掲示板」に
 掲示しますのでご注意ください。各会場への個別の連絡は致しません。

〔無線LANコーナー〕 ヘリオスプラザ(60周年記念館)1Fに準備します。

無線LANコーナ用にゲストアカウントを用意しますが, このアカウントでは HTTPしか利用できません。
 (メールもWEBメールを使っていたいただくことになります)。
 また現在設置されている数台のパソコン(有線接続)は, 外部の方は利用できません。

〔食堂・売店〕 期間中の営業時間

食堂：学会会館1F 第一食堂	9:00~19:00
学会会館2F 第二食堂	11:00~14:00
文系センター棟16F スカイラウンジ	11:00~14:00
図書館ゼミ棟1F レストランガーデン	11:00~14:00
売店：学会会館1F	9:00~14:30

〔駐車場〕 キャンパス内は駐車禁止です。

〔喫煙について〕 キャンパス内は禁煙です。指定場所をお願いします。

★今後の大会予定

FIT(情報科学技術フォーラム)2007

会期：2007年9月5日(水)~7日(金) 会場：中京大学 豊田キャンパス(豊田市)

2006年総合大会(電子情報通信学会)

会期：2007年3月20日(火)~23日(金) 会場：名城大学 天白キャンパス(名古屋市)

第69回全国大会(情報処理学会)

会期：2007年3月6日(火)~8日(木) 会場：早稲田大学 大久保キャンパス(新宿区)

FIT2006 プログラム概要

日	会場 時間	第1イベント会場 A棟1階 AB01教室	第2イベント会場 A棟1階 AB02教室	第3イベント会場 A棟1階 A101教室	第4イベント会場 A棟2階 A202教室	第5イベント会場 A棟2階 A203教室	
9月5日 (火)	9:00	9:00 - 12:00 A-2 イベント企画 ICTがもたらす 観光産業の変貌	10:00 - 17:20 C-1 イベント企画 社会情報基盤の 構築と課題	9:00 - 12:00 A-7 イベント企画 生体機能センシング システムの現状とその展開	9:00 - 12:00 A-20 イベント企画 オープンソース ソフトウェアの 教育活用	10:00 - 12:00 FIT2006 論文賞セッション (午前の部 4件)	
	12:00	24		38	49		
	13:00	13:00 - 16:30 A-13 イベント企画 ゲーム情報学の新しい形	13:00 - 17:30 A-5 イベント企画 異文化コラボレーション シンポジウム	13:00 - 17:30 A-9 イベント企画 リコンフィギャラブルLSI 最前線	13:00 - 17:00 FIT2006 論文賞セッション (午後の部 6件)		
	15:00 15:30	25	30	40	50	ベストペーパー賞 選考会議	
17:30							
9月6日 (水)	9:00	9:30 - 12:00 B-2 イベント企画 情報関連学会の国際連携: IFIPやIEEE-CSと いかに協調すべきか?	9:00 - 12:00 A-14 イベント企画 システムソフトウェア最前線	9:00 - 12:00 A-12 イベント企画 音声・マルチモーダル 対話記述とその標準化	9:00 - 12:00 A-10 イベント企画 頑張れ日の丸テクノロジー	9:00 - 12:00 A-11 イベント企画 ウェブアルゴリズム -サイバー空間のための IT技術の新潮流-	
	12:00	27	34	42	52	61	
	13:00	13:00 - 14:00 招待講演 Deborah Cooper (IEEE-CS会長) The Computer Society Outreach Initiative	/	/	/	/	/
	14:00	14:00 - 15:00 船井業績賞受賞記念講演 嶋 正利 (ビジュアルテクノロジー) マイクロプロセッサの誕生と 創造的開発力	/	/	/	/	/
	15:00	23	/	/	/	/	/
15:30	15:00 - 17:30 船井業績賞記念 パネル討論 マイクロプロセッサの アーキテクチャは どのようにして 決定されたか?	15:30 - 17:30 A-6 イベント企画 情報・システム研究開発の 今昔(いまむかし) - 若者の夢をどこまで 膨らませるか -	15:30 - 17:30 A-1 イベント企画 マルチメディア, VRの先にあるものは? 3Dの次にくるものは?	15:30 - 17:00 A-16 イベント企画 災害時安否確認システムの 現状と今後の課題	15:30 - 17:30 A-21 イベント企画 ビジュアル最新動向 2006		
17:30	23	35	44	54	63		
9月7日 (木)	9:00	9:00 - 12:00 A-19 イベント企画 コンピュータ外科手術に おける情報処理 -安全・確実な未来型 精密治療のために-	9:00 - 12:00 A-17 イベント企画 生命ネットワークを コンピュータで見るために	9:00 - 11:20 A-4 イベント企画 "統計翻訳"は どこまで可能か	9:00 - 12:00 B-1 イベント企画 夢を与える情報教育とは?	/	
	12:00	28	36	45	55		
	13:00	13:00 - 16:00 A-8 イベント企画 どこまでシンクロ可能か? IT・経営、2つの 「ビジネスモデル」	13:00 - 15:50 A-3 イベント企画 パターン認識・ メディア理解 アルゴリズムコンテスト	13:00 - 16:00 A-15 イベント企画 これからが面白い プロセッサアーキテクチャ	13:00 - 16:00 B-3 イベント企画 IT分野から激震が起こる!		
16:00	29	37	46	59			

※右下の数字は当プログラム冊子の掲載ページ番号です。

日	会場 時間	第6イベント会場 A棟7階 A715教室	A会場 8号館1階 811教室	B会場 8号館1階 812教室	C会場 8号館1階 813教室	D会場 8号館1階 814教室	E会場 8号館2階 821教室	F会場 8号館2階 822教室						
9月5日(火)	9:00	1	センサネットワーク	リコンフィギャラブルシステム	VRとシミュレーション	ヒューマンコミュニケーション基礎(1)	三次元画像処理	顔画像処理						
	12:00		長坂 康史 (広島工大)	久我 守弘 (熊本大)	柳田 康幸 (名城大)	伊藤 京子 (阪大)	岡田 稔 (早大)	榎田 修一 (九工大)						
	13:00	2	マイニング・オブジェクト	システムLSI設計技術	e-learning	ヒューマンコミュニケーション基礎(2)	トラッキング	パターン認識基礎						
	15:00		島川 博光 (立命館大)	小松 聡 (東大)	藤原 康宏 (岩手県大)	青木 義満 (芝浦工大)	加藤 文和 (和歌山大)	大城 英裕 (大分大)						
15:30	3	RFID・位置情報	コンピュータシステム	情報技術教育ツール	ウェアラブルと空間情報処理	画像処理システム	パターン認識応用							
17:30		井上 創造 (九大)	安里 彰 (富士通研)	中村 直人 (千葉工大)	木村 篤信 (NTT)	長原 一 (阪大)	有木 康雄 (神戸大)							
9月6日(水)	9:00	4	ネットワークセキュリティ	ディベンダブルシステム	画像処理・CG教育利用	ヒューマンインタフェース(1)	人物追跡・解析	文字文書						
	12:00		寺田 真敏 (日立)	温 暁青 (九工大)	赤倉 貴子 (東理大)	岡田 英彦 (京産大)	来海 雅俊 (オムロン)	内田 誠一 (九大)						
	13:00	5	組込みシステム	15:10 - 17:30 異文化 コラボレーション	コミュニケーションと 教育	ヒューマン インタフェース(2)	画像処理応用	メディア検索・ 生成						
	14:00								山崎 進 (福岡知的 クラスター研)	中西 英之 (阪大)	森田 裕介 (長崎大)	大向 一輝 (国立情報学研)	倉爪 亮 (九大)	井手 一郎 (名大)
	15:00								M 87	K 81	K 81	K 82	I 76	I 76
17:30	6	10:00 - 16:00	セキュリティ基礎と 応用	ヒューマン 情報処理(1)	福祉情報工学 (WIT)(1)	ヒューマン インタフェース(3)	三次元復元	メディア解析						
12:00		A-18 イベント企画	土井 洋 (情報セキュリティ大)	喜多 伸一 (神戸大)	中山 剛 (国立身体障害者 リハビリセンター)	水口 充 (NICT)	藤木 淳 (産総研)	中村 裕一 (京大)						
9月7日(木)	13:00	7	日常生活を変える サイバーワールド 技術とは? (デモ展示つき)	セキュリティ要素	ヒューマン 情報処理(2)	福祉情報工学 (WIT)(2)	ヒューマン インタフェース(4)	領域抽出	画像修復・ 画像符号化					
	16:00		岩村 恵市 (東理大)	加藤 博一 (阪大)	縄手 雅彦 (島根大)	鈴木 紀子 (NICT/ATR)	羽下 哲司 (三菱電機)	有田 大作 (九大)						

※表中の中央下のアルファベットは分野を表します。

プログラム概要

G会場 8号館3階 832教室	H会場 8号館3階 833教室	J会場 8号館3階 834教室	K会場 8号館4階 841教室	L会場 8号館4階 842教室	M会場 8号館4階 843教室	N会場 8号館4階 844教室
学習アルゴリズムと 複雑系 嶋田総太郎 (明大) F 71	景観 シミュレーション 馬場 雅志 (広島市大) J 77	画像符号化・ 評価 米山 暁夫 (KDDI研) J 77	プログラミング 教育支援 中野 由章 (千里金蘭大) N 88	ネットワーク技術 山井 成良 (岡山大) L 84	モバイルモビリティと サービス 竹下 敦 (NTTドコモ) L 84	行動パターン・ 検知 廣川佐千男 (九大) D 69
オントロジ 桑原 和宏 (立命館大) F 72	キャラクタ シミュレーション 乃万 司 (九工大) J 77	H.264/AVC 境田 慎一 (NHK技研) J 78	実習支援システム 板東 宏和 (桜美林大) N 88	情報検索 門林 雄基 (奈良先端大) L 84	アドホック ネットワーク 北形 元 (東北大) L 84	データベース・ ストレージ 金子 邦彦 (九大) D 69
AI基礎・GA 市瀬龍太郎 (国立情報学研) F 72	CG応用 斎藤 隆文 (農工大) J 78	画像符号化 坂東 幸浩 (NTT) J 78	ICTと 社会システム 山崎 松男 (九州東海大) N 88	ネットワーク コンピューティング 樋地 正浩 (日立東日本 ソリューションズ) L 84	ITS 堀内 浩規 (KDDI研) L 85	データ解析 渡辺知恵美 (お茶の水女子大) D 69
知能と複雑系 小野 哲雄 (はこだて未来大) F 72	CGレンダリング 齋藤 豪 (東工大) J 78	高解像・ 3次元映像 藤井 俊彰 (名大) J 78	教育・学習支援 西田 知博 (大阪学院大) N 88	情報システム 安東 孝二 (東大) L 85	トラフィック測定と 品質制御 地引 昌弘 (NEC) L 85	情報検索(1) 石田 栄美 (駿河台大) D 69
/	/	/	/	/	/	/
/	/	/	/	/	/	/
ゲーム情報学 中村 貞吾 (九工大) F 72	エンタテインメント コンピューティング 杉本 雅則 (東大) J 78	暗号化・ 電子透かし 如澤 裕尚 (NTTレゾナント) J 79	システム開発教育 中平 勝子 (長岡技科大) N 88	コミュニケーション システム 井上 智雄 (筑波大) L 85	センサネットワーク 北須賀輝明 (九大) L 85	分類 古川 哲也 (九大) D 69
データマイニング・ Web 北村 泰彦 (関西学院大) F 72	映像編集 小池 淳 (KDDI研) J 79	画像解析 内海 章 (ATR) J 79	人文学研究・ 教育へのIT応用 吉岡 亮衛 (国立教育政策研) N 89	Webコンテンツと 協調学習 宗森 純 (和歌山大) L 85	ストリーミングと 仮想空間 佐藤 文明 (東邦大) L 86	Web・オントロジ 酒井 哲也 (東芝) D 70
エージェント・学習 栗原 聡 (阪大) F 73	画像処理 諸岡 健一 (九大) J 79	画像処理システム 谷口倫一郎 (九大) J 79	e-Learning. 情報教育 田中 雅章 (鈴鹿短大) N 89	ホームネットワーク 重野 寛 (慶大) L 86	無線通信制御と QoS 藤野 信次 (富士通研) L 86	情報検索(2) 岸田 和明 (慶大) D 70

FIT2006 プログラム概要

日	会場 時間	P会場	Q会場	R会場	S会場	T会場	
		8号館4階 845教室	A棟7階 A710教室	A棟7階 A711教室	A棟7階 A712教室	A棟7階 A713教室	
9月5日 (火)	9:00 12:00	1 オフィスシステム 一般 若原 俊彦 (福岡工大) O 89	ニューロ コンピューティング (1) 麻生 英樹 (産総研) H 73	情報検索とWWW 村田 真樹 (NICT) E 70	ソフトウェア工学 古川 善吾 (香川大) B 67	アルゴリズム(1) 高橋 淳也 (宮城大) A 66	
		2 社会情報 システム(1) 金田 重郎 (同志社大) O 89	ニューロ コンピューティング (2) 和久屋 寛 (佐賀大) H 73	対話と質問応答 梶井 文人 (三重大) E 70	スケジューリングと ネットワーク 緑川 博子 (成蹊大) B 67	アルゴリズム(2) 有村 博紀 (北大) A 66	
	15:30 17:30	3 社会情報 システム(2) 神沼 靖子 (無所属) O 89	医用画像(1) 金子 邦彦 (九大) H 74	自然言語処理 (インターフェースと 応用) 乾 健太郎 (奈良先端大) E 71	高性能計算 吉田 明正 (東邦大) B 67	プログラミング 西崎 真也 (東工大) A 66	
		4 情報システムの 設計・評価 市川 照久 (静岡大) O 90	バイオ情報学 石井 信 (奈良先端大) H 74	自然言語処理 (解析) 井佐原 均 (NICT) E 71	ソフトウェア・ サイエンス 甲斐 宗徳 (成蹊大) B 67	数理モデル化と 問題解決(1) 鈴木 泰博 (名大) A 66	
	9月6日 (水)	13:00					
		14:00					
15:00							
15:30 17:30	5 ITと経営 (モデリング, BP) 松田 順 (綜研テクニクス) O 90	医用画像(2) 田中 和明 (九工大) H 74	機械翻訳 中岩 浩巳 (NTT) E 71	OSと システム構成法 高汐 一紀 (慶大) B 67	数理モデル化と 問題解決(2) 三木 光範 (同志社大) A 66		
	9:00 12:00	6 計算機 アーキテクチャと その応用 井上 弘士 (九大) M 87	MEとバイオ サイバネティクス 伊賀崎伴彦 (熊本大) H 74	自然言語処理 (知識処理) 富浦 洋一 (九大) E 71	ファイルシステムと ストリーミング 北須賀輝明 (九大) B 68	音声・音楽(1) 大川 茂樹 (千葉工大) G 73	
13:00 16:00		7 Web利用技術 川越 恭二 (立命館大) D 70				音声・音楽(2) 大淵 康成 (日立製作所) G 73	

講演論文集の内容

発行日 平成 18 年 8 月 21 日

情報科学技術レターズ（査読付き論文）

コンピュータ関連、データベース関連、画像関連、ネットワーク関連

一般講演論文集 第 1 分冊（コンピュータ関連）

A 分野：モデル・アルゴリズム・プログラミング

B 分野：ソフトウェア

C 分野：ハードウェア

一般講演論文集 第 2 分冊（データベース関連）

D 分野：データベース

E 分野：自然言語

F 分野：人工知能・ゲーム

G 分野：音声・音楽

H 分野：生体情報科学

一般講演論文集 第 3 分冊（画像関連）

I 分野：画像認識・メディア理解

J 分野：グラフィクス・画像

K 分野：ヒューマンコミュニケーション&インタラクション

一般講演論文集 第 4 分冊（ネットワーク関連）

L 分野：ネットワークコンピューティング

M 分野：アーキテクチャ・ユビキタス・セキュリティ

N 分野：教育・人文科学

O 分野：情報システム

講演論文集 CD-ROM

上記全論文およびプログラムを収録

FIT 委員名簿

FIT 推進委員会

ISS 委員長	村岡洋一 (早大)
IPJSJ 委員長	中島秀之 (はこだて未来大)
ISS 委員	森本正志 (NTT), 佐藤 敦 (NEC), 松居辰則 (早大), 大隈隆史 (産総研)
HCG 委員	大和淳司 (NTT)
IPJSJ 委員	阿草清滋 (名大), 村山優子 (岩手県大), 橋田浩一 (産総研), 今井 浩 (東大)
実行委員長	雨宮真人 (九大/FIT2006), 末永康仁 (名大/FIT2007)
プログラム委員長	湯淺太一 (京大/FIT2006), 山下雅史 (九大/FIT2007)

FIT2006 実行委員会

委員長	雨宮真人 (九大)
幹 事	佐藤 敦 (NEC / ISS), 妹尾義樹 (NEC / IPJSJ)
会計幹事	原田裕明 (富士通研 / ISS), 阿草清滋 (名大 / IPJSJ)
ISS 委員	廣田豊彦 (九産大), 梶原信樹 (NEC), 神崎享子 (NICT), 鈴木 讓 (阪大)
HCG 委員	中山 剛 (国立身障者リハビリセンター)
IPJSJ 委員	堀田一弘 (電通大), 岸田和明 (駿河台大), 堀内靖雄 (千葉大), 石井 信 (奈良先端大), 向川康博 (阪大), 佐藤裕一 (富士通研), 地引昌弘 (NEC), 多田 充 (千葉大), 井出 明 (近畿大), 阿部昭博 (岩手県大)
委員 (現地)	首藤公昭 (福岡大), 森元 逞 (福岡大)

FIT2006 プログラム委員会

委員長	湯淺太一 (京大)
幹 事	森本正志 (NTT / ISS), 橋田浩一 (産総研 / IPJSJ)
ISS 委員	鈴木 優 (立命館大), 大川茂樹 (千葉工大), 麻生英樹 (産総研), 佐藤真一 (NII), 米山曉夫 (KDDI 研), 神田崇行 (ATR), 谷本茂明 (NTT), 伊藤彰則 (東北大)
HCG 委員	米村俊一 (NTT)
IPJSJ 委員	西崎真也 (東工大), 山本里枝子 (富士通研), 小松 聡 (東大), 森 辰則 (横浜国大), 伊藤毅志 (電通大), 金子 聡 (日本 IBM), 佐渡一広 (群馬大)

FIT2006 担当委員

ISS 委員	村山伸樹 (熊本大), 谷本茂明 (NTT), 米山曉夫 (KDDI 研), 神崎享子 (NICT), 梶原信樹 (NEC), 田中圭介 (東工大), 栗原 聡 (阪大), 草刈圭一朗 (名大), 鈴木 優 (立命館大), 佐藤真一 (NII), 細川利典 (日大), 麻生英樹 (産総研), 廣田豊彦 (九産大), 大川茂樹 (千葉工大), 中村直人 (千葉工大), 増谷佳孝 (東大), 松田 順 (綜研テクニックス), 久我守弘 (熊本大), 堀川健史 (NTT), 鈴木 讓 (阪大), 大田友一 (筑波大), 山下直美 (NTT), 岡本秀輔 (成蹊大), 神田崇行 (ATR), 峯 恒憲 (九大), 三宅 優 (KDDI 研)
HCG 委員	米村俊一 (NTT), 深山 篤 (NTT), 井原雅行 (NTT), 中山 剛 (国立身障者リハビリセンター)
IPJSJ 委員	梅谷俊治 (電通大), 堀田一弘 (電通大), 佐藤周行 (東大), 山本里枝子 (富士通研), 西崎真也 (東工大), 高汐一紀 (慶大), 中村 宏 (東大), 小松 聡 (東大), 有次正義 (群馬大), 岸田和明 (駿河台大), 森 辰則 (横浜国大), 根岸寛明 (富士通), 大淵康成 (日立), 堀内靖雄 (千葉大), 今井倫太 (慶大), 伊藤毅志 (電通大), 向川康博 (阪大), 佐藤裕一 (富士通研), 坂東幸浩 (NTT), 新西誠人 (リコー), 関谷貴之 (東大), 地引昌弘 (NEC), 金子 聡 (日本アイビーエム), 藤野信次 (富士通研), 戸田真志 (はこだて未来大), 重野 寛 (慶大), 多田 充 (千葉大), 佐渡一広 (群馬大), 鈴木卓治 (国立歴史民俗博物館), 井出 明 (近畿大), 阿部昭博 (岩手県大), 久保田浩司 (NTT-AT), 並木美太郎 (農工大), 関口大陸 (東大), 石井 信 (奈良先端大)

FIT2006 現地実行委員会

委員長	首藤公昭 (福岡大)
副委員長	荒木啓二郎 (九大)
幹 事	森元 逞 (福岡大)
委 員	荒牧重登 (福岡大), 吉村賢治 (福岡大), Vasily Moshnyaga (福岡大), 鶴田直之 (福岡大), 鶴岡知昭 (福岡大), 山下雅史 (九大), 日下部茂 (九大), 金子邦彦 (九大), 末次 正 (福岡大)

ISS : (社) 電子情報通信学会情報・システムサイエティ
 HCG : (社) 電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ
 IPJSJ : (社) 情報処理学会

このたびの FIT 開催にあたりましては、福岡大学様より貴大学七隈キャンパスを会場として無償提供戴き誠にありがとうございました。ここに厚くお礼申し上げます。
 FIT 推進委員会

ーイベント企画の御案内ー

■招待講演

第1 イベント会場 (A棟 1F AB01) 6日 (水) 13:00-14:00
「The Computer Society Outreach Initiative」 Deborah Cooper (IEEE-CS 会長)

■特別講演 (船井業績賞受賞記念講演)

第1 イベント会場 (A棟 1F AB01) 6日 (水) 14:00-15:00
「マイクロプロセッサの誕生と創造的開発力」 嶋 正利 (ビジュアルテクノロジー)

■船井業績賞記念パネル討論

第1 イベント会場 (A棟 1F AB01) 6日 (水) 15:30-17:30
「マイクロプロセッサのアーキテクチャはどのようにして決定されたか?」

■イベント企画

第1 イベント会場 (A棟 1F AB01)

- ・ 5日 (火) 9:00-12:00 ICT がもたらす観光産業の変貌
- ・ 5日 (火) 13:00-16:30 ゲーム情報学の新しい形
- ・ 6日 (水) 9:30-12:00 情報関連学会の国際連携:IFIP やIEEE-CS といかに協調すべきか?
- ・ 7日 (木) 9:00-12:00 コンピュータ外科手術における情報処理
-安全・確実な未来型精密治療のために-
- ・ 7日 (木) 13:00-15:50 どこまでシンクロ可能か? IT・経営, 2つの「ビジネスモデル」

第2 イベント会場 (A棟 1F AB02)

- ・ 5日 (火) 10:00-17:20 社会情報基盤の構築と課題
- ・ 6日 (水) 9:00-12:00 システムソフトウェア最前線
- ・ 6日 (水) 15:30-17:30 情報・システム研究開発の今昔 (いまむかし)
-若者の夢をどこまで膨らませるか-
- ・ 7日 (木) 9:00-12:00 生命ネットワークをコンピュータで見るために
- ・ 7日 (木) 13:00-15:50 パターン認識・メディア理解アルゴリズムコンテスト

第3 イベント会場 (A棟 1F A101)

- ・ 5日 (火) 9:00-12:00 生体機能センシングシステムの現状とその展開
- ・ 5日 (火) 13:00-17:30 異文化コラボレーションシンポジウム
- ・ 6日 (水) 9:00-12:00 音声・マルチモーダル対話記述とその標準化
- ・ 6日 (水) 15:30-17:30 マルチメディア, VR の先にあるものは? 3Dの次にくるものは?
~ 3E(=Expected Enhancement of Experiences) が拓く近未来生活~
"統計翻訳" はどこまで可能か
- ・ 7日 (木) 9:00-11:20 これからが面白いプロセッサアーキテクチャ
- ・ 7日 (木) 13:00-16:00

第4 イベント会場 (A棟 2F A202)

- ・ 5日 (火) 9:00-12:00 オープンソースソフトウェアの教育活用
- ・ 5日 (火) 13:00-17:30 リコンフィギャラブル LSI 最前線
- ・ 6日 (水) 9:00-12:00 頑張れ日の丸テクノロジー
- ・ 6日 (水) 15:30-17:00 災害時安否確認システムの現状と今後の課題
- ・ 7日 (木) 9:00-12:00 夢を与える情報教育とは?
- ・ 7日 (木) 13:00-16:00 IT 分野から激震が起こる!
~産業界から大学への「直接行動」が始まった~

第5 イベント会場 (A棟 2F A203)

- ・ 5日 (火) 10:00-17:00 FIT2006 論文賞セッション
- ・ 6日 (水) 9:00-12:00 ウェブアルゴリズム - サイバー空間のための IT 技術の新潮流 -
- ・ 6日 (水) 15:30-17:30 ビジュアル最新動向 2006

第6 イベント会場 (A棟 7F A715)

- ・ 7日 (木) 10:00-16:00 日常生活を変えるサイバーワールド技術とは? (デモ展示つき)

－会場別イベント企画プログラム－

第1 イベント会場 (A棟 1F AB01)			
日	時間	内 容	
5 日 (火)	9:00-12:00	ICT がもたらす観光産業の変貌 [9:00-10:00] 講演：観光情報学 - マルチエージェントシステムアプローチ - 大内 東 (北大)	
		[10:10-12:00] パネル討論：ICT が観光に及ぼした衝撃 司 会：井出 明 (近畿大) パネリスト：麻生 憲一 (奈良県大), 内田 晶夫 (ANA 総研), 大内 東 (北大), 加藤 裕三 (博多エクセルホテル東急), 関口 伸一 (トップツアー), 山口 一朗 (国土交通省九州運輸局)	
	13:00-16:30	ゲーム情報学の新しい形 [13:00-14:00] 招待講演：ゲームと芸術 飯田 弘之 (北陸先端大)	
		[15:00-17:00] パネル討論：ゲーム情報学の次のターゲットは？ 司 会：伊藤 毅志 (電通大) パネリスト：大橋 健 (九工大), とつげき東北 (インターネット麻雀研究家), 中村 貞吾 (九工大), 松原 仁 (はこだて未来大)	
6 日 (水)	9:30-12:00	情報関連学会の国際連携：IFIP や IEEE-CS といかに協調すべきか？ [9:30 - 9:40] 趣旨説明 青山 幹雄 (南山大) [9:40-10:05] 講演 1：IFIP および海外の情報関連学会の動向 齊藤 忠夫 (トヨタ IT 開発センター) [10:05-10:30] 講演 2：情報処理学会における情報教育活動の現状と国際連携 笈 捷彦 (早大) [10:30-10:55] 講演 3：情報処理学会の現状と国際連携 中島 秀之 (はこだて未来大) [11:30-12:00] パネル討論：日本の情報関連学会はいかに国際連携すべきか？ 司 会：青山 幹雄 (南山大) パネリスト：笈 捷彦 (早大), 齊藤 忠夫 (トヨタ IT 開発センター), 中島 秀之 (はこだて未来大)	
		13:00-14:00	招待講演：The Computer Society Outreach Initiative Deborah Cooper (IEEE-CS 会長)
		14:00-15:00	特別講演 (船井業績賞受賞記念講演)：マイクロプロセッサの誕生と創造的開発力 嶋 正利 (ビジュアルテクノロジー)
		15:30-17:30	船井業績賞記念パネル討論：マイクロプロセッサのアーキテクチャはどのようにして決定されたか？ 司 会：横田 英史 (日経 BP) 特別ゲスト：嶋 正利 (ビジュアルテクノロジー) パネリスト：金子 博昭 (NEC エレクトロニクス), 長谷川 淳 (ルネサステクノロジ), 増淵 美生 (東芝セミコンダクター社)
		7 日 (木)	9:00-12:00
	13:00-15:50		
[13:10-13:30] 講演 1：経営とビジネスモデル 吉田 憲正 (NTT データ九州)			
[13:35-13:55] 講演 2：どこまでシンクロ可能か？ IT・経営, 2つの「ビジネスモデル」(仮題) 竹村 司 (日本 IBM)			
[14:00-14:20] 講演 3：どこまでシンクロ可能か？ IT・経営, 2つの「ビジネスモデル」(仮題) 松本 正雄 (九州産業大)			
[14:30-15:50] パネル討論：どこまでシンクロ可能か？ IT・経営, 2つの「ビジネスモデル」(仮題) 司 会：岩田 祐一 (NTT 東日本) パネリスト：竹村 司 (日本 IBM), 松本 正雄 (九州産業大), 吉田 憲正 (NTT データ九州)			

第2 イベント会場 (A棟 1F AB02)			
日	時間	内容	
5 日 (火)	10:00-17:20 [10:00-12:00]	社会情報基盤の構築と課題 第1部 社会情報基盤の構築に向けた大学の取組み [10:00-10:30] 講演1:九州大学全学共通ICカードにおける新しい個人識別のしくみ 馬場 謙介 (九大) [10:30-11:00] 講演2:新しい地域情報経済プラットフォームと新キャンパス周辺地域における社会実験 石田 浩二 (九大)	
	[13:00-15:30]	[11:00-11:30] 講演3:大学図書館における新しい取組み ～プライバシー保護と利便性向上の両立を目指して～ 池田 大輔 (九大)	
		[11:30-12:00] 講演4:福岡大学の情報環境整備 吉村 賢治 (福岡大)	
		[13:00-13:30] 講演5:社会基盤としてのRFID 井上 創造 (九大)	
		[13:30-14:00] 講演6:生体(バイOMETリック)認証を活用した情報基盤技術 上繁 義史 (九州システム情報技研)	
	[14:00-14:30]	講演7:フォーマルな社会的行為のための情報基盤の構築とプライバシー 山崎重一郎 (近畿大)	
		[14:30-15:30] 基調講演:ディベンダビリティとポストインターネット 市川 晴久 (NTT)	
	[15:50-17:20]	第3部 パネルディスカッション:社会情報基盤構築の課題 司 会:安浦 寛人 (九大) パネリスト:荒木啓二郎 (九大), 市川 晴久 (NTT), 丹羽 邦彦 (JST), 山崎重一郎 (近畿大)	
	6 日 (水)	9:00-12:00	システムソフトウェア最前線 [9:00 - 9:10] 開会挨拶 加藤 和彦 (筑波大) [9:10-10:00] 講演1: Web アプリケーション開発最前線 山本 泰宇 (サイボウズ) [10:10-11:00] 講演2: オーバーレイネットワーク研究開発の最前線 門林 雄基 (奈良先端大) [10:10-11:00] 講演3: PlanetLab と Private PlanetLab 中尾 彰宏 (東大)
		15:30-17:10	情報・システム研究開発の今昔(いまむかし) - 若者の夢をどこまで膨らませるか - [15:30-15:50] 題材発表1: グローバル動きを用いた高速動画画像モザイク手法 清水 智行 (KDDI 研)
[15:50-16:20] 意見交換1: 差別化技術のポイントは、具体化はどこまで、応用展開の可能性は、 どこで儲けるか・・・			
[16:20-16:40] 題材発表2: デジタルカメラによる文書画像検索 中居 友弘 (大阪府大)			
[16:40-17:10] 意見交換2: 新規性のポイントは、難しさはどこに、解決の糸口は、オモロイ展開は・・・			
7 日 (木)		9:00-12:00	生命ネットワークをコンピュータで見るために [9:00-10:00] 講演1: ロバストな生命システム解明のためのコンピュータ表現法 五斗 進 (京大) [10:00-11:00] 講演2: パスウェイデータベースにおける可視化と相互作用予測 小田夏奈江 (東京医歯大) [11:00-12:00] 講演3: 細胞内シグナル伝達系の解明に向けての情報科学的アプローチ 吉本潤一郎 (沖縄科学技術研究基盤整備機構)
	13:00-15:50	パターン認識・メディア理解アルゴリズムコンテスト [13:00-13:05] 開会挨拶 村瀬 洋 (名大) [13:05-13:15] 課題概要説明, 審査結果発表 [13:15-13:20] 入賞者表彰 [13:20-14:50] 入賞者によるアルゴリズム紹介 [14:50-15:50] 特別講演: ビデオの切れ目をどう入れる? どう使う? - 映像インデクシング技術の動向と応用事例 - 森本 正志 (NTT)	

第3 イベント会場 (A棟 1F A101)			
日	時間	内 容	
5 日 (火)	9:00-12:00	生体機能センシングシステムの現状とその展開	
		[9:00-10:00] 講演 1: 感性バイオセンサの開発 都甲 潔 (九大)	
		[10:00-11:00] 講演 2: 人工視覚: ブレインマシーンインターフェイスのための並列ロボットビジョン 八木 哲也 (阪大)	
			[11:00-12:00] 講演 3: 人工内耳による音声言語情報入力とその中枢処理 ～ボジトロン断層法による機能解析～ 藤木 暢也 (田附興風会医学研究所北野病院)
	13:00-17:30	異文化コラボレーションシンポジウム	
		[13:00-13:40] 講演 1: 言語グリッドプロジェクトの課題 灘本 明代 (NICT)	
		[13:40-14:10] 講演 2: カーデザイナーの用いる言語の理解に向けて 原田 利宣 (和歌山大)	
		[14:10-14:40] 講演 3: トヨタデザインにおけるお客様満足度 No.1 の商品づくり 木村 徹 (名工大)	
		[14:40-15:10] 講演 4: 自動車開発における部門間の壁とブレークスルーについて 石井 明 (九大)	
			[15:10-17:30] パネル討論: 自動車業界における異部門間のコラボレーション 司 会: 平田 圭二 (NTT) パネリスト: 石井 明 (九大), 木村 徹 (名工大), 原田 利宣 (和歌山大) コメンテータ: 中西 英之 (阪大)
6 日 (水)	9:00-12:00	音声・マルチモーダル対話記述とその標準化	
		[9:00 - 9:30] 講演 1: 音声・マルチモーダル対話記述とその標準化 - 背景と期待 新田 恒雄 (豊橋技科大)	
		[9:30-10:00] 講演 2: 自動音声応答システム等における音声対話関連技術 甘粕 哲郎 (NTT)	
		[10:00-10:30] 講演 3: W3C における音声・マルチモーダルインタフェースへの取り組み 芦村 和幸 (W3C/慶大)	
		[10:30-11:20] 講演 4: 対話記述の研究動向と音声対話技術コンソーシアムにおける MMI 記述言語策定活動の紹介 荒木 雅弘 (京都工繊大), 西本 卓也 (東大), 桂田 浩一 (豊橋技科大)	
			[11:25-12:00] パネル討論: 音声・マルチモーダル対話記述および標準化における課題 司 会: 新田 恒雄 (豊橋技科大) パネリスト: 芦村 和幸 (W3C/慶大), 甘粕 哲郎 (NTT), 荒木 雅弘 (京都工繊大), 桂田 浩一 (豊橋技科大), 西本 卓也 (東大)
	15:30-17:30	マルチメディア, VRの先にあるものは? 3Dの次にくるものは? ～3E (= Expected Enhancement of Experiences) が拓く近未来生活～	
		[15:30-15:35] 開会挨拶 全 炳東 (千葉大)	
		[14:40-15:00] 招待講演 1: “Catma”, Foolishness and Intuition: Experience Designed? Sidney Fels (Univ. of British Columbia)	
		[15:05-15:25] 招待講演 2: ユーザ・エクスペリエンスのための物語性研究 桐山 孝司 (東京芸大)	
[15:30-15:50] 招待講演 3: 来場者参加型ムービーシアター -Future Cast System- 前島 謙宣 (早大)			
		[17:20-17:30] 閉会挨拶 全 炳東 (千葉大)	
7 日 (木)	9:00-11:20	統計翻訳はどこまで可能か	
		[9:00 - 9:30] 講演 1: ATR における統計翻訳 隅田英一郎 (ATR)	
		[9:30-10:00] 講演 2: NTT における統計翻訳 永田 昌明 (NTT)	
		[10:00-10:30] 講演 3: 黒橋研における統計翻訳 黒橋 禎夫 (京大)	
		[10:30-11:20] パネル討論: “統計翻訳”はどこまで可能か 司 会: 加藤 直人 (NHK 技研) パネリスト: 黒橋 禎夫 (京大), 隅田英一郎 (ATR), 永田 昌明 (NTT)	
	13:00-16:00	これからが面白いプロセッサアーキテクチャ	
		[13:00-13:20] 講演 1: これからが面白いプロセッサアーキテクチャ 吉瀬 謙二 (東工大)	
		[13:20-13:40] 講演 2: 余ってるんなら無駄遣いしましょう 佐藤 寿倫 (九大)	
		[13:40-14:00] 講演 3: マルチスレッドで次を占うと 大津 金光 (宇都宮大)	
		[14:00-14:20] 講演 4: 128 コア, 面白いけど作れるの? 使えるの? 売れるの? 井上 弘士 (九大)	
		[14:20-14:40] 講演 5: ソフトウェアもおもしろいこれからのプロセッサアーキテクチャ 木村 啓二 (早大)	
		[14:40-15:00] 講演 6: メディア処理で 128 コアを使い倒そう 京 昭倫 (NEC)	
		[15:00-15:20] 講演 7: コアの数なんてどうでもいい 五島 正裕 (東大)	
		[10:30-11:20] パネル討論: これからが面白いプロセッサアーキテクチャ 司 会: 中村 宏 (東大) パネリスト: 井上 弘士 (九大), 大津 金光 (宇都宮大), 吉瀬 謙二 (東工大), 木村 啓二 (早大), 京 昭倫 (NEC), 五島 正裕 (東大), 佐藤 寿倫 (九大)	

第4 イベント会場 (A棟 2F A202)		
日	時間	内 容
5	9:00-12:00	オープンソースソフトウェアの教育活用
		[9:00 - 9:10] 開会のご挨拶 佐々木 整 (拓殖大)
		[9:10 - 9:30] 講演 1 : OSS 普及推進政策について 田代 秀一 (情報処理推進機構)
		[9:30 - 9:50] 講演 2 : 初等中等教育における教育利用の現状 飯尾 淳 (三菱総研)
		[9:50-10:10] 講演 3 : 高等教育における OSS 教育利用とコミュニティ活動 志子田有光 (東北学院大)
		[10:10-10:30] 講演 4 : OSS コミュニティから見た教育市情 鎌滝 雅久 (OpenOffice.org 日本ユーザ会)
		[10:30-12:00] パネル討論 : ノイズとシグナルの違い 司 会 : 千葉 大作 (アルファシステムズ) パネリスト : 飯尾 淳 (三菱総研), 鎌滝 雅久 (OpenOffice.org 日本ユーザ会), 志子田有光 (東北学院大), 田代 秀一 (情報処理推進機構)
日 (火)	13:00-17:30	リコンフィギャラブル LSI 最前線
		[13:00-13:30] 講演 1 : リコンフィギャラブル LSI 総論 末吉 敏則 (熊本大)
		[13:30-14:15] 講演 2 : DAPDNA-IMS の性能と開発環境 (コンパイラ) 佐藤 友美 (アイビーフレックス)
		[14:15-15:00] 講演 3 : デジタルメディア向け再構成型プロセッサ FE-GA 伊藤 雅樹 (日立)
		[15:15-16:00] 講演 4 : Flex Power FPGA 小池 汎平 (産総研)
		[16:00-16:45] 講演 5 : VGLC (Variable Grain Logic Cell) アーキテクチャ RLD 尼崎 太樹 (熊本大)
		[16:45-17:30] 講演 6 : マトリックス構造の細粒度超並列 SIMD プロセッサ 有本 和民 (ルネサステクノロジ)
6 日 (水)	9:00-12:00	頑張れ日の丸テクノロジー
		[9:00 - 9:05] 講演会主旨説明 梶原 信樹 (NEC)
		[9:05 - 9:45] 講演 1 : iPod のきれいなボディを支える職人の技 小林 一夫 (小林研業)
		[9:50-10:10] 講演 2 : 世界最先端超小型 IC タグチップ「ミューチップ」の開発 宇佐美光雄 (日立)
	[10:25-10:40] (休憩 15分)	
	[10:40-11:20] 講演 3 : 音叉式高精度力センサの開発と世界最大の天体望遠鏡「すばる」への応用 小林 政明 (新光電子)	
	[11:20-12:00] 講演 4 : 人間の身体機能を強化する世界最先端ロボットスーツ HAL 宇佐美光雄 (日立)	
15:30-17:00	災害時安否確認システムの現状と今後の課題	
	[15:30-15:50] 講演 1 : 被災者安否確認システムの在り方に関する調査研究 海老名 毅 (NICT)	
	[15:50-16:10] 講演 2 : 安否情報を含めた総合防災情報システム構築例～岩手県宮古市の取り組み 山崎 正幸 (宮古市)	
[16:10-17:00] パネル討論 : 災害時安否確認システムの現状の課題と今後の展開 - 相互接続など 司 会 : 山崎 克之 (長岡技術科大) パネリスト : 伊藤 正憲 (NTT ドコモ), 今井 弘 (KDDI), 中山 雅哉 (東大), 湯瀬 裕昭 (静岡県大)		
7 日 (木)	9:00-12:00	夢を与える情報教育とは？
		[9:00 -11:05] I. 問題提起
		[9:00 - 9:05] 趣旨説明 雨宮 真人 (九大)
		[9:05 - 9:20] 1. 情報学の学問的意義 田中 克己 (京大)
		[9:20 - 9:30] 2. 大学全学教育における「情報学」教育について 渡辺 治 (東工大)
		[9:30 - 9:50] 3. 初等中等教育における「情報学」教育について 増澤 利光 (阪大), 綿越 貴久 (京都市立稲荷小学校)
		[9:50-10:25] 4. 高校教科「情報」について 高木 直史 (名大), 小原 格 (東京都立町田高校), 天良 和男 (東京都立駒場高校), 松尾 慶 (福岡県教育センター)
		[10:25-10:50] 5. 大学入試における「情報」科目の導入へ向けて 萩谷 昌己 (東大), 中森真理雄 (農工大)
[10:50-11:10] 6. 情報学教育に関する高大連携及び産学連携 青木 孝文 (東北大), 工藤 峰一 (北大)		
[11:10-12:00] II. 総合討論		

第4 イベント会場 (A棟 2F A202)		
日	時間	内容
7 日 (木)	13:00-16:00	IT分野から激震が起こる!～産業界から大学への「直接行動」が始まった～ [産業技術人材育成政策の針路] [13:05-13:20] ポジションステートメント1: イノベーション型大学への期待 白井 基晴 (経済産業省)
		[new model] [13:20-13:40] ポジションステートメント2: 『サイバー大学』の挑戦 吉村 作治 (サイバー大学)
		[13:40-14:00] ポジションステートメント3: 産学連携による大学院研究教育の改善への試み 山下勝比拡 (東芝)
		[14:00-14:20] ポジションステートメント4: 民間が生んだグローバルなネットワーク・IT教育 太田 順子 (シスコシステムズ)
		[new proposal] [14:20-14:35] ポジションステートメント5: ITスキル標準の活用は大学と企業をつなげる 小川 健司 (情報処理振興機構)
		[14:35-14:50] ポジションステートメント6: コンピテンシーによる新大学評価手法 山本 真司 (河合塾)
		[15:00-16:00] パネル討論: 大学ビックバンの仕掛けとは 司 会: 阪田 史郎 (千葉大) パネリスト: 太田 順子 (シスコシステムズ), 小川 健司 (情報処理振興機構), 白井 基晴 (経済産業省), 山下勝比拡 (東芝), 山本 真司 (河合塾), 吉村 作治 (サイバー大学)

第5 イベント会場 (A棟 2F A203)		
日	時間	内容
5 日 (火)	10:00-12:00	FIT2006 論文賞セッション (午前の部) [10:00-10:30] 講演1: DMDを用いた空間分割型可視光通信の基礎検討 北村 匡彦 (東大)
		[10:30-11:00] 講演2: Proposal of Dependable Clock Signal Distribution 三浦 幸也 (首都大)
		[11:00-11:30] 講演3: ダブル配列におけるキャッシュの効率化理 矢田 晋 (徳島大)
		[11:30-12:00] 講演4: 言語識別技術を応用した英語における母語話者文書・非母語話者文書の判別 青木さやか (九大)
	13:00-17:00	FIT2006 論文賞セッション (午後の部) [13:00-13:30] 講演5: 共起確率行列を用いた数式文字認識の誤り訂正法の評価 瀧口 祐介 (早大)
		[13:30-14:00] 講演6: MCMC法に基づく3次元環境情報を用いた複数人物追跡 大澤 達哉 (NTT)
		[14:00-14:30] 講演7: 単一周波数平面スペクトル拡張を利用した時間同期外し耐性を持つ動画電子透かし 山本 奏 (NTT)
		[14:30-15:00] 講演8: 楽譜記述言語 MusicXMLからの楽譜自動点訳システム 田村 直良 (横浜国大)
		[15:00-15:30] 講演9: SMTPセッションの強制切断によるspamメール対策手法 山井 成良 (岡山大)
		[15:30-16:00] 講演10: 列車ダイヤ乱れ時における経路選択支援システムとその利用者行動への影響把握 土屋 隆司 (鉄道総研)
[16:00-17:00] ベストペーパー賞選考会議		
6 日 (水)	9:00-12:00	ウェブアルゴリズム - サイバー空間のためのIT技術の新潮流 - [9:00 - 9:50] 講演1: 新世代型データベースのための基盤技術 竹田 正幸 (九大)
		[9:50-10:40] 講演2: 情報を発想力に変える連想エンジン 高野 明彦 (国立情報学研)
		[10:40-11:30] 講演3: Web時代のツールとしての知識検索技術 藤井 敦 (筑波大)
		[10:40-11:30] 講演4: ウェブ・アルゴリズム-ウェブグラフにもとづく検索やマイニング- 宇野 裕之 (大阪府大)
	15:30-17:30	ビジュアル最新動向2006 [15:30-16:10] チュートリアル1: 次世代IPTVに対するNTTの取り組み 川添 雄彦 (NTT)
	[16:10-16:50] チュートリアル2: AVC/H.264と高品位映像アプリケーション 関口 俊一 (三菱)	
	[16:50-17:30] チュートリアル3: MPEGにおける3次元映像符号化MVCの標準化動向 木全 英明 (NTT-AT)	

第6 イベント会場 (A棟 7F A715)		
日	時間	内容
7 日 (木)	10:00-16:00	日常生活を変えるサイバーワールド技術とは？(デモ展示つき)
		[10:00-12:00] デモセッション
		デモセッション1：A Remote Diagnosis System for Rotating Machinery Using Virtual Reality ベラミン モエズ, 安部 憲広, 田中 和明 (九工大), 瀧 寛和 (和歌山大)
		デモセッション2：タンジブルな N-to-1 コミュニケーションのための電子寄せ書きツール 井原 雅行, 小林 稔 (NTT)
		デモセッション3：GUEST:GUI Editor by STate diagram: 状態遷移図に基づく Web ブラウザプログラミング 山本 瑞秋, 米倉 達広 (茨城大), 岡本 秀輔 (成蹊大), 鎌田 賢, 荒木 俊郎 (茨城大)
		デモセッション4：嗜好の個人差と状況依存性を考慮した映画推薦システム 小野 智弘 (KDDI 研), 本村 陽一, 麻生 英樹 (産総研)
		デモセッション5：状態遷移図に基づく Flash ムービー記述環境 中川 昌幸 (茨城大), 岡本 秀輔 (成蹊大), 鎌田 賢, 米倉 達広 (茨城大)
		[13:00-14:00] 招待講演1：情報爆発 NLP 黒橋 禎夫 (京大)
		[14:00-14:30] 招待講演2：「Web2.0」へ導く技術 佐々木 稔 (茨城大)
		[15:00-16:00] デモ展示者による口頭発表 (各10～15分程度)

一般講演会場 (8号館, A棟)	
5日 (火) 9:00～12:00, 13:00～15:00, 15:30-17:30	6日 (水) 9:00～12:00, 15:00～17:30
7日 (木) 9:00～12:00, 13:00～16:00	

懇親会会場 (文系センター棟 16F スカイラウンジ)	
6日 (水) 17:30～18:00	※懇親会の前に、FIT2005 ヤングリサーチャー賞／FIT2006 論文賞の表彰式を行います。
6日 (水) 18:00～19:30	※懇親会で船井業績賞／船井ベストペーパー賞の表彰式を行います。

展示コーナー (ヘリオスプラザ 1F)	
5日 (火)～7日 (木)	

イベント企画 講演概要

招待講演：The Computer Society Outreach Initiative
 9月6日（水）13:00-14:00 [第1イベント会場（A棟1F AB01）]



Deborah Cooper (IEEE-CS 会長)

2006 President Deborah Cooper has actively served the Society for nearly two decades. Her previous service includes the IEEE Computer Society Board of Governors, Executive Committee, Conferences and Tutorial Board, Technical Activities Board, Press Activities Board, Publications Board, Audit Committee, chair of the Technical Committee on Security and Privacy, and numerous other committees. She currently serves on the IEEE Security & Privacy magazine task force, Information Technology and Services committee, editor-in-chief search committee, and Conferences and Tutorial Board. She was a guest editor for IEEE Transactions on Software Engineering and IEEE Software. She is a member of the IEEE, the Computer Society (Golden Core member), the ACM, the Armed Forces Communications and Electronics Association, and the American Association of University Women.

Cooper is president and founder of an independent consulting firm in Virginia specializing in computer security and information assurance. Earlier, at Unisys and System Development Corporation, she was Infosec business development director, director of advanced technology, and director of formal methods. Cooper received a BA and an MA, with honors, from the University of California, Los Angeles, where she also completed all but dissertation requirements for a PhD. In 1989, she received the Unisys President's Award for Technical Excellence.

[講演概要]

The IEEE Computer Society vision is to be the leading provider of technical information, community services, and personalized services for the world's computing professionals. We are the world's largest association of computer professionals, the largest IEEE society, the largest publisher in IEEE, and we produce more than half of all IEEE conferences. The Society has always taken pride in being an innovator.

- First Digital Library in IEEE
- First Certification Program
- First Society with Local "Centers" in China, Hungary and Russia, and offices in Japan and Brussels
- Expanded IEEE Outreach through Affiliate Program
- First Online - Only Peer Reviewed Periodical – DS Online
- First to offer Online Books and Distance Learning to Members
- Highly Successful International Design Competition
- First to Offer Free Email Service to Members

This year the Computer Society celebrates its 60th anniversary, and we have much to celebrate. At the same time, turning 60 years of age is an ideal opportunity to take measure and re-assess how far we have come and where we would like to be. A true leader leads by example.

More than 40 percent of our membership currently resides outside the US and most of our members are practitioners, according to a recent survey. The Society continues to expand its activities worldwide, and to become more inclusive of different aspects of information technology (IT). We must also become more inclusive of difference and diversity. In order to achieve its vision, the Society must be proactive in adapting to the evolving needs and interests of our diverse community worldwide.

One of our key initiatives this year of our 60th anniversary is to reach out to underrepresented and underserved demographic sectors worldwide, including women, minorities and IT practitioners. While women now earn half of all bachelor's degrees in science and engineering, participation in IT-related fields has been declining. In the United States, participation by ethnic minorities is grossly underrepresented by comparison with their percentage of the American population. At the same time, the Internet is becoming the leading source of information for many across the globe. What is wrong with this picture?

The Society's success is due to the commitment and contributions of its volunteer members and dedicated staff. Several of our volunteer leaders are participating in a program funded by the National Science Foundation called "Broadening Participation in Computing" and I will describe some of these activities in my presentation, as well as our other outreach activities worldwide. As the National Science Foundation notes:

The under participation of these groups causes a loss of opportunity for individuals, a loss of talent to the workforce, and a loss of diverse perspectives and creativity in shaping the future of technology.

Being an innovator means being different. As the Society embraces 60 years of age and beyond, we will endeavor to improve our futures and those of our communities worldwide.

船井業績賞受賞記念講演：マイクロプロセッサの誕生と創造的開発力

9月6日(水) 14:00-15:00 [第1イベント会場 (A棟1F AB01)]



嶋 正利 (ビジュアルテクノロジー)

1943年静岡生まれ。ビジュアルテクノロジー株式会社・技術本部長。工学博士。

1967年ビジコン社に入社、10進と2進を併せ持つコンピュータ・アーキテクチャとROMを使ったプログラム論理方式を電卓に初めて導入し、1969年にインテル社と共同して世界初のマイクロプロセッサ4004を開発。

1974年に8080、その後Z80やZ8000などを開発。1997年に京都賞(先端技術部門)、1998年に半導体生誕50周年記念大会で"Inventor of MPU"を受賞、『マイクロコンピュータの誕生:わが青春の4004』などの著書あり。

[講演概要]

世界初のマイクロプロセッサ4004は電卓やオフィス機器向け汎用LSIを開発する過程で1971年に誕生した。マイクロプロセッサは、「新時代を切り拓く技術」となり、誕生と同時に、2つの顔を持つようになった。知的能力とコンピューティング・パワー(計算力)である。マイクロプロセッサは、新たな文化を創造するための『知への道具』を人類にもたらし、いかに品質を高くかつ安く物を作るかといった生産という文明を重要視した時代を、何を作るかといった創造という文化を重要視する時代に変革させた。マイクロプロセッサは、応用からの特異な要求を満たしつつ、コンピュータ技術を導入して、驚異的な速度で発展した。マイクロプロセッサの誕生時と成長期におけるマイクロプロセッサの開発、創造的開発力、マイクロプロセッサがもたらした産業や教育や社会の変化などについてお話しする。

船井業績賞記念パネル討論： マイクロプロセッサのアーキテクチャはどのようにして決定されたか？

9月6日(水) 15:30-17:30 [第1イベント会場 (A棟1F AB01)]

[討論概要]

世界初のマイクロプロセッサ4004が開発されて35年経った。低速で小容量メモリ向けに最適化されたCISC型命令セット・アーキテクチャは、新たな応用分野からの特異な要求を満たしつつ、8、16、32ビットへと進化した。次に、高速で大容量メモリ向けに最適化されたRISC型命令セット・アーキテクチャが開発された。さらに、コンピュータから多種多様な性能向上技術を導入しつつ、64ビットへと進化した。

議論では、命令セットを含むマイクロプロセッサのアーキテクチャがどのように決定されたかなどを議論したい。

パネルの途中には随所で嶋先生からのコメントもお願いしたいと考えている。

特別ゲスト：嶋 正利 (ビジュアルテクノロジー)

写真および略歴は「船井業績賞受賞記念講演：マイクロプロセッサの誕生と創造的開発力」を参照

司 会：横田 英史 (日経BP)

1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。川崎重工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マグローヒル(現日経BP社)に入社。日経エレクトロニクス記者、同副編集長、BizIT(現IT Pro)編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。2004年11月、日経バイト発行人兼編集長。2006年1月、制作部長に就任。2006年7月、コンピュータ・ネットワーク局編集委員を兼務。現在に至る。

記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ハードウェア、OS、ハードディスク装置、組み込み制御、知的財産権、環境問題など。2006年4月から(独立行政法人)情報処理推進機構ソフトウェア・エンジニアリング・センター研究員を兼務。

パネリスト：金子 博昭 (NEC エレクトロニクス)

パネリスト：長谷川 淳 (ルネサステクノロジ)

パネリスト：増淵 美生 (東芝セミコンダクター社)

ICT がもたらす観光産業の変貌

9月5日(火) 9:00-12:00 [第1 イベント会場 (A棟 1F AB01)]

[企画概要]

高度情報化社会の出現は、従来の産業のあり方を根本から変えている。この傾向は様々な産業で見られるが、特に観光業における変化は著しい。これまで、ホテルやチケットの予約代行で収益をあげてきた旅行代理店の中には、転換を余儀なくされる業者も出始めており、ホテルやエアラインも経営戦略を練り直す時期に来ている。他方、消費者の側からは、個人手配の旅行が簡単に出来るという理由から、ICTの利用拡大を肯定的に捉える声も大きい。

そこで、観光情報学会の会長でもある北海道大学の大内東教授を招待講演者としてお迎えし、ICTと観光産業の相互関連性を多面的に語っていただく。同時に、官界、航空会社や旅行会社などから実務家を招聘するとともに、観光学の専門研究者との間での高次のコラボレーションを試みる。



司 会：井出 明 (近畿大)

京都大学経済学部卒。同大学院修士課程法学研究科修了。京都大学博士(情報学)。九州東海大学専任講師、国際大学グローバルコミュニケーションセンター・フェロー、大阪経済法科大学助教授などを経て、現在は近畿大学経済学部助教授。専門は社会情報学。近年の関心は、コンテンツ政策と観光振興、情報処理学会の他、日本観光学会や韓国産業観光学会等でも観光関連の発表、講演を行う。

● [9:00-10:00] 講演：観光情報学 - マルチエージェントシステムアプローチ -



大内 東 (北大)

北海道大学大学院情報科学研究科 複合情報学専攻複雑系工学講座調和系工学分野教授。複雑調和系工学、複雑系コア技術、ビジネス情報複雑系、生命情報複雑系、医療システムの研究に従事。情報処理学会、オペレーションズリサーチ学会、医療情報学会、IEEE-SMCなど、札幌市各種委員会委員、厚生労働省委員会委員等を歴任、現在、観光情報学会会長、北海道医師会委員、札幌市医師会顧問など。

[講演概要]

観光は、日本では観光政策審議会答申、世界的にはWTOにおいて、定義されている。

これらの定義をまとめると、「非日常生活圏において、おおよそ1年以内、目的はさまざま」な行動である。基本となる観光情報は、地域を単位とする時空間情報である。観光情報を分類する軸は、多種多様である。

例えば、産業別に見ると、

- ・日常生活圏から非日常生活圏へ移動するための情報
- ・観光地における滞在に関する情報、衣食住、観光資源、エンタテインメントに関する情報

が必須である。

また、情報に関与する主体別に見ると、

- ・サービスを提供する側(観光産業者)
- ・サービスを受けうる側(観光者)
- ・中立的公的な機関

等に分けられる。

すなわち、観光情報は多属性の情報が混在し、渾然一体となった情報である。この情報を目的とする切り口の軸に射影する作業が必要である。これらの情報を利用する主体として、マルチエージェントシステムによるアプローチを試みる。

● [10:10-12:00] パネル討論：ICTが観光に及ぼした衝撃

[討論概要]

"ICTがもたらす観光産業の変貌"という本イベント企画のタイトルをふまえ、パネル討論では実務家と研究者の高次のコラボレーションを試みる。情報通信技術の発達には単に旅行業界の安売りを加速させているだけではない。コミュニケーションの進化によって、観光という営み自体がおおきなパラダイム転換を成し遂げつつあると言える。このような問題意識に基づき、様々なバックグラウンドをもつパネリストにお集まりいただくこととなった。実務の視点からは、エージェント・エアライン・宿泊して行政から一線級の人材を招き、高度情報化がそれぞれの領域にもたらした影響について語っていただく予定である。研究者サイドからは、情報分野と観光分野の専門家が理論的な枠組みの提示を行う。観光に関する議論は消費者の視点を無視しては語ることが出来ないため、フロアからも広く質問や提言を受け付ける予定である。

司 会：井出 明 (近畿大)

写真および略歴は「ICTがもたらす観光産業の変貌」司会紹介を参照。

パネリスト：大内 東 (北大)

写真および略歴は「講演：観光情報学 - マルチエージェントシステムアプローチ -」を参照。



パネリスト：麻生 憲一（奈良県大）

大阪市立大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。宮崎産業経営大学経済学部専任講師、奈良県立大学地域創造学部助教授を経て、現在、同大学地域創造学部教授。専門分野は、観光経済学・観光政策論・応用経済学。[著書]（共編著）『21世紀の経済政策』日本評論社（1999）、『現代社会とツーリズム』東海大学出版会（2001）、『地域創造への招待』晃洋書房（2005）など。



パネリスト：内田 晶夫（ANA 総研）

東京大学経済学部卒業後、全日本空輸株式会社入社。営業推進本部顧客マーケティング部などを経て、現在、（株）ANA 総研取締役。



パネリスト：加藤 裕三（博多エクセルホテル東急）

同志社大学経済学部卒業後、京都東急インへ入社。佐賀東急イン開業の為佐賀へ転勤。1993年4月、博多エクセルホテル東急開業の為、博多へ転勤。以後15年間客室部門を担当し、現在に至る。



パネリスト：関口 伸一（トップツアー）

立教大学社会学部社会学科卒業後、東急観光株式会社入社。札幌支店配属、その後まちだ東急百貨店内支店・新宿支店を経て、2005年1月より事業開発室勤務。営業・カウンター・国内外の予約手配・新規事業の立ち上げ等、幅広い業務を担当。また新宿支店在籍時に立教大学大学院観光学研究科修士課程修了。（2006年1月、東急観光はトップツアー株式会社に社名変更）



パネリスト：山口 一郎（国土交通省九州運輸局）

1986年 東京大学経済学部を卒業後、運輸省に入省。交通行政や観光行政等の職務を経験。2006年7月 国土交通省九州運輸局企画観光部長に着任。

ゲーム情報学の新しい形

9月5日（火）13:00-16:30 [第1 イベント会場（A棟1F AB01）]

【企画概要】

1997年にコンピュータチェスが当時の世界チャンピオンを破り、大きな話題となった。コンピュータチェスの研究は、多くの人工知能や認知科学の研究論文を排出し、研究の題材としてリーダーの役割を果たしてきたが、この事件以降、研究者の多くはチェスの研究を離れ、チェスの研究はゲーム研究の檯舞台から姿を消しつつある。変わって注目を集めるようになってきているのは、チェスより場合の数が多く開発が難しいとされてきたゲーム（将棋、囲碁など）の研究である。

将棋や囲碁を題材とした研究もまた探索や最適化、学習などの数多くの論文を生み出している。特にコンピュータ将棋では、様々な課題を克服し、その実力はプロ棋士に肉薄するレベルに至っている。また、ロボカップサッカー、レスキューのように人間の行動をゲームとして捉え、新しい技術の進歩を図る研究も盛んに行われるようになってきた。さらには、囲碁、将棋のような完全情報ゲームだけでなく、麻雀のような不完全情報ゲームに関しても統計的手法によって科学的に検証しようとする研究も現れてきている。

この企画では、これらのゲームを対象としてご研究されている研究者（将棋、囲碁、ロボカップ、麻雀）をお招きし、それぞれの分野の現状と課題についてお話いただく。それを基に、各分野の展望と新しい研究ターゲットについてパネル討論という形式で議論する。また、ゲーム情報学研究会主査の飯田弘之氏によって、ゲームの辿ってきた歴史を概観し、ゲームを芸術として捉える新しい考え方についてもご講演いただく。

● [13:00-14:00] 招待講演：ゲームと芸術



飯田 弘之（北陸先端大）

日本将棋連盟プロ棋士十六段。1994年東京農工大学大学院博士後期課程修了。博士（工学）。リンブルグ大学コンピュータサイエンス学科客員研究員、科学技術振興事業団・博士研究員（電子技術総合研究所勤務）、静岡大学情報学部助教授、マーストリヒト大学客員教授など。現在、北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科教授。

〔講演概要〕

ゲーム特性に関する先行研究でシーソーゲームと遊戯性の関係に着目し、ゲーム洗練度の概念とその指標をゲーム洗練度の理論として提案した。

この理論によって、長い歴史を経て洗練淘汰されたゲームの進化の流れを客観的に説明できるようになった。端的に言えば、ゲームにおけるスキルとチャンスがほどよく調和されたゲームが生き残ってきた。そのようなゲームでは適度なスリル感が得られるからである。

人々に親しまれてきた魅力的なゲームはスリル感が高まる自由度の低いストカスティックなゲームを核として構成される。一方、自由度の高いストカスティックなゲームはスリル感とは異なる解放感のような効果をもたらす。

ゆらぎやあいまいさの価値を評価する世界、すなわち、芸術的創造性に通じる世界である。

本講演では、ゲームの三つの側面、すなわち、競技性、遊戯性、芸術性に焦点を当て、ゲーム情報学の新しいかたちを模索する。

● [14:30-16:30] パネル討論：ゲーム情報学の次のターゲットは？

〔討論概要〕

1997年にコンピュータチェスが当時の世界チャンピオンを破り、大きな話題となった。コンピュータチェスの研究は、多くの人工知能や認知科学の研究論文を排出し、研究の題材としてリーダーの役割を果たしてきたが、この事件以降、研究者の多くはチェスの研究を離れ、チェスの研究はゲーム研究の桎梏から姿を消しつつある。代わりに注目を集めた将棋を題材にした研究も多くの成果をもたらした。その結果、コンピュータ将棋の実力はプロ棋士に迫る勢いである。将棋がトッププレイヤーに勝利することになれば、ゲーム情報学の次のターゲットは何になるだろうか？

このパネル討論では、将棋、囲碁、ロボカップ、麻雀の各先端研究者を招き、各分野の現状とこれからの課題をお話いただいて、これからのゲーム情報学の新しいターゲットについて、議論していく。



司 会：伊藤 毅志（電通大）

1988年北海道大学文学部行動科学科卒業、1989年名古屋大学大学院工学研究科情報工学専攻博士課程入学、1994年名古屋大学大学院工学研究科情報工学専攻博士課程修了（工学博士）、1994年電気通信大学電気通信学部情報工学科助手。

情報処理学会、日本認知科学会、電子情報通信学会、人工知能学会、各会員。ゲーム情報学研究会幹事、コンピュータ将棋協会理事。将棋、囲碁を題材にした認知科学的研究に従事。



パネリスト：大橋 健（九工大）

1967年生まれ、1991年長岡技術科学大学大学院工学研究科修士課程修了、同年九州工業大学情報工学部知能情報工学科助手、現在同大学生命情報工学科助教授。

博士（情報工学）。日本ソフトウェア科学会、日本ロボット学会、人工知能学会、情報処理学会、電子情報通信学会、教育システム情報学会、日本教育工学会、IEEE 各会員。自律型ロボット・ヒューマンインタフェース・教育システムの研究に従事。NPO法人ロボカップ日本委員会会員。



パネリスト：とつげき東北（インターネット麻雀研究家）

1976年兵庫県生まれ、2001年東北大学工学部通信工学科卒業、2002年北陸先端科学技術大学院大学中退。

大学在学中より、インターネット麻雀で研究を開始するとともに、トッププレイヤーとしても有名になる。

統計学・情報科学の視点から麻雀を明確に研究対象と位置づけ、2004年に講談社現代新書から『科学する麻雀』を出版した。現在は官職にあたる傍ら、ライフワークとして麻雀研究を継続している。



パネリスト：中村 貞吾（九工大）

1984年九州大学大学院工学研究科電子工学専攻修士課程修了、1987年九州大学大学院工学研究科電子工学専攻博士後期課程満期退学。同年九州大学工学部助手。自然言語処理研究に従事。1993年より九州工業大学情報工学部講師。自然言語処理、および、ゲームプログラミングに関する研究に従事。最近では、組合せゲーム理論を用いた囲碁局面解析を行なう。工学博士。情報処理学会、人工知能学会、電子情報通信学会、ICGA、Computer Go Forum 各会員。



パネリスト：松原 仁（はこだて未来大）

1981年東大理学部情報科学科卒業、1986年同大学院工学系研究科情報工学専攻博士課程修了。同年通産省工技院電子技術総合研究所（現産業技術総合研究所）入所。2000年公立はこだて未来大学システム情報科学部教授。

NPOロボカップ日本委員会会長、コンピュータ将棋協会理事、コンピュータ囲碁フォーラム副会長など。

情報関連学会の国際連携：IFIP や IEEE-CS といかに協調すべきか？ 9月6日（水）9:30-12:00 [第1 イベント会場（A棟1F AB01）]

[企画概要]

Computing 分野における学会間の国際連携（出版、会議開催、技術認定制度、ア krediteーション等）に関する Summit Meeting が7月末にカナダで行われることになっている。この meeting に参加する情報処理学会の代表者を迎えて、報告および今後の活動に関する議論を行う。

● [9:30-9:40] 趣旨説明

総合司会・趣旨説明：青山 幹雄（南山大）

● [9:40-10:05] 講演1：IFIP および海外の情報関連学会の動向



齊藤 忠夫（トヨタ IT 開発センター）

東京大学名誉教授、工学博士。東京大学助教授、教授、情報基盤センター長等を歴任。前電子情報通信学会会長、IFIP-GA 日本代表。2001年からトヨタ IT 開発センターチーフサイエンティスト、中央大学教授。デジタル交換からインターネットにいたる変革期のネットワーク研究で、現在ネットワークの基礎となる多様な貢献がある。また電気通信審議会会長代理、同電気通信事業部会長を歴任。光ブロードバンド化、ADSL の推進、固定電話・携帯電話の番号ポータビリティの実現を通してネットワークの改革を進めた。ユビキタスネットワークングフォーラム会長。

● [10:05-10:30] 講演2：情報処理学会における情報教育活動の現状と国際連携



寛 捷彦（早大）

早稲田大学理工学部コンピュータ・ネットワーク工学科教授。

1968年東京大学卒。1970年東京大学工学系大学院計数工学専攻修士課程修了、同年東京大学工学部助手、1974年立教大学理学部講師・助教授、1986年より現職。

日本ソフトウェア科学会、日本数学会、日本応用数理学会、ACM 各会員、本会フェロー、情報処理教育委員会委員長、ア krediteーション委員会委員、情報規格調査会 SC22 専門委員会委員、JABEE 認定・審査調整委員会委員、プログラミングの言語、方法、環境、教育に興味を持つ。

● [10:30-10:55] 講演3：情報処理学会の現状と国際連携



中島 秀之（はこだて未来大）

1977年3月 東京大学工学部計数工学科 卒業

1983年3月 東京大学大学院情報工学専門課程博士課程 修了

1983年4月 通商産業省工業技術院電子技術総合研究所 入所

2001年4月（上記機構改革して）産業技術総合研究所サイバーアシスト研究センター長 就任

2004年4月 公立はこだて未来大学学長 就任 現在に至る

● [10:55-12:00] パネル討論：日本の情報関連学会はいかに国際連携すべきか？

司 会：青山 幹雄（南山大）

パネリスト：寛 捷彦（早大）

写真および略歴は「講演2：情報処理学会における情報教育活動の現状と国際連携」を参照。

パネリスト：齊藤 忠夫（トヨタ IT 開発センター）

写真および略歴は「講演1：IFIP および海外の情報関連学会の動向」を参照。

パネリスト：中島 秀之（はこだて未来大）

写真および略歴は「講演3：情報処理学会の現状と国際連携」を参照。

コンピュータ外科手術における情報処理 - 安全・確実な未来型精密治療のために - 9月7日(木) 9:00-12:00 [第1イベント会場 (A棟1F AB01)]

● [9:00-9:30] 講演1：外科医が情報処理技術に求めるもの



橋爪 誠 (九大)

学歴：1979年3月 九州大学医学部卒業。1984年3月 九州大学大学院医学研究科修了(第一病理)
職歴：1998年6月 九州大学医学部外科学第二講座・助教授。1999年2月 九州大学大学院医学研究院災害救急医学・教授。2003年3月 九州大学病院先端医工学診療部・部長兼任。2005年4月 九州大学病院救急部・部長兼任。2006年4月 九州大学デジタルメディシン・イニシアティブ教授兼任。
加入学会：日本外科学会、日本消化器外科学会(評議員)、日本腹部救急医学会(理事)、日本コンピュータ外科学会(副理事長)、日本門脈圧亢進症学会(理事)ほか。
専門：消化器外科学、コンピュータ外科学、災害救急医学、門脈圧亢進症
賞罰：日本学術振興会未来開拓学術研究推進事業助成金「外科領域におけるロボティックシステムの開発」外科系プロジェクトリーダー(1999～2003年)、第41回日本消化器外科学会会長賞受賞(1993年2月)、文部科学大臣表彰科学技術賞(科学技術振興部門)(2006年4月18日)。

● [9:30-10:00] 講演2：術中画像重畳の最新技術



倉爪 亮 (九大)

1991年東京工業大学機械物理工学専攻修士課程修了。同年(株)富士通研究所入社。1995年東京工業大学機械宇宙学科助手。2000年スタンフォード大学客員研究員。同年東京大学生産技術研究所博士研究員。2002年より九州大学システム情報科学研究科助教授。現在に至る。群ロボット、歩行機械、レーザ計測、医療画像解析、手術ナビゲーションの研究に従事。博士(工学)。

● [10:00-10:30] 講演3：外科解剖のための気管・消化管仮想内視鏡画像



森 健策 (名大)

1992年名大・工・電子卒。1996年同大学院博士課程後期課程修了。1994～1997年まで日本学術振興会特別研究員。1997年より名大大学院工学研究科助手。2000年同大講師。2001年同大難処理人工物研究センター助教授。2001年より2002年まで米国スタンフォード大学客員助教授。2003年より名古屋大学大学院情報科学研究科助教授。現在に至る。主に3次元画像処理とコンピュータグラフィックスの医用画像への応用に関する研究に従事。文部科学大臣表彰若手科学者賞、日本医用画像工学会奨励賞、日本エム・イー学会論文賞・坂本賞、丹羽記念賞、電子情報通信学会情報システムソサイエティソサイエティ論文賞、日本気管支学会優秀演題賞各賞受賞。工博。日本エム・イー学会、電子情報通信学会、日本気管支学会各会員。IEEE Member。

● [10:30-11:00] 講演4：手術誘導のためのナビゲーション画像



佐藤 嘉伸 (阪大)

1982年阪大・基礎工・情報卒。1988年同大学院博士課程了。工博。
1988年～1992年NTTヒューマンインタフェース研究所勤務。
1992年阪大・医・機能画像診断学(現在、画像解析学)教室助手。現在、同助教授。この間、1996年～1997年米国ハーバード大・医・Brigham and Women's 病院・Surgical Planning Laboratory 客員研究員。医用画像解析、手術支援システムの研究に従事。

● [11:00-11:30] 講演5：コンピュータ外科手術における情報処理 - 安全・確実な未来型精密治療のために -



伊関 洋 (東京女子医大)

1979年東京大学医学部卒業。1996年東京女子医科大学脳神経センター脳神経外科講師。2001年東京女子医科大学先端生命医科学研究科(大学院医学研究科先端生命医科学系専攻先端工学外科学分野)助教授。脳神経外科助教授(兼任)。医学博士。脳神経外科専門医。脳神経外科学会評議員、コンピュータ外科学会理事、日本バーチャリアリティー学会評議員、日本生体医工学会(旧エム・イー学会)理事。コンピュータ外科・精密誘導手術・医療安全工学研究を主体に活動。

● [11:30-12:00] 総合討論

パネル討論：どこまでシンクロ可能か？ IT・経営，2つの「ビジネスモデル」

9月7日（木）13:00-15:50 [第1イベント会場（A棟1F AB01）]

● [13:00-13:05] 開演のご挨拶



司会・開演挨拶：岩田 祐一（NTT 東日本）

1971年生まれ。東京大学経済学部卒業、筑波大学経営・政策科学研究科修了。1995年日本電信電話（株）入社。山梨支店、国際本部、NTT コミュニケーションズ（株）、（株）情報通信総合研究所を経て現在、東日本電信電話（株）経営企画部グループビジネス戦略部門勤務。NTT 東日本ならびにその関連会社における出資・アライアンス等の戦略実行に携わる。「米国 IT ビジネス企業の収益性サーベイ」で、第18回テレコム社会科学学生賞を受賞。

● [13:10-13:30] 講演1：経営とビジネスモデル

[講演概要]

以下の3点をポイントとしたお話をさせていただきたい。

- 経営者とは、ビジネスモデルを作り続ける人
- 「経営者のビジネスモデル」とは、事業プランの心臓部分
- ビジネスモデルの構成要素は
 - (1) 顧客、(2) 製品／サービス、(3) 顧客の（受益）価値、(4) 提供の仕組み



吉田 憲正（NTT データ九州）

1957年熊本県生まれ。1979年一橋大学商学部卒業、同年日本電信電話公社（現 NTT）入社。データ通信本部（現（株）NTT データ）で郵便貯金システムやITS、汎用電子乗車券、CATV 地域イントラネットなどの大型システムプロジェクトに従事してきたほか、企画・営業・人事など幅広い業務に携わる。法人ビジネス事業本部アウトソーシングビジネスユニット長、製造・流通ビジネス事業本部 VMAI プロジェクト推進室長を経て、2006年株式会社 NTT データ九州代表取締役社長。資格等：PMP、特殊情報処理技術者、PM 学会正会員。

● [13:35-13:55] 講演2：どこまでシンクロ可能か？ IT・経営，2つの「ビジネスモデル」（仮題）

[講演概要]

"ビジネスモデル"という言葉は、IT、経営それぞれの領域で使われているが、前者は「ソフトウェア・システム構築のための業務プロセス」の意味で、後者は「利益を創出するための事業の仕組みの意味で、それぞれ用いられることが多い。これらは今後、どこまでシンクロナイズさせていくことが可能か。そしてこのことは、日本のIT競争力・ビジネス競争力にいかなる影響をもたらさるか。IT・経営の両面に日ごろから関係しつつ、ソフトウェア開発を続けてきた立場から、展望していきたい。



竹村 司（日本 IBM）

1986年京都大学大学院工学研究科修士課程修了（情報工学専攻）。同年日本アイ・ビー・エム（株）入社。以来、種々のインダストリー向けアプリケーションソフトウェアやツールの開発に従事。現在ソフトウェア開発研究所所属、主管開発技術担当部長。情報処理学会「オブジェクト指向シンポジウム2003優秀賞」受賞。訳書に、『MDA モデル駆動アーキテクチャ』（共訳、エスアイビー・アクセス、2003）、『UML/MDA のためのオブジェクト制約言語 OCL』（エスアイビー・アクセス、2004）、『Eclipse モデリングフレームワーク』（監訳、翔泳社、2005）などがある。

● [14:00-14:20] 講演3：どこまでシンクロ可能か？ IT・経営，2つの「ビジネスモデル」（仮題）

[講演概要]

"ビジネスモデル"という言葉は、IT、経営それぞれの領域で使われているが、前者は「ソフトウェア・システム構築のための業務プロセス」の意味で、後者は「利益を創出するための事業の仕組みの意味で、それぞれ用いられることが多い。これらは今後、どこまでシンクロナイズさせていくことが可能か。そしてこのことは、日本のIT競争力・ビジネス競争力にいかなる影響をもたらさるか。産学双方の経験、そしてIT・経営の両面に日ごろから関係する立場から、展望していきたい。



松本 正雄（九州産業大）

九州産業大学情報科学部教授。近年の研究テーマはIT革新と経営改革の共進化についてである。具体的には企業連携や行政組織などを結んだ『組織横断価値連鎖 Enterprise のモデル化』や『ソフトウェア技術の国際競争力の向上』である。従前、IEEE-CS、情報処理学会、日本科学技術連盟、国際連合ニューヨーク本部においてソフトウェア工学や品質管理の研究を遂行した。関連論文150件以上発表。'95年デ賞品質管理文献賞、'03年 e-Society 国際学会優秀論文賞をそれぞれ受賞。NEC、ドルトムント大学、筑波大学大学院社会学系教授を経て現職。工学博士。

● [14:30-15:50] パネル討論：どこまでシンクロ可能か？ IT・経営、2つの「ビジネスモデル」

[討論概要]

ここまでの各パネリストの講演を踏まえて、有意義なパネル討論を展開していく。

具体的な焦点としては、IT、経営それぞれの"ビジネスモデル"を

- シンクロナイズさせることの是非・意義
- シンクロナイズされることによって得られる果実
- シンクロナイズさせることにおけるハードルとその解決策

といったものが考えられる。

またこれらの焦点と、日本のIT競争力・ビジネス競争力強化との関係性についても、触れていくことになろう。

司 会：岩田 祐一（NTT 東日本）

写真および略歴は「『パネル討論：どこまでシンクロ可能か？ IT・経営 2つの「ビジネスモデル」』開演のご挨拶」司会・開演挨拶紹介を参照。

パネリスト：竹村 司（日本 IBM）

写真および略歴は「講演1：経営とビジネスモデル」を参照。

パネリスト：松本 正雄（九州産業大）

写真および略歴は「講演2：どこまでシンクロ可能か？ IT・経営、2つの「ビジネスモデル」（仮題）」を参照。

パネリスト：吉田 憲正（NTT データ九州）

写真および略歴は「講演3：どこまでシンクロ可能か？ IT・経営、2つの「ビジネスモデル」（仮題）」を参照。

社会情報基盤の構築と課題

9月5日（火）10:00-17:20 [第2 イベント会場（A棟1F AB02）]

[企画概要]

社会基盤を構成する各種の社会システムの神経系としての情報通信システムの重要性が高まっており、安全で安心な社会を支える基盤技術としての情報技術に向けて、多くの研究や教育の取組みが行なわれている。本セッションでは、社会情報基盤の構築に向けた取組みを紹介し、新しい技術や問題点を議論する。基調講演には、NTTの先端技術総合研究所の市川晴久所長をお招きし、通信基盤を中心とした新しい取組みを紹介していただく。講演では大学を中心とした研究や実験的な取組みの紹介を若手研究者から講演していただく。

パネルディスカッションではJST 研究開発戦略センターの丹羽邦彦氏も交えて、社会情報基盤の構築に関する課題を議論する。

● [10:00-12:00] 第1部：社会情報基盤の構築に向けた大学の取組み



司 会：安浦 寛人（九大）

1978年京都大学工学研究科修士課程修了。京都大学工学部助手、同電子工学科助教授を経て、1991年より九州大学教授。現在、九州大学大学院システム情報科学研究院情報工学部門教授およびシステム LSI 研究センター長。VLSI システムの設計手法と社会基盤システムの研究に従事。福岡知的クラスター事業研究統括および21世紀 COE プログラム拠点リーダー。九州大学全学共通 IC カード推進プロジェクトの推進にも従事。

● [10:00-10:30] 講演 1：九州大学全学共通 IC カードにおける新しい個人識別のしくみ

[講演概要]

近年、コンピュータとそれを用いたネットワークが社会基盤として急速に普及し、個人の電子的な識別や認証が我々の生活のあらゆる場面で用いられるようになった。IC カードや携帯電話端末といった携帯デバイスによる様々なサービスの利用が可能になり、それを支えるシステムの高速化やシームレス化等の利便性の向上が進む一方、個人情報保護等の意味での安全性の重要性が注目されてきている。九州大学では、平成 17 年度からの新キャンパスへの移転に伴い、職員証・学生証として全学共通の IC カードを導入し、大学およびその周辺地域における様々なサービス提供の仕組みの実現を目指している。ここで導入する個人識別の仕組みは以下の特徴を持っている。

- (1) 携帯デバイスの種類や通信の規格といったメディアへの依存性がない。
- (2) 利用者間の委譲等の柔軟な権利・権限の管理が可能である。
- (3) 相互認証および履歴情報保護の観点での安全性を考慮している。



馬場 謙介 (九大)

2002 年九州大学大学院システム情報科学研究科情報理学専攻博士課程修了。
博士 (理学)。同年科学技術振興事業団 (科学技術振興機構) ポスドク研究員。
2003 年より、九州大学大学院システム情報科学研究院情報理学部門助手。
文字列処理アルゴリズム、セキュリティ・プロトコル等の研究に従事。
情報処理学会会員。

● [10:30-11:00] 講演 2：新しい地域情報経済プラットフォームと新キャンパス周辺地域における社会実験

[講演概要]

ブロードバンドの普及と TV のデジタル地上波移行に伴いすべての家電、情報機器がネットワークに繋がる情報家電ネットワーク時代の到来が予想されている。情報家電ネットワーク時代においては、ユビキタスな情報アクセス環境実現が想定されており、既存ビジネスの変革や新ビジネスの出現が期待されているが、その一方でユビキタス化が招く不正アクセスによる情報改ざんや詐取、なりすましによる被害が心配されている。

九州大学では、学内で開発した権利権限管理のための技術を利用して、これら被害を防止し、ユビキタスな情報アクセス環境に適した、現金取引に換わる効果的で安心安全な価値流通を実現し地域経済に寄与する共通ビジネスプラットフォームを提案し、経済産業省の支援を得て実証実験を実施する。

実験では以下の検証を目的としている。

- (1) 次世代共通ビジネスプラットフォームのあるべき姿
- (2) 次世代共通プラットフォームに必要な新しい情報技術の抽出
- (3) 地域経済活性化のための新しいビジネスモデル創出。



石田 浩二 (九大)

1978 年武蔵大学経済学部経済学科卒業。

社団法人日本産業用ロボット工業会 (現 社団法人日本ロボット工業会)、株式会社ミマキエンジニアリング、株式会社コンピュータアプリケーションズ (現 株式会社シーエーシー)、三井造船システム技研株式会社等を経て 1990 年株式会社ノイラント代表取締役 1998 年より株式会社情報生活研究所代表取締役、代表取締役在任中、松下電器産業株式会社パナソニックコンピュータカンパニー、株式会社パーク 24、九州松下電器株式会社、オムロンソフトウェア株式会社、三洋電機株式会社等の商品開発、情報システム構築等に関するアドバイザー顧問等を併任し 2003 年 4 月より九州大学先端科学技術共同研究センター客員教授、2004 年 10 月九州大学新キャンパス計画推進室助教授、財団法人九州大学学術研究都市推進機構シニアリサーチャー、情報システム構築と商品開発、マーケティングに関連する研究に従事、全学共通 IC カード導入推進プロジェクト、経済産業省「e-World」プロジェクトのほかユーザサイエンス機構で感性商品開発プロジェクトを担当。

● [11:00-11:30] 講演3：大学図書館における新しい取り組み～プライバシー保護と利便性向上の両立を目指して～

[講演概要]

九大附属図書館は全国でも数少ない専任教員を持つ大学図書館であり、先進的な電子図書館の研究を行ってきた。本発表では、これらの取り組みとその過程で明らかになったプライバシーに関する問題を紹介する。さらに、これを解決する手法として九州大学が取り組むID管理機構を紹介し、プライバシー保護の観点から議論する。これにより、以前より利用者に安心感を与えるような仕組みでプライバシー保護することが可能になり、さらに利用者の利便性向上や図書館運営の効率化にも寄与することを示す。



池田 大輔 (九大)

1996年九州大学大学院総合理工学研究科情報システム学専攻修士課程終了。1997年九州大学大学院システム情報科学研究科情報理学専攻博士後期課程退学。同年4月より九州大学大型計算機センター助手。九州大学情報基盤センター講師を経て2004年5月より九州大学附属図書館助教授。2006年8月より九州大学大学院システム情報科学研究科助教授。

ウェブ・テキストマイニング、電子図書館の研究に従事。情報処理学会、統計科学研究会、ACM、EATCS 各会員。

● [11:30-12:00] 講演4：福岡大学の情報環境整備

[講演概要]

福岡大学では、2003年度に学内の情報環境のあるべき姿を情報化基本構想としてまとめ、その構想に基づいて2004年度から学内の高度情報化プロジェクトを進めている。講演では、プロジェクト全体の概要について紹介し、学内ネットワークや統合認証システムなどの情報基盤整備、職員用グループウェアや大学ポータル等の情報システム、学生サービスの中核となる学生教育・生活支援システムなどについて概略を説明する。



吉村 賢治 (福岡大)

1978年九州大学工学部電子工学科卒業。1983年同大学大学院工学研究科博士課程電子工学専攻修了。工学博士。同年より九州大学工学部電子工学科助手。1984年福岡大学工学部講師。1986年同大学工学部助教授。1995年同大学工学部教授。2003年12月より福岡大学総合情報処理センター長。自然言語処理の研究に従事。情報処理学会、言語処理学会、認知科学会各会員。

● [13:00-15:30] 第2部：社会情報基盤構築と新しい技術動向



司 会：荒木啓二郎 (九大)

九州大学工学部卒業、同大学院修士課程修了。九州大学工学部助手、同助教授、奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科教授などを経て、現在、九州大学大学院システム情報科学研究科教授。九州大学付属図書館副館長。財団法人九州システム情報技術研究所研究室長兼務。ACM、情報処理学会、日本ソフトウェア科学会、FME（欧州形式手法学会）、博多町人文化連盟などの会員。ソフトウェア技術者協会常任幹事、プロジェクトマネジメント学会九州支部副支部長、博多祇園山笠西流元赤手拭など。

システムの数理モデル化、ソフトウェア開発法、インターネットによる国際学術文化交流などの研究に従事。

● [13:00-13:30] 講演5：社会基盤としてのRFID

[講演概要]

本稿では、RFID（Radio Frequency Identification）を用いた情報システムに焦点を当て、社会基盤の観点から検証する。現時点でのRFIDの応用は、特定の組織や場所内でのみ利用されるというクローズなシステムであり、RFIDを不特定多数の人間が利用するというオープンなシステムとしては普及の機を得ていない。社会基盤システムに必要な要件を議論し、それを満たすRFID情報システムを確立することが必要である。



井上 創造 (九大)

九州大学大学院システム情報科学研究科および、九州大学システムLSI研究センター 助手。データベース管理システムおよび、RFID情報システムのセキュリティ・個人情報保護・信頼性に興味を持つ。博士（工学）。IEEE、ACM、日本データベース学会（DBSJ）、情報処理学会（IPSJ）会員。

● [13:30-14:00] 講演 6：生体（バイOMETリック）認証を活用した情報基盤技術

[講演概要]

最近、様々な詐称事件を受けて、入出国管理や金融関係サービスを中心に正規の利用者であることを認証するための技術、すなわち本人認証技術への関心が高まっている。現在、パスワードやカードによる認証に加えて、生体認証の導入が進められている。本講演では、生体認証技術の背景、応用分野などを紹介する。また、生体認証のインターネットサービスへの適用を目指した研究事例や ISO 等での国際標準化動向も合わせて紹介する。



上繁 義史（九州システム情報技研）

1997年3月 九州工業大学大学院博士後期課程退学。1998年3月 博士（工学）取得（九州工業大学）。
1998年4月～2001年3月 鹿児島工業高等専門学校 電気工学科。
（1997年4月助手、1999年4月講師、2000年4月助教授）。
2002年4月～2003年3月（財）北九州産業学術推進機構 知的クラスター招聘研究員。
2003年4月～現在（財）九州システム情報技術研究所 第2研究室研究員。

● [14:00-14:30] 講演 7：フォーマルな社会的行為のための情報基盤の構築とプライバシー



山崎重一郎（近畿大）

1957年生まれ。東京理科大学理工学部数学科卒業。九州大学システム情報科学府・システム情報科学院博士課程修了。博士（情報科学）。富士通株式会社、株式会社富士通研究所、財団法人九州システム情報技術研究所（富士通研究所より出向）を経て2003年より現職。

NPO法人電子認証局市民ネットワーク福岡理事長、日本電子認証署名技術推進パートナーシップ連携調整部会長、次世代型電子認証基盤有識者委員、ハイパーネットワーク社会研究所共同研究員。

● [14:30-15:30] 基調講演：ディペンダビリティとポストインターネット



市川 晴久（NTT）

1976年東京大学工学研究科修士課程終了。同年、日本電信電話公社に入社。通信ソフトウェアの基礎研究に従事。1993年以降、マイクロソフト社とのマルチメディアビジネス提携、ギガビットインターネット実用化などに従事。2002年情報流通プラットフォーム研究所所長。2003年未来ねっと研究所所長。2005年7月より先端技術総合研究所所長。工学博士。

● [15:50-17:20] 第3部：パネルディスカッション 社会情報基盤構築の課題

[討論概要]

50年後、100年後から現在を振り返ると、20世紀後半に急激な発達を遂げた情報通信技術をベースとして、19世紀後半以降に確立された各種の近代的社会システムを根本的に再構築した時代であったと総括される可能性がある。各種の社会システムの神経系としての社会情報基盤のあり方や今後の研究開発の方向および課題について、大学、研究機関およびファンディング母体の代表による多角的な議論を行う。

司 会：安浦 寛人（九大）

写真および略歴は「第1部：社会情報基盤の構築に向けた大学の取組み」司会紹介を参照。

パネリスト：荒木啓二郎（九大）

写真および略歴は「第2部：社会情報基盤構築と新しい技術動向」司会紹介を参照。

パネリスト：市川 晴久（NTT）

写真および略歴は「第2部 基調講演：ディペンダビリティとポストインターネット」を参照。



パネリスト：丹羽 邦彦（JST）

1969年、東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。
日本電気株式会社に入社。デジタル通信・デジタル信号処理システムの研究開発、映像機器・システム技術開発及び事業、技術企画などに従事。その間、INTELSAT (International Telecommunications Satellite Organization)、NEC Americaに勤務。2001年日本テキサスインスツルメンツ株式会社勤務。2003年から独立行政法人科学技術振興機構研究開発戦略センターに勤務。シニアフェロー。工学博士。

パネリスト：山崎重一郎（近畿大）

写真および略歴は「講演7：フォーマルな社会的行為のための情報基盤の構築とプライバシー」を参照。

システムソフトウェア最前線

9月6日(水) 9:00-12:00 [第2イベント会場 (A棟 1F AB02)]

[企画概要]

システムソフトウェアの最新動向を、産業界・学界、および、国内・国外の面から、気鋭の研究者・開発者が初心者にも分かりやすく解説する。山本氏には、産業界におけるWebアプリケーションの開発現場の様子と今後の方向性を説明して頂く。門林氏には、オーバーレイネットワークやP2P技術の最新研究動向を解説して頂く。中尾氏には、次世代のインターネット・アプリケーションやサービスの実験を行うための世界規模広域分散テストベッド・プロジェクト PlanetLab の概要と最新動向を解説して行く。



司 会：高汐 一紀 (慶大)

博士(工学)(1995年慶應義塾大学)。電気通信大学情報工学科助手を経て、2002年より慶應義塾大学環境情報学部助教授。現在、情報処理学会システムソフトウェアとオペレーティングシステム研究会幹事、ユビキタスコンピューティングシステム研究会幹事。モバイルコンピューティングとユビキタス通信、組込みシステム、各研究会運営委員。その他、ACM、IEEE、日本ソフトウェア科学会各会員。

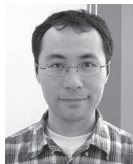
● [9:00-9:10] 開会挨拶



加藤 和彦 (筑波大)

1962年生まれ。1985年筑波大学第三学群情報学類卒業。1992年博士(理学)(東京大学大学院理学系研究科)。1989年東京大学理学部情報科学科助手、1993年筑波大学電子・情報工学系講師、1996年同助教授、2004年筑波大学大学院システム情報工学研究科教授、現在に至る。2003年より情報処理学会システムソフトウェアとオペレーティングシステム研究会主査。オペレーティングシステム、セキュアコンピューティング、自律連合型分散システムに興味を持つ。

● [9:10-10:00] 講演1: Webアプリケーション開発最前線



山本 泰宇 (サイボウズ)

1974年神奈川県生まれ。東京大学にて情報科学を専攻後、2001年12月にサイボウズ株式会社入社。大規模向けグループウェア「ガルーン」を開発。2003年からガルーン2の基盤システムを設計し、2004年にガルーン開発責任者。2005年2月に開発部長。2005年8月からは研究開発子会社「サイボウズ・ラボ」取締役を兼務。2006年2月にサイボウズ本社の執行役員開発本部長。現在は70名ほどの開発陣のマネジメントにあたる傍ら、実践的な開発技術の研究も続けている。

<http://cydn.cybozu.co.jp/ymmt/>

● [10:10-11:00] 講演2: オーバーレイネットワーク研究開発の最前線



門林 雄基 (奈良先端大)

1996年大阪大学大型計算機センター助手。2000年7月より現職。博士(工学)。2004年7月より情報通信研究機構セキュリティ高度化グループ短期専攻研究員兼任。2006年4月より情報通信研究機構セキュリティセンタートレーサブルネットワークグループプロジェクトリーダー兼任。WIDEプロジェクトボードメンバー。

● [11:10-12:00] 講演3: PlanetLab と Private PlanetLab



中尾 彰宏 (東大)

東京大学理学部物理学科卒業。東京大学大学院工学系研究科情報工学専攻修士修了。IBM Texas Austin 研究所、IBM 東京基礎研究所などを経て、米国 Princeton 大学大学院情報科学科にて修士及び博士取得。2005年4月より東京大学大学院情報学環助教授。

<http://www.iii.u-tokyo.ac.jp/faculty/profile/nakao.html>

<http://nakao.iii.u-tokyo.ac.jp/index.html>

情報・システム研究開発の今昔（いまむかし） - 若者の夢をどこまで膨らませるか - 9月6日（水）15:30-17:30 [第2イベント会場（A棟1F AB02）]

[企画概要]

最近の研究開発成果例を若手2名が発表し、フェロー団を中心として、テーマ設定・アプローチ・成果出し・評価・応用展開などについて、意見交換を活発に行う。

若手研究者・技術者の学位取得や事業化・社会貢献への道を、経験豊かな(?)フェロー団が夢を膨らませながら導いていく。



司 会：木戸出正継（奈良先端大）

1970年 京大大学院工学研究科修士課程修了。同年 東京芝浦電気（現、東芝）総合研究所入社。同社総合企画部、関西研究所、東芝アメリカ社を経て、2000年 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科教授。京都大学工学博士。パターン認識、ロボットビジョン、ヒューマンインタフェース、ウェアラブルコンピュータに関する研究に従事。電子情報通信学会フェロー、情報処理学会フェロー、IEEEフェロー、IAPR（国際パターン認識協会）フェロー、電子情報通信学会業績賞、高柳記念奨励賞、などを受賞。情報処理学会関西支部長、電子情報通信学会理事、MVA国際ワークショップ組織委員長、IEEEウェアラブルコンピュータ国際シンポジウム実行委員長などを歴任。現在、電子情報通信学会情報システムソサイエティ会長。

● [15:30-15:50] 題材発表1：グローバル動きを用いた高速動画画像モザイク手法



清水 智行 (KDDI 研)

2000年3月京都大学工学部情報工学科卒業。2002年3月京都大学大学院情報学研究所修士課程修了。同年4月KDDI入社。KDDI研究所にて動画画像圧縮符号化、伝送アプリケーション、コンテンツ加工技術の研究開発に従事。

● [15:50-16:20] 意見交換1：差別化技術のポイントは、具体化はどこまで、応用展開の可能性は、どこで儲けるか・・・

● [16:20-16:40] 題材発表2：デジタルカメラによる文書画像検索

[講演概要]

本発表で述べる文書画像検索法は、特徴点の局所的配置を幾何学的不変量によって記述する特徴量を利用することにより、大規模データベースにおいても高速かつ高精度な検索を実現するものである。



中居 友弘 (大阪府大)

平成16年大阪府立大学工学部情報工学科卒業。平成18年同大学院修士課程修了。現在、同大学院博士課程に在籍。文書画像処理に関する研究に従事。FIT2005ヤングリサーチアワード、MIRU2006デモセッション賞受賞。電子情報通信学会学生会員。

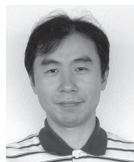
● [16:40-17:10] 意見交換2：新規性のポイントは、難しさはどこに、解決の糸口は、オモロイ展開は・・・

生命ネットワークをコンピュータで見るために 9月7日(木) 9:00-12:00 [第2イベント会場 (A棟1F AB02)]

[企画概要]

生命および生命機能を構成する分子のネットワークは複雑である。これまで、これを要素還元的に扱うことが生物学の主流であり続けたが、近年、複雑なネットワークをシステムとして理解することの重要性が認識され始めてきた。システム生物学である。ネットワークをシステムとして理解することは、コンピュータの援用なくしては不可能である。

本チュートリアルセッションでは、生命のネットワーク(パスウェイ)を可視化、同定、またそれを用いてシステムの挙動を予測する研究に携わっている若手の第一線の研究者をお呼びして、情報科学的アプローチによる生物学のチュートリアルをして頂く。バイオインフォマティクスだけでなく、生体機能計測、可視化、統計学、画像処理などに興味を持つ研究者、学生の皆様のご参加を期待している。



司 会：石井 信 (奈良先端大)

1986年 東京大学工学部卒業。1988年 東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。

1988年 (株)リコー中央研究所研究員。1994年 ATR人間情報通信研究所研究員。

1997年 工学博士(東京大学工学系研究科計数工学専攻)。

1997年 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助教授。現在、同 教授。

● [9:00-10:00] 講演1：ロバストな生命システム解明のためのコンピュータ表現法

[講演概要]

生命システムは膨大な数の化学反応が織り成す「原因-結果の連鎖」であり、その背後に存在するロジックを解明するためには、個々の分子の定性的理解を求める分子生物学的手法では限界がある。Biological Simulationは、システムの挙動を理解するためのパワフルなツールとして期待されており、それを可能とするプラットフォームの開発・標準化は、システム・バイオロジーを推し進めて上で不可欠といえる。しかしながら、分子生物学の分野で伝統的に用いられている分子ネットワークの表記方法は、その理解を見る者の知識に依存するため統一性がなく、コンピュータにとっては曖昧で解読不能である。逆に、コンピュータが得意とする回路図は、多くの生物学者にとっては難解である。本日は、システム・バイオロジー研究機構(会長：北野宏明氏)により開発されたhuman-readableであり、かつ、machine-readableなGraphical Notationをもとに、それを用いた分子ネットワークマップ及びその作成により明らかとなったロバストなシステム挙動を可能とするネットワーク構造について紹介する。



小田夏奈江 (東京医歯大)

1994年 大阪大学医学部医学科卒業。1994年 大阪大学医学部付属病院～聖路加国際病院はじめ市中病院勤務。

2003年 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 難治疾患研究所 分子疫学教室 (社会人入学)。

2004年 システム・バイオロジー研究機構 Visiting Researcher。

2004年 慶應義塾大学 大学院理工学研究科 「システム生物学者育成プログラム」特別研究員。

2005年 同上 助手

● [10:00-11:00] 講演2：パスウェイデータベースにおける可視化と相互作用予測

[講演概要]

パスウェイとは、細胞内における遺伝子やタンパク質の相互作用ネットワークを抽象化した概念である。パスウェイをコンピュータで表現する場合には、遺伝子やタンパク質などの分子をノード、分子間の相互作用をエッジとしたグラフを用いることが多い。ゲノムプロジェクトが進展し、ある生物種が持つ全遺伝子の集合が分かってくると、それらが細胞内でどのように相互作用し、ネットワークを形成するのか、また、その結果どのような機能ができるのかを明らかにするのが次の仕事である。バクテリアでも数千個の遺伝子を持つのでその相互作用ネットワークを単純に考えるとノード数が数千のグラフを見ることになる。これらを可視化して意味のあるものを抽出できるようにする必要がある。また、ゲノムが分かっても全ての遺伝子の機能が分かった訳ではない。本来ネットワーク中でつながって機能を発現するべきところに抜けがある場合もある。このような場合に、機能がよく分かっていない遺伝子の中から対応する遺伝子を探し出す必要もある。本講演では、ネットワークの可視化と遺伝子機能予測による相互作用予測という2つのテーマについて生命ネットワークの解析方法を概説する。



五斗 進 (京大)

1994年九州大学工学研究科情報工学専攻博士後期課程修了。博士(工学)。同年京都大学化学研究所助手。

1999年より同助教授。ゲノムと代謝系のデータベース開発およびデータベースからの遺伝子機能予測に従事。

● [11:00-12:00] 講演3：細胞内シグナル伝達系の解明に向けての情報科学的アプローチ

〔講演概要〕

代謝、細胞分化や神経細胞のシナプス可塑性など生命現象を司る分子機構の解明は生命科学における重要な課題の一つである。分子生物学の技術発展にともない、遺伝子やタンパク質など生命の基本構成要素やそれらの間の局所的な活性・抑制関係は少しずつ理解されつつあるが、究極的には、全ての構成要素が互いにどのように相互作用しあい、その結果として生命活動がなぜ維持されているかという問いに対する答えが求められるであろう。近年、その一つの足がかりとして、生理実験の知見から構成要素間の相互作用を包括的にモデル立て、計算機シミュレーションを通して動的な生命現象を再現・予測・解析しようとする構成論的研究が進められてきている。本講演では、まず、細胞内生化学反応の相互作用に焦点をあて、それを計算機上で擬似的に再現するためにはどのようにモデル化すればよいかについて概説する。次に、このようなモデル化を生理実験データから自動構築するという逆問題に対する我々の試みについて紹介する。この逆問題は、『モデル構造推定』と『パラメータ推定』という2種類の問題に帰着されるが、我々のベイズ推定に基づく解法によればこれらを同時に考慮することができる上、モデルやパラメータの信頼性の定量化や類似したシミュレーション挙動を示すパラメータ空間の可視化まで統一した枠組みで扱うことができる。最後に、いくつかのベンチマークへの適用例を通して、我々の提案手法の有用性を示す。



吉本潤一郎（沖縄科学技術研究基盤整備機構）

1975年生。

2002年9月奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程修了、博士（工学）を取得。同年10月より（独）科学技術振興機構CREST『脳を創る』研究領域・博士研究員。2004年4月より（独）沖縄科学技術研究基盤整備機構・大学院大学先行研究事業・研究員となり現在に至る。また、2006年4月より奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科・客員助教授を兼任。

パターン認識・メディア理解アルゴリズムコンテスト 9月7日（木）13:00-15:50 [第2イベント会場（A棟1F AB02）]

〔企画概要〕

本イベントでは、パターン認識・メディア理解（PRMU）研究専門委員会が行っているアルゴリズムコンテストの本年度入賞者の発表・表彰と、入賞者による自身のアルゴリズムの紹介、ならびにコンテストに関連した研究分野に関する特別講演を実施する。本コンテストは、PRMU研究専門委員会が、当該研究分野における若手研究者の育成と研究会活動の活性化を目的に、平成9年度より秋の大会併催事業として毎年実施しているもので、パターン認識・メディア理解分野における代表的な研究テーマを対象に、これに関する具体的な課題を複数の難易度に分けて設定し、各難易度の課題を解決するためのアルゴリズムを募集している。募集にあたってはWeb上でサンプル画像データを公開してアルゴリズムを実装したプログラムの提出を求め、このプログラムの処理結果や計算時間等を参考に、審査委員会でアルゴリズムの新規性や性能を審査し、優秀なプログラムを選定している。ただし応募対象者が若手研究者や学生であることから、アルゴリズムの完璧さや複雑さよりも、若手研究者や学生ならではの素朴なアイデアを積極的に評価する方針を採っている。



司 会：日浦 慎作（阪大）

1993年大阪大学基礎工学部制御工学科飛び級中退、1997年同大学院博士課程短期修了。同年京都大学リサーチアソシエイト、1999年大阪大学大学院基礎工学研究科助手、2003年同助教授。三次元動画像計測・処理とそのVR・コミュニケーション応用の研究に従事。1993年電気関係学会関西支部連合大会奨励賞、2000年画像センシングシンポジウム優秀論文賞受賞。電子情報通信学会、情報処理学会、日本バーチャルリアリティ学会各会員。博士（工学）。

● [13:00-13:05] 開会挨拶



開会挨拶：村瀬 洋（名大）

1980年3月名古屋大学大学院工学研究科修士課程修了。同年日本電信電話公社（現在NTT）電気通信研究所に入所。1992年6月から1年間米国コロンビア大学客員研究員。その後NTT基礎研究所特別研究員、同研究所メディア情報研究部長を経て、2003年4月から名古屋大学大学院情報科学研究科メディア科学専攻教授。工学博士。画像認識、マルチメディア情報処理の研究に従事。

● [13:05-13:15] 課題概要説明，審査結果発表

● [13:15-13:20] 入賞者表彰

● [13:20-14:50] 入賞者によるアルゴリズム紹介

● [14:50-15:50] 特別講演：ビデオの切れ目をどう入れる？ どう使う？- 映像インデクシング技術の動向と応用事例 -

[講演概要]

近年におけるブロードバンドの進展やデジタルビデオなど撮影機器の小型化、PCやHDRの低価格化や携帯プレーヤーの普及に伴い、さまざまな種類の映像を個人が簡単に取得・蓄積・利用することができるようになってきている。しかし、映像は時間軸を持った連続メディアであり、言語化しにくい情報を多重に含んでいるため、大量映像からの検索や詳細な内容把握には困難が伴う。本講演では、映像の構造を解析して索引づけを行う映像インデクシング技術について、その研究動向に関して述べるとともに、物理的特徴解析や意味的解釈、ユーザ教示によるメタデータ生成など最近の研究例を挙げる。また、検索や一覧化をはじめとするさまざまな応用事例に関してデモを交えて紹介し、本技術の可能性について論ずる。



森本 正志 (NTT)

1988年京都大学大学院工学研究科情報工学専攻修士課程修了。同年、日本電信電話(株)ヒューマンインタフェース研究所入所。1996年米国スタンフォード大学客員研究員。1997年より3年間、NTT福岡法人部門ソリューションおよびSE育成業務に従事。2000年NTTサイバーソリューション研究所主任研究員。2002年より3年間、京都大学情報学研究科知能情報学専攻博士後期課程在籍。2003年NTTサイバースペース研究所主幹研究員・グループリーダー。その後現職に至る。博士(情報学)。画像・楽音・映像などのメディア認識・ハンドリング技術研究開発に従事。

生体機能センシングシステムの現状とその展開

9月5日(火) 9:00-12:00 [第3イベント会場 (A棟1F A101)]

[企画概要]

最近の脳神経機能に関する生理学的知見は爆発的進展を見せており、これに伴ってセンシングシステムの開発も新たな展開を見せている。現在のセンシングシステムについての研究の流れは、生体の感覚機能を学び、これをモデル化して工学的に実現する方向と生体自身の細胞を感覚器官に培養する Tissue Engineering の方向がある。本シンポジウムでは、味覚、視覚および聴覚について人工的センサの開発を行なっている立場とこれを使用している立場の先生に講演を願う。まず、お二人の工学系の先生には味覚センサおよび視覚センサについて、その開発から現在の進展までをお話しいただき今後の方向性を示唆していただく予定である。次に、医学系の先生には人工内耳について基本的な機能および最近の手術の動向をお話いただき、併せて実際に装着されている患者さんの経過についてPETでの解析結果をご講演を願う予定である。

司 会：村山 伸樹(熊本大)

● [9:00-10:00] 講演1：感性バイオセンサの開発

[講演概要]

本講演では、化学物質を受容して生じる感性であるところの味覚と嗅覚を再現するセンサの開発現状を紹介する。味覚センサは、複数の脂質膜を受容部に持ち、化学物質と膜との相互作用を電圧で取り出し、これらから構成される応答パターンから味(と香り)を識別、数値化する。この世界初のバイオミメティックセンサは、味覚と嗅覚という化学感性に客観的ものさしを提供し、音楽の楽譜に相当する「食譜」の創造を可能ならしめるものである。デジタル化した食情報は、おいしさの定量的議論を可能にし、私たちは味覚と嗅覚を含む五感情報通信技術を手に入れた。時空を超えた食の伝送と再生がおこなえる、新しい食文化の到来である。また匂いセンサについても、最近、修飾した金属界面と化学物質との相互作用を検出するセンサや、イヌの鼻を超える超高感度センサが開発されつつある。前者は化学物質の部分構造や特徴を認識するマルチチャネル型のセンサであり、感度はppbレベル。後者は、爆薬や麻薬といった単一の化学物質を超高感度でとらえるセンサで、抗原抗体反応とSPR(表面プラズモン共鳴)法を組み合わせることで、感度pptを実現している。本講演では、これらのセンサの創造する世界を概観する。



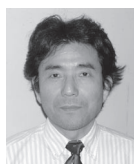
都甲 潔 (九大)

1953年福岡生まれ、以来福岡から一步も出ず。福岡高校卒、九州大学工学部電子工学科卒、現在、九州大学大学院システム情報科学研究院教授。システム生命科学府、感性融合創造センター兼任。著書に「感性の起源」(中央公論新社)、「旨いメシには理由がある」(角川書店)、「感性バイオセンサ」(朝倉書店)、「Biomimetic Sensor Technology」(Cambridge University Press)など多数。

● [10:00-11:00] 講演2：人工視覚：ブレインマシーンインターフェイスのための並列ロボットビジョン

[講演概要]

低消費電力かつコンパクトなハードウェアを用いて実時間画像処理を行うことは、情報化社会の様々な局面で必要とされる重要技術である。従来の視覚システムは、CCD(Charge-Coupled Device)カメラやCMOSイメージャーで撮像された画像を、逐次的にA/D変換しながらホストコンピュータに送り、デジタル直列処理を行う。このアーキテクチャは、視覚情報を力づくで計算するもので、消費電力の増加、ハードウェア規模の拡大という本質的な問題を抱えている。一方生体の視覚系では、個々の素子である神経細胞の応答速度は、トランジスタなどの固体素子に比べ桁違いに遅いにも関わらず、実時間処理が極めて効率よく実行されている。私たちは、この生体視覚系の機能と構造に学んだユビキタス視覚システムを開発し、ロボットビジョンをはじめ、盲人の視覚再建のための移植デバイスなどに応用しようとしている。



八木 哲也 (阪大)

1979年3月 名古屋大学理学部物理学科卒業。1981年3月 名古屋大学大学院工学研究科博士課程前期課程情報工学専攻修了。1985年3月 名古屋大学大学院医学研究科博士課程生理系専攻単位取得退学。1985年12月 医学博士(名古屋大学)。1985年4月 岡崎国立共同研究機構生理学研究所研究員。1986年4月 日本学術振興会特別研究員(生理学研究所)。1988年1月 名古屋工業大学工学部機械工学科助手。1990年4月 九州工業大学情報工学部制御システム工学科助教授。2000年4月 九州工業大学大学院生命体工学研究科脳情報専攻助教授。2001年4月 大阪大学大学院工学研究科電子工学専攻教授。2004年11月 大阪大学臨床医工学融合研究教育センター部門長 現在に至る。1988年9月-1990年2月 米国ロックフェラー大学博士研究員。1995年3月-1995年6月 米国ソーク研究所訪問研究員。

研究内容：脳視覚系における計算メカニズムを、電気的および光学的な計測によって調べ、その計算原理を数理モデルによって明らかにする。またそのモデルに基づき、脳のアーキテクチャに学んだ新しい視覚デバイスを設計し、医学的および工学的に応用する。

● [11:00-12:00] 講演3：人工内耳による音声言語情報入力とその中枢処理～ポジットロン断層法による機能解析～

[講演概要]

ヒトの内耳有毛細胞は再生不能とされているが、人工内耳は蝸牛内に電極を挿入し、直接ラセン神経節細胞(聴神経)を電気刺激することにより、高度感音難聴者に聴覚の再獲得を可能とした画期的医療である。音感には電気刺激により比較的容易に得られるが、言語音の理解を得るためには、母音のフォルマント情報や子音認知のための情報入力が必要である。人工内耳の音声コード化法は、初期の簡素な刺激方式から、同時刺激電極数や刺激頻度を増やすことにより改良され、語音聴取能は改善してきた。しかし、蝸牛コルチ器内に存在する内毛細胞が約3400個であることと比較すると、人工内耳の最大22個の電極により蝸牛神経に入力される情報は少ないと考えざるを得ない。その少ない情報から言語が認知されることは驚くべきことであり、これには中枢(脳)の働きに負うところが大きいと考えられる。人工内耳装用者の脳活動のポジットロン断層法による解析結果につき述べる。



藤木 暢也 (田附興風会医学研究所北野病院)

1987年、京都大学医学部卒業。1994年10月、京都大学医学部耳鼻咽喉科助手。1999年8月より2001年8月まで、ヘルシンキ工科大学低温研究所脳研究部門上級研究員。2002年7月、天津赤十字病院耳鼻咽喉科・気管食道科副部長。2005年4月より、田附興風会医学研究所北野病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科副部長。1999年7月～9月、京都教育大学発達障害学科非常勤講師。京都大学博士(医学)。耳鼻咽喉科専門医。日本気管食道科学会認定医。

異文化コラボレーションシンポジウム

9月5日(火) 13:00-17:30 [第3イベント会場 (A棟1F A101)]

[企画概要]

異分野間のコラボレーションは革新的なアイデアや技術を生む可能性を秘めている一方で、成功する確率が極めて低い。これは、異分野間のコラボレーションでは専門用語の定義が異なったり、問題に対する考え方や取り組み方が異なる場合が多く、結果として議論が噛み合わないことが多いためである。異分野間(異部門間)の連携が重要な企業では、具体的にどのような問題が起これば、これらをどのように対処しているのだろうか?また、これらの問題をコンピュータ技術を用いて支援、解決することは可能だろうか?本シンポジウムでは、異分野間のコラボレーションのあり方とその支援技術の発展を考えるために、自動車社における異部門間のコラボレーションに焦点を当てる。自動車会社では、マーケティングにより新車のコンセプトを提案する部門やここで提案されたコンセプトを目に見える形にして設計する部門などがあり、これらの部門の連携がうまくいって始めて素晴らしい製品が生まれると考えられる。そこで本パネル討論会では、自動車会社の現場に詳しい方々をお招きし、これまでの現場において発生した異部門間のコラボレーションの問題点を議論し、解決方法を模索する。



司 会：大平 雅雄 (奈良先端大)

1998年京都工芸繊維大学工学部電子情報工学科卒業。2000年奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科修士課程修了。2003年同大学情報科学研究科博士課程修了。博士(工学)。同年同大学産学官連携研究員。2004年より同大学情報科学研究科助手。HCI, CSCW, CSCL等の研究に従事。特に異文化間協調作業支援に興味を持つ。電子情報通信学会、情報処理学会、ACM、IEEE-CS 各会員。

● [13:00-13:40] 講演1：言語グリッドプロジェクトの課題

[講演概要]

独立行政法人 情報通信研究機構では今年度より「言語グリッドプロジェクト」を遂行している。本プロジェクトは、世界中に点在する種々の言語資源や言語処理機能(以下、言語サービス)をWebサービス化し、そのアクセシビリティとユーザビリティをセマンティックWebサービス技術により連携させることを行う。具体的には、国の標準言語に関わる言語資源や言語処理機能(水平型言語グリッド)と異文化コミュニケーションの現場で使われるコミュニティ固有の言語資源や言語処理機能(垂直型言語グリッド)を組み合わせることにより、グローバルな言語インフラを構築できる「言語グリッド」の研究開発を産官学民及び国際連携にて行っている。また本プロジェクトは「言語グリッド」の3年後の実用化を目指す。本講演ではこの言語グリッドの概要と技術的特徴及びその課題を述べる。



灘本 明代 (NICT)

民間の研究所をいくつか経験後2002年独立行政法人通信総合研究所(現在NICT)に入所。主に放送と通信のコンテンツ融合及びWeb技術に関する研究に従事後、現在言語グリッドプロジェクトに従事。博士(工学)。

● [13:40-14:10] 講演2：カーデザイナーの用いる言語の理解に向けて

[講演概要]

本講演では、自動車デザインをケーススタディとし、デザイナーの使う「視覚言語」とその元となる semantics との関係について言及する。現在まで、自動車デザインにおける「視覚言語」の多くはデザイナーの頭の中に nonverbal な情報として存在し、エンジニアなどに対するコミュニケーションの場において、それを無理に verbal な表現を用いて意思疎通を図ろうとするため、その本来の semantics が伝わらず、様々な支障を来してきた。そこで、講演では、自動車デザインプロセスの中でもデザイナーの使う「視覚言語」が nonverbal で理解されにくかったコンセプト立案段階、コンフィギュレーション決定段階、造形段階における「視覚言語」抽出研究例を俯瞰し、デザイナーの用いる「言語」について概説する。これにより、デザイナー以外の職種の人々に対し、デザイナーの想起する semantics とそれを表す視覚言語、統語法との関係の理解を促し、ひいてはデザイナーとの潤滑なコミュニケーションの可能性を示唆する。



原田 利宣 (和歌山大)

1987年九州芸術工科大学(現九州大学)卒業。同年、マツダ株式会社車両設計部入社。1990年千葉大学大学院工学研究科修了。同年、日産自動車株式会社デザイン本部入社、自動車デザイン開発、研究業務に従事。1993～96年千葉大学大学院自然科学研究科に国内留学。1997年度和歌山大学システム工学部助教授。2004年度より、同教授。現在に至る。1996年日本デザイン学会研究奨励賞、グッドデザイン賞、感性工学会出版賞、日本ファジィ知能学会著述賞などを受賞。人工知能学会、日本デザイン学会、情報処理学会会員、感性工学会各会員。

● [14:10-14:40] 講演3：トヨタデザインにおけるお客様満足度 No.1 の商品づくり

〔講演概要〕

欲しいコンセプトの車が市場になくとも、こんな車が欲しいと言えば次の日に届けられたらこれほど嬉しい事はない。通常、自動車の開発は全く新しいコンセプトで3から10年、単なるモデルチェンジでも最低1年はかかる。もし1日でこれが出来たら、ユーザーにとってもメーカーにとってもこれ以上素晴らしい事はない。メーカーにすれば、何年も前からどうなるかわからない市場を調査、予測し、売れるかわからない商品のために、高い金型に資金をつぎ込むなど耐えられない。大変なギャンプルだ。数日先の事なら確実に売れる商品を市場の要望を100%織り込んで創る事が出来る。こんな理想状態に一步でも近づくために何をどうすべきか。部間での密度の高いコラボレーションが必要である。自動車産業は様々な業種の複合体で普段から意思の疎通が重要である事は言うまでもない。又、良いものを短期間で創ろうという高い意識がそれぞれの部署の最優先事項になっていることが前提で、自部署独自の目標は全体目標より前に出てはならない。



木村 徹 (名工大)

1951年生まれ、55才、武蔵野美術大学 造形学部 産業デザイン学科 工芸工業デザイン科卒業後トヨタ自動車に入社、スターレット、ビッツからセンチュリー、レクサスと全てのデザインを担当。特に受賞作品としてはカラオラハードトップ、サイノス、カリーナED、AXV III、ソラカー「TES-K3」は自らオリジナルアイデアを出し、チームではハリアー、アルテッタ、モーターショーモデルPM、FINE-N、i-unit等、多数Gマーク、ゴールデンマークショー、その他数々の賞を受賞。公職も日本インダストリアルデザイナー協会理事、Gマーク審査員、等、数多く多岐に渡り活躍。2005年4月から名古屋工業大学大学院建築・デザイン工学科教授 現在に至る。

● [14:40-15:10] 講演4：自動車開発における部門間の壁とブレイクスルーについて

〔講演概要〕

自動車開発は膨大な費用と時間を必要とし、多数の専門家が参加するビッグプロジェクトである。その為、時には部門間の壁や対立も発生し、それらを乗り越える必要が生じる。講演では専門である「空気力学をベースとしたデザイン開発」を例にとり、「部門間の壁とブレイクスルー」について考察する。

概略的には、「デザイン部は求められる要件を満たしつつ魅力的な造形を与える部門」であり、「空力実験部は、空力特性を最適化させることにより、燃費、風騒音、最高速、走行安定性等を向上させる部門」である。この様に両部門は「形に対する責任」と「空力に対する責任」を持っており、かつ「ボディ形状により空力特性は影響される」ので開発中に両部門が対立する場面も何度か出現する。その解決策として、「空力デザインプロジェクト」を立上げ、空気力学を理解したデザイナーの誕生や、風洞実験の回数を減少させる空力数値解析等を導入した。それまでは、空力に興味のないデザイナーが自由に形を決め、その後、風洞テストを多数回行い、細部最適化の手法を用いつつ徐々に空力特性を向上させ、風洞テストに多大の時間と費用を費やしていたので、この新しい試みは部門間の壁をブレイクスルーする1つの解決策となった。これらの経験から部門間あるいは「芸術と工学」は相対するものではなく、両立できるものであるという考えに至った。



石井 明 (九大)

和歌山県出身。子供の頃、父からプレゼントされたスロットルレーシングカーの美に心より感動し、カーデザイナーになる決心をする。1977年九州芸術工科大学卒業後、マツダ株式会社で外装及び内装デザインを経験後「空力デザインプロジェクト」に参加し、「芸術と工学」の接点に興味を持つ。その後、子供の頃からの夢を実現する為、今回の冬季オリンピック開催地となった北イタリアのトリノに位置する、ジュージアロー氏率いるイタルデザイン社で10余年をデザイナーとして働き、特にスーパーカー等の超高速車では風洞実験にも参加し、空力をベースとした提案を行う。これらの経験から「芸術と工学は両立する」と確信するに至る。2000年秋に母校の教官として帰国し、2004年から九州大学芸術工学研究院の教員となる。

● [15:10-17:30] パネル討論：自動車業界における異部門間のコラボレーション



司 会：平田 圭二 (NTT)

1987年東京大学大学院工学系研究科情報工学専門課程博士課程修了。工学博士。1990～93年(財)新世代コンピュータ技術開発機構(ICOT)。2001年度論文賞、2003年度山下記念研究賞。本会理事。音楽情報処理に興味を持ち、音楽関連分野における異文化コラボレーションを体験する。遠隔コラボレーションt-Roomプロジェクトに取り組み、さらに別分野との異文化コラボレーションも体験中。

パネリスト：石井 明 (九大)

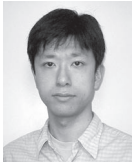
写真および略歴は「講演4：自動車開発における部門間の壁とブレイクスルーについて」を参照。

パネリスト：木村 徹 (名工大)

写真および略歴は「講演3：トヨタデザインにおけるお客様満足度 No.1 の商品づくり」を参照。

パネリスト：原田 利宣（和歌山大）

写真および略歴は「講演2：カーデザイナーの用いる言語の理解に向けて」を参照。



コメンテータ：中西 英之（阪大）

1996年京都大学工学部情報工学科卒業。1998年同大学院工学研究科情報工学専攻修士課程修了。2001年同大学院情報学研究科社会情報学専攻博士課程修了。博士（情報学）。同年同専攻助手。2006年より大阪大学大学院工学研究科知能・機能創成工学専攻助教授。HCI、CSCWに興味を持つ。2002年度情報処理学会坂井記念特別賞。2004年度テレコムシステム技術賞。2006年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞。

音声・マルチモーダル対話記述とその標準化 9月6日（水）9:00-12:00 [第3イベント会場（A棟1F A101）]

[企画概要]

音声・マルチモーダル対話は、近未来のヒューマンインタフェース中核技術として、携帯端末、カーナビ、情報家電からロボット応用まで実現への期待が大きい。一方、音声対話技術は、ディクテーションなどの音声応用システム開発と比較して、統計言語モデル設計などの作業コストに見合うサービスが少ないことが大きな課題となっている。このため、アプリケーション開発者は、語彙と文法を含む対話シナリオ（マルチモーダル対話になることが多い）をタスクごとに記述する必要がある。

対話記述の標準化は、音声対話についてVoiceXMLがWorld Wide Web Consortium（W3C）の場で標準化され、欧米では対話型音声応答（IVR）のサービスを中心に利用されているものの、我国ではあまり普及していない現状がある。また、マルチモーダル対話（Multi-Modal Interaction：MMI）の記述については、W3CのMMI-WGにおいて標準化へ向けた作業が進行中である。

今回のシンポジウムでは、音声・マルチモーダル対話の記述に焦点をあて、

- (1) 産業界の現状
- (2) W3Cを中心とする国際標準化の動向
- (3) 国内の対話記述研究と情報処理学会を中心とする標準化への取り組み

を紹介するとともに、標準化の方向を上記三者の統合を見据えてパネル討議する。



司 会：新田 恒雄（豊橋技科大）

1998年東北大学工学部電気工学科卒業。（株）東芝総合研究所、マルチメディア技術研究所を経て、1998年豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授。工学博士。音声認識・合成・文字認識、マルチモーダル対話システム、および概念獲得の研究に従事。IEEE、電子情報通信学会、人工知能学会、日本音響学会各会員。

● [9:00-9:30] 講演1：音声・マルチモーダル対話記述とその標準化 - 背景と期待

[講演概要]

本講演では、音声応用システムのこれまでの歴史を概説した後、音声対話記述の必要性、我国において標準化が進まない要因、および記述言語に関する今後の展望を述べる。続いて、マルチモーダル対話の特性について概説した後、近未来の応用システムに対する展望、対話記述で考慮しなければならない課題と記述言語標準化への展望を述べる。

新田 恒雄（豊橋技科大）

写真および略歴は「音声・マルチモーダル対話記述とその標準化」司会紹介を参照。

● [9:30-10:00] 講演2：自動音声応答システム等における音声対話関連技術

[講演概要]

本講演では自動音声応答装置などの音声通信系における、音声認識・合成をはじめとした音声対話関連技術について述べる。初めに音声通信系における音声技術の状況について説明する。次に電話自動応答システムでのコンテンツ開発について述べる。最後にコンテンツ開発における問題点と音声対話関連の標準化に対する期待などを述べる。



甘粕 哲郎（NTT）

1999年東北大学情報科学研究科博士課程前期修了。同年日本電信電話株式会社入社。

以来、NTTサイバースペース研究所にて音声認識及び音声合成の応用技術に関する研究に従事。日本音響学会、人工知能学会各会員。

● [10:00-10:30] 講演3：W3Cにおける音声・マルチモーダルインタフェースへの取り組み

[講演概要]

World Wide Web Consortium (W3C) では、Webの可能性を最大限に導き出すべく、Webの発展と相互運用性を確保するために必要な各種プロトコルの開発を行なっている。

本講演では、まず、W3Cの組織構成について概説した上で、W3C音声ブラウザワーキンググループおよびマルチモーダルインタフェースワーキンググループで取り組んでいる、音声・マルチモーダル技術を利用したWebアクセスに関する各種仕様策定の動向について説明する。音声・マルチモーダルインタフェース技術は、様々な環境や条件における人々を対象にWebアクセスの利便性を向上させることが可能な、次世代のヒューマンインタフェース技術として期待されている。しかし、携帯端末、カーナビゲーションシステム、情報家電など各種機器を利用した情報アクセス手法は、各開発ベンダごとに異なる部分が大いなのが現状であり、開発やメンテナンスのためのコスト削減という観点からも、各種プロトコルの国際標準化が急務である。



芦村 和幸 (W3C / 慶大)

1992年京都大学理学部数学科卒業。NTTソフトウェア株式会社、ATR音声翻訳通信研究所、株式会社アルカディア、JST/CREST「表現豊かな発話音声のコンピュータ処理」研究員を経て、2005年よりWorld Wide Web Consortium (W3C) 音声ブラウザ担当、2006年よりマルチモーダルインタフェース担当兼務。音声およびマルチモーダルインタフェースによるWebへのアクセスに関する各種仕様策定に従事。
電子情報通信学会、日本音響学会各会員。

● [10:30-11:20] 講演4：対話記述の研究動向と音声対話技術コンソーシアムにおけるMMI記述言語策定活動の紹介

[講演概要]

近年、様々な組織や機関でマルチモーダル対話(MMI)記述言語の検討が進められている。音声対話技術コンソーシアム(ISTC)においても2004年にMMI記述言語検討ワーキンググループ(SIG-MMI-WG)を立ち上げ、MMI記述言語の策定作業を進めてきた。SIG-MMI-WGでは、W3Cを中心とする外部機関におけるMMI記述言語の検討状況を踏まえつつ、独自にユースケースの抽出、要求仕様の取りまとめ、6階層モデルに基づくMMIシステムアーキテクチャの提案等を行なってきた。本講演では、最近のMMI記述言語の策定動向を解説するとともに、SIG-MMI-WGでこれまで討議してきた諸事項について3人の講演者が紹介する。



荒木 雅弘 (京都工繊大)

1988年京都大学工学部卒業。1993年京都大学大学院工学研究科博士課程研究指導認定退学。京都大学工学部助手。同総合情報メディアセンター講師を経て、現在京都工芸繊維大学大学院工学科学研究科助教。
音声対話システムおよびマルチモーダル対話記述言語の研究に従事。
ACL, ISCA, 情報処理学会等各会員、博士(工学)。



西本 卓也 (東大)

1993年早稲田大学理工学部卒業。1995年同大学院理工学研究科修士課程修了。1996年京都工芸繊維大学工学部助手。2002年東京大学大学院情報理工学系研究科助手。音声対話システム、福祉情報工学、音楽情報処理の研究に従事。電子情報通信学会、日本音響学会、情報処理学会、人工知能学会、ヒューマンインタフェース学会各会員。



桂田 浩一 (豊橋技科大)

1995年大阪大学基礎工学部情報工学科卒業。2000年同大学院基礎工学研究科博士後期課程修了。同年豊橋技術科学大学工学研究科助手、博士(工学)。マルチモーダル対話、知識処理に関する研究に従事。情報処理学会、AAAI、人工知能学会、日本音響学会、言語処理学会、ヒューマンインタフェース学会各会員。

● [11:25-12:00] パネル討論：音声・マルチモーダル対話記述および標準化における課題

[企画概要]

パネルではこれまでの講演を受け、前半は我国の音声対話記述の現状、標準言語VoiceXML2.0が普及しない要因、今後我国が目指すべき方向などについて討議する。また後半は、近い将来増大するマルチモーダル対話応用システムを視野に、対話記述の現状と課題、対話記述言語の標準化への展望と、我国の国際標準化活動貢献などについて討議する。

司 会：新田 恒雄 (豊橋技科大)

写真および略歴は「音声・マルチモーダル対話記述とその標準化」司会紹介を参照。

パネリスト：芦村 和幸 (W3C / 慶大)

写真および略歴は「講演3：W3Cにおける音声・マルチモーダルインタフェースへの取り組み」を参照。

パネリスト：甘粕 哲郎 (NTT)

写真および略歴は「講演2：自動音声応答システム等における音声対話関連技術」を参照。

パネリスト：荒木 雅弘（京都工織大）

写真および略歴は「講演 4:対話記述の研究動向と音声対話技術コンソーシアムにおける MMI 記述言語策定活動の紹介」を参照。

パネリスト：桂田 浩一（豊橋技科大）

写真および略歴は「講演 4:対話記述の研究動向と音声対話技術コンソーシアムにおける MMI 記述言語策定活動の紹介」を参照。

パネリスト：西本 卓也（東大）

写真および略歴は「講演 4:対話記述の研究動向と音声対話技術コンソーシアムにおける MMI 記述言語策定活動の紹介」を参照。

マルチメディア，VRの先にあるものは？3Dの次にくるものは？ ～3E(=Expected Enhancement of Experiences)が拓く近未来生活～ 9月6日（水）15:30-17:30 [第3イベント会場（A棟1F A101）]

[企画概要]

マルチメディア，ヴァーチャルリアリティ（VR）の領域では，三次元（3D）の情報処理技術など，数々の革新的技術が研究，開発されてきたが，その一方で，世の中の期待ほど実用に至る成果が多くないことも指摘されている。本イベント企画では，次世代のマルチメディア，VRの技術トレンドを探すべく，3Dの次にくるキーワードとして「3E (=Expected Enhancement of Experiences)」の概念を提案する。「3E」は，「ユーザの体験，経験，活動を強化するために期待される技術」を表現する概念である。本オーガナイズドセッションでは，海外の大学におけるプロトタイプ開発事例，「愛・地球博」での大規模展示事例，そして，ユーザの達成感や美意識などのリサーチに関する物語性研究の紹介を通じて，これらの研究成果がいかにしてユーザの体験，経験，活動を強化できたのかを理解する。さらに，3Eの概念を実現する次世代マルチメディア，VRに求められる技術要件を議論し，体験強化型の近未来生活を展望する。



司 会：井原 雅行（NTT）

1994年東工大・修士了。同年，NTT ヒューマンインタフェース研究所入所。人間の好みのモデル化，仮想空間共有コミュニケーション，価値観共有の研究等に従事。2002-2003加国 New Media Innovation Center およびブリティッシュコロンビア大学にて客員研究員。現在 NTT サイバーソリューション研究所主任研究員，ACM，電子情報通信学会，情報処理学会，映像情報メディア学会，画像電子学会各会員。

● [15:30-15:35] 開会挨拶

開会挨拶：全 炳東（千葉大）

● [15:35-16:10] 招待講演（1）"Catma", Foolishness and Intuition : Experience Designed?

[講演概要]

In this paper I discuss how interaction aesthetics are important when designing experiences with virtual reality (VR) and multimedia. The interaction aesthetic appeal should include the response, control, reflection and belonging. These are important when creating physical, intellectual, emotional and/or spiritual experiences using interactive multimedia and VR technologies. Swimming Across the Pacific and the Iamascope illustrate how these elements contribute design techniques for creating these experiences.



Sidney Fels (Univ. of British Columbia)

Sidney Fels (Ph.D., 1994, M.Sc. 1990, University of Toronto, B.A.Sc. 1988, University of Waterloo) is an Associate Professor at the University of British Columbia where he is recognized as a Distinguished University Scholar. He was a visiting research at ATR Media Integration & Communications Research Laboratories in Kyoto, Japan from 1996 to 1997.

He also worked at Virtual Technologies Inc. in Palo Alto, CA developing the GesturePlus(TM) system and the CyberServer (TM) in 1995.

He is internationally known for his work in human-computer interaction, neural networks, intelligent agents, new interfaces for musical expression and interactive arts with over 100 scholarly publications and exhibitions. He has been the Director of the Media and Graphics Interdisciplinary Centre (MAGIC) since 2001 and heads the Human Communications Technology laboratory at UBC.

● [16:10-16:45] 招待講演 (2) ユーザ・エクスペリエンスのための物語性研究



桐山 孝司 (東京芸大)

1991年東京大学大学院工学系研究科精密機械工学専攻博士課程修了, 工学博士。東京大学人工工学研究センター, スタンフォード大学設計研究センター, 独立行政法人科学技術振興機構, 東京大学大学院情報学環を経て現職。創造的な思考の支援を動機として, 知性情報処理, インタラクシオンデザイン, デジタルメディアと物語性などの研究を行っている。

● [16:45-17:20] 招待講演 (3) 来場者参加型ムービーシアター -Future Cast System-



前島 謙宣 (早大)

2002年成蹊大・工卒。2004年同大大学院修士課程修了, 2004年早大大学院博士課程入学, 現在に至る。
バーチャルヒューマンの構築に関する研究に従事。

● [17:20-17:30] 閉会挨拶

閉会挨拶: 全 炳東 (千葉大)

写真および略歴は「閉会挨拶」を参照。

"統計翻訳" はどこまで可能か
9月7日 (木) 9:00-11:20 [第3イベント会場 (A棟 1F A101)]

[企画概要]

近年, 米国を中心に統計翻訳の研究が活発化している。これは, 中国語やアラビア語から英語への翻訳需要が高まりと, 大規模な対訳コーパスの構築や計算機パワーの進歩により比較的簡単に統計翻訳を試してみることができるようになったことによる。

一方, 日本では, 90年代に様々な商用翻訳ソフトが開発されたが, 規則ベースの機械翻訳 (規則翻訳) が主流である。規則翻訳では, 翻訳知識を手で構築する必要があるという問題がある。このような問題を, 機械学習により解決しようとしている統計翻訳であるが, はたして現在の實力は? 統計翻訳は規則翻訳を超えることができる (できた) のであろうか?

本企画では, 統計翻訳の一線で活躍されている研究者の方に, 自身の統計翻訳のシステムについて講演していただき, 統計翻訳の現状と将来について会場を含めてパネル討論をする。



司 会: 加藤 直人 (NHK 技研)

1986年早稲田大学理工学部電気工学科卒業。1988年同大学院修士課程修了。同年日本放送協会に入局, 同放送技術研究所に勤務。この間, ATR 音声翻訳通信研究所, ATR 音声言語コミュニケーション研究所に向向。博士 (情報科学)。機械翻訳, 対話処理, 音声言語処理, 自動要約等の研究に従事。

● [9:00-9:30] 講演 1: ATR における統計翻訳



隅田英一郎 (ATR)

1982年電気通信大学大学院修士課程修了。1999年京都大学工学博士。現在, ATR 音声言語コミュニケーション研究所室長。

NiCT 知識創成コミュニケーション研究センター研究マネージャ, 神戸大学大学院自然科学研究科連携教授, ATR-Lang 取締役副社長兼務, 機械翻訳, eラーニングの研究に従事。

IPSJ, NLP, ASJ, ACL, IEEE の会員, ACM/TSLP の Associate Editor。

● [9:30-10:00] 講演 2: NTT における統計翻訳



永田 昌明 (NTT)

1987年京都大学大学院工学研究科情報工学専攻修士課程修了。同年日本電信電話株式会社へ入社。1989-1993年 ATR 自動翻訳電話研究所へ出向。

1999-2000年 AT&T 研究所客員研究員。現在, NTT コミュニケーション科学基礎研究所に勤務。工学博士。日本語形態素解析, 文字認識誤り訂正, 自然文検索, 統計的機械翻訳などの研究に従事。「音声言語処理 - コーパスに基づくアプローチ -」「単語と辞書」「自然言語処理 - 基礎と応用 -」「言語と心理の統計」などを共著。

● [10:00-10:30] 講演3：黒橋研における統計翻訳



黒橋 禎夫 (京大)

1994年京都大学大学院工学研究科電気工学第二専攻博士課程修了。博士(工学)。2006年4月より京都大学大学院情報学研究所教授。自然言語処理、知識情報処理の研究に従事。情報処理学会1993年度研究賞、同2002年度山下記念研究賞、言語処理学会10周年記念論文賞、同2005年論文賞等を受賞。

● [10:30-11:20] パネル討論"統計翻訳"はどこまで可能か

司 会：加藤 直人 (NHK 技研)

写真および略歴は「"統計翻訳"はどこまで可能か」司会紹介を参照。

パネリスト：黒橋 禎夫 (京大)

写真および略歴は「講演3：黒橋研における統計翻訳」を参照。

パネリスト：隅田英一郎 (ATR)

写真および略歴は「講演1：ATRにおける統計翻訳」を参照。

パネリスト：永田 昌明 (NTT)

写真および略歴は「講演2：NTTにおける統計翻訳」を参照。

これからが面白いプロセッサアーキテクチャ
9月7日(木) 13:00-16:00 [第3 イベント会場 (A棟 1F A101)]

[企画概要]

市販の高性能汎用マイクロプロセッサの多くが、チップに複数のコアを搭載するチップマルチプロセッサの構成を採用するようになってきました。近い将来には、搭載されるコアの数は64、128へと増加することが期待されており、これを実現するための挑戦は多岐にわたります。また、一方で、クラスタアーキテクチャ、タイルアーキテクチャ、再構成可能な特徴を利用するアーキテクチャなどが活発に議論されており、斬新なアーキテクチャが市場を席巻する可能性も否定できません。

このパネル討論では、主に若手の計算機アーキテクチャ研究者を招待し、研究の魅力を交えながら、プロセッサマイクロアーキテクチャの現在と、未来の姿を大胆に議論します。

※イベント企画の最新情報は右記 URL をご覧ください。 <http://www.arch.cs.titech.ac.jp/event/fit2006.html>



司 会：中村 宏 (東大)

1990年東京大学大学院工学系研究科電気工学専攻博士課程修了。工学博士。1996年より東京大学先端科学技術研究センター助教授。高性能・低消費電力プロセッサのアーキテクチャ、ハイパフォーマンスコンピューティング、ディベンダブルコンピューティング、デジタルシステムの設計支援などに興味を持つ。

2006年より情報処理学会計算機アーキテクチャ研究会主査。計算機アーキテクチャ分野の研究が今後さらに重要になると信じている。IEICE, IEEE, ACM 各会員。

● [13:00-13:20] 講演1：これからが面白いプロセッサアーキテクチャ

[講演概要]

1971年に発表された4004の誕生以来、半導体製造技術とアーキテクチャの進歩によりマイクロプロセッサの性能は劇的に向上した。しかしながら、消費電力や発熱、配線遅延の問題の緩和や、信頼性や安定性の確保といった新しい要求が生じている。これらの制約を満たしながら、効率的な性能向上を達成することは従来のスーパースカラでは極めて難しい。半導体製造技術の動向を見ると、Mooreの法則として知られるように、チップに集積するトランジスタ数は18から24ヶ月で2倍というペースで増加を続けており、今後も同様のペースで増加すると予測されている。

このため、多数のコアを搭載するチップマルチプロセッサやタイルアーキテクチャなどが次世代のプロセッサアーキテクチャの候補として提案され、実現に向けた研究開発が進められている。これらのアーキテクチャでは、従来の命令レベルの並列性に加えて、プログラムの広範囲に及ぶスレッドレベル並列性の利用を目指す。すなわち、プロセッサアーキテクチャは、大規模な並列処理という挑戦的な時代を迎えようとしている。

本講演では、これから面白くなるプロセッサアーキテクチャの現状と展望を大胆に議論する。



吉瀬 謙二 (東工大)

1995年名古屋大学工学部電子工学科卒業。2000年東京大学大学院情報工学専攻博士課程修了。同年電気通信大学大学院情報システム学研究所助手。2006年東京工業大学大学院情報理工学研究科講師。

並列処理、計算機アーキテクチャに関する研究に従事。

情報処理学会、電子情報通信学会、IEEE-CS、ACM 各会員。

● [13:20-13:40] 講演2：余ってるんなら無駄遣いしましょう

[講演概要]

マルチコアプロセッサに対する注目度と期待が高まっており、数年中に100コアを搭載するチップが登場するとアナウンスされている。しかし、複数のコアを利用するプログラムをどのようにして作成するのか、という疑問にはまだ模範解答が無い。そもそも、100コアを必要とする利用状況がどのようなものであるのかすら提示されていない。本講演では性能向上のほかの観点から、マルチコアプロセッサの可能性を考えてみたい。



佐藤 寿倫 (九大)

1989年、京都大学工学部卒。1991年、同大学大学院工学研究科修士課程了。同年、株式会社東芝入社。ULSI研究所においてマルチプロセッサアーキテクチャ、および消費電力見積り手法の研究に従事。1996年よりマイクロエレクトロニクス技術研究所に所属し、組み込み用マイクロプロセッサの開発に従事。九州工業大学情報工学部知能情報工学科助教授を経て、現在、九州大学システムLSI研究センター教授。

● [13:40-14:00] 講演3：マルチスレッドで次を占うと

[講演概要]

チップ上に複数の汎用プロセッサコアを集積したマルチコアプロセッサが既に市販されるようになり、今後もそのコア数が増えていくものと期待される。コアの数が増えれば1つのチップの処理能力が増大するが、その増大した処理能力をプログラムの実行性能向上につなげる方法の一つではない。一般的にはマルチコアプロセッサ上でプログラムの実行性能を向上させるためにはプログラムをマルチスレッド化することが必要と考えられるが、これとは別の見方としてマルチコア化により増大した処理能力の一部を実行の効率化に使うことで性能向上を達成するという方法も考えられる。

本講演では、プログラムのマルチスレッド実行による高速化についていくつかの姿を描きマルチコアプロセッサの可能性について予想する。



大津 金光 (宇都宮大)

東京大学理学部情報工学科、同大学院理学系研究科を経て宇都宮大学工学部情報工学科助手となり現在に至る。学生の頃、旧電総研にてSIGMA-1なるデータフロー計算機の実物を見て感激したのが始まりでこの分野に入ったが、それが良かったのか悪かったのかよく分からない。共有バス共有メモリ型並列計算機お茶の水1号の開発やマルチスレッドプロセッサアーキテクチャの研究を行なうなど計算機システムの高性能化に大きな関心を寄せる。最近ではバイナリ変換処理や実行時最適化方面の研究に寄り道中。

● [14:00-14:20] 講演4：128コア、面白いけど作れるの？使えるの？売れるの？

[講演概要]

「マルチコア」が大流行している。どこへ行っても「マルチコア」というキーワードを耳にする。実際、組込みシステムでは、複数のエンジンを搭載したヘテロジニアスなマルチコア構成が古くから採用されていた。また、近年では汎用プロセッサ・チップにおいてもCMP構成が主流となっている。さらには、用途を特化してはいるものの、百程度のコアを搭載したLSIも製品化されている。はたして、今後も大量のトランジスタを「コアの数を増やす」ために使うのが得策なのであろうか？

本講演では、様々な観点から、「数百のコアを搭載したメニーコア」の利点/欠点を議論する。

(でも、最後に「アーキテクチャ研究は面白い」事を主張する！)



井上 弘士 (九大)

1971年福岡にて生まれる。1996年九州工業大学大学院情報工学研究科修士課程修了。同年、横河電機(株)に入社するも9ヶ月たらずで退社。1997年より九州大学大学院システム情報科学研究科に入学し、高性能/低消費電力メモリ・システムに関する研究に従事。在学中、1年間ほど米国Halo LSI Design & Device Technology, Inc.へ武者修行に行く。2001年に運よく博士号を取得し、同年、福岡大学工学部電子工学科助手に。2004年9月より九州大学助教授、現在に至る。ずっとアーキテクチャ研究一筋。

● [14:20-14:40] 講演5：ソフトウェアもおもしろいこれからのプロセッサアーキテクチャ

[講演概要]

近年、Intelをはじめとする多くのCPUベンダがマルチコアプロセッサを市場に投入している。現在のところ、多くのCPUが持つコアは二つであるが、近い将来、一つのCPUに数十から100を越えるコアが搭載されると言われている。しかしながら、これらの多数のコアを一般のプログラマあるいはユーザが意識しながら使いこなすのは現実的ではなく、ソフトウェアによる自動的かつ効率的なmany coreの利用が望まれる。そのためには、ソフトウェアとハードウェアの協調動作によるシステム構築がこれまで以上に重要となる。

本講演では、特にコンパイラに着目してマルチコアを利用するソフトウェア技術に関するこれまでの取り組みを紹介し、今後のmany core時代に対する課題を述べる。



木村 啓二 (早大)

2001年早稲田大学大学院理工学研究科電気工学専攻博士課程修了。博士(工学)。2005年同大コンピュータ・ネットワーク工学科助教授。今に至る。マイクロプロセッサ、特にマルチコアプロセッサのアーキテクチャとソフトウェアの研究に従事。特に、コンパイラとアーキテクチャの協調によるマルチコア方式の研究に興味を持つ。

● [14:40-15:00] 講演6：メディア処理で128コアを使い倒そう

[講演概要]

画像の圧縮伸長や認識などのメディア情報処理は、演算性能に対する要求が急昇する一方で、機器の携帯性維持のためには低消費電力であること、また開発期間短縮や保守性向上のためには高いプログラマビリティが必要であり、こうした高演算性能、低消費電力、そして高プログラマビリティといった相反する3つの要求をバランスよく満足できる現実的なアーキテクチャ解が、実はメニーコア・マルチプロセッサである。本講演では、既に百を超えるプログラマブル・コアを集積したメディア処理向けの商用例を幾つか紹介しつつ、他分野への展開をも含めた今後の技術展望を紹介する。



京 昭倫 (NEC)

1987年東京大学・工・精密機械工学卒。1989年同大学院修士課程修了、同年NEC入社。2004年同大学院博士課程修了、博士(工学)。現在NECメディア情報研究所主任研究員。1994～1995年オランダ・デルフト工科大学訪問研究員。並列プロセッサアーキテクチャ、並列アルゴリズム、コンパイラ技術、そして画像認識処理技術等に関する研究開発に従事。高並列アレイプロセッサによるスケーラブル・メディア処理の可能性追求が現在の主要研究テーマ。1997年画像センシングシンポジウム論文賞受賞。情報処理学会、IEEE各会員。

● [15:00-15:20] 講演7：コアの数なんてどうでもいい

[講演概要]

最近、1チップに複数のコアを搭載するマルチコアが市販されており、将来には、64～128コアを集積したメニーコアを期待する向きもある。しかし、1チップに10を超えるコアが集積されることはない予想する。その理由は2つ：

まず第一に、コア間の通信にかかるサイクル数が、マルチチップからなるマルチプロセッサの時代よりむしろ増加する傾向にあり、マルチコアならではの利点を見出しにくい；

第二に、メニーコアでは、製造ばらつきからくる歩留まりの低下と主記憶のバンド幅の不足の問題を解決できない。

したがって、微細化に伴っては、チップ・サイズを小さくすることが正解であり、チップに集積可能なコアの数などを強く意識しない、従来どおりの研究が重要であると考える。



五島 正裕 (東大)

1968年生。1992年京都大学工学部情報工学科卒業。1994年同大学院工学研究科情報工学専攻修士課程修了。同年より日本学術振興会特別研究員。1996年京都大学大学院工学研究科情報工学専攻博士後期課程退学、同年より同大学工学部助手。1998年同大学大学院情報学研究科助手。2005年東京大学情報理工学系研究科助教授。現在に至る。高性能計算機システムの研究に従事。博士(情報学)。2001年情報処理学会山下記念研究賞。2002年同学会論文賞受賞。IEEE会員。

● [15:20-16:00] パネル討論：これからが面白いプロセッサアーキテクチャ

[討論概要]

新進気鋭の計算機アーキテクトの講演を受け、各人の見解に共通する研究の方向性と本質的な課題を整理し、見解の相違を超えて我々が解決すべきプロセッサアーキテクチャにおける Grand Challenge をまとめる。

司 会：中村 宏 (東大)

写真および略歴は「これからが面白いプロセッサアーキテクチャ」司会紹介を参照。

パネリスト：井上 弘士 (九大)

写真および略歴は「講演 4：128 コア、面白いけど作れるの？使えるの？売れるの？」を参照。

パネリスト：大津 金光 (宇都宮大)

写真および略歴は「講演 3：マルチスレッドで次を占うと」を参照。

パネリスト：吉瀬 謙二 (東工大)

写真および略歴は「講演 1：これからが面白いプロセッサアーキテクチャ」を参照。

パネリスト：木村 啓二 (早大)

写真および略歴は「講演 5：ソフトウェアもおもしろいこれからのプロセッサアーキテクチャ」を参照。

パネリスト：京 昭倫 (NEC)

写真および略歴は「講演 6：メディア処理で 128 コアを使い倒そう」を参照。

パネリスト：五島 正裕 (東大)

写真および略歴は「講演 7：コアの数なんてどうでもいい」を参照。

パネリスト：佐藤 寿倫 (九大)

写真および略歴は「講演 2：余ってるんなら無駄遣いしましょう」を参照。

オープンソースソフトウェアの教育活用

9月5日(火) 9:00-12:00 [第4イベント会場 (A棟 2F A202)]

● [9:00-9:10] 開会のご挨拶

総司会・開会挨拶：佐々木 整 (拓殖大)

● [9:10-9:30] 講演 1：OSS 普及推進政策について



田代 秀一 (情報処理推進機構)

1987 年筑波大学大学院博士課程工学研究科終了。工学博士。

同年 通商産業省工業技術院電子技術総合研究所 (現 産業技術総合研究所) 入所。

2001 年、独立行政法人産業技術総合研究所へ組織変更。

2002 年 4 月～2005 年 3 月、経済産業省商務情報政策局情報処理振興課課長補佐を兼務。

2006 年 1 月より独立行政法人情報処理推進機構オープンソースソフトウェア・センターセンター長。

● [9:30-9:50] 講演 2：初等中等教育における教育利用の現状



飯尾 淳 (三菱総研)

1970 年生。1994 年東京大学大学院工学系研究科計数工学専攻修士課程修了。同年 (株) 三菱総合研究所入社。

画像処理ライブラリの開発とその応用システムに関する研究を遂行する一方で、オープンソースソフトウェア

の技術開発、普及啓発、振興施策に関する調査研究活動に従事。電子情報通信学会、情報処理学会、ヒューマン

インタフェース学会、各会員。

● [9:50-10:10] 講演 3：高等教育における OSS 教育利用とコミュニティ活動



志子田有光 (東北学院大)

1985 年東北学院大学工学部卒業。1989 年東北学院大学大学院工学研究科修士修了。

1989 年岩手医科大学物理学教室助手。2002 年東北学院大学工学部物理情報工学科助教。

東北学院大学産学連携推進センター副センター長、KNOPPIX 教育利用研究会事務局長、Linux の教育現場への

普及を目指し、統合型 IT 教育教材 KNOPPIX Edu シリーズを提案、普及に努める。

IEEE、電気学会等所属。

● [10:10-10:30] 講演 4：OSS コミュニティから見た教育市情



鎌滝 雅久 (OpenOffice.org 日本ユーザ会)

1958 年生まれ。出版・チケットサービスを手掛けるびあ株式会社を経て、1994 年よりフリー。演劇から IT まで幅広く執筆活動を行う。2002 年、OpenOffice.org 日本ユーザー会参加。2004 年、「OpenOffice.org オフィシャル ユーザーズガイド」、2005 年、「オープンガイドブック OpenOffice.org 2.0」「OpenOffice.org 2.0 完全攻略ガイド」の執筆陣に参加。他に「UNIX USER」2005 年 6 月号から 11 月号まで、OpenOffice.org Base の連載を持つ。

● [10:45-12:00] パネル討論：どうやって OSS 教育利用のエコサイクルをまわすか



司 会：千葉 大作 (アルファシステムズ)

東京工業大学大学院総合理工学研究科修士課程修了。

株式会社アルファシステムズにて、オープンソースソフトウェアに関する研究開発、および、ビジネス企画を推進している。

「学校教育現場におけるオープンソースソフトウェア活用に向けての実証実験」、「KNOPPIX の高速化」、「Open School Platform」等のプロジェクトリーダー、KNOPPIX 教育利用研究会事務局幹事。

パネリスト：飯尾 淳 (三菱総研)

写真および略歴は「講演 2：初等中等教育における教育利用の現状 (仮題)」を参照。

パネリスト：鎌滝 雅久 (OpenOffice.org 日本ユーザ会)

写真および略歴は「講演 4：OSS コミュニティから見た教育市情 (仮題)」を参照。

パネリスト：志子田有光 (東北学院大)

写真および略歴は「講演 3：高等教育における OSS 教育利用とコミュニティ活動 (仮題)」を参照。

パネリスト：田代 秀一 (情報処理推進機構)

写真および略歴は「講演 1：OSS 普及推進政策について (仮題)」を参照。

リコンフィギャラブル LSI 最前線

9 月 5 日 (火) 13:00-17:30 [第 4 イベント会場 (A 棟 2F A202)]

[企画概要]

世の中では、ハードウェアは「硬いもの」、ソフトウェアは「柔らかいもの」というのが常識であろう。従来のハードウェアは、いったん設計・製作してしまうと変更が難しい。ところが、FPGA に代表される何時でも何処でもカスタム化できる、「柔らかいハードウェア」とも呼べるリコンフィギャラブルロジックデバイス (RLD) の登場によって状況が変わろうとしている。最近では、FPGA などの汎用リコンフィギャラブルデバイスが益々発展を遂げる一方、動的リコンフィギャラブルプロセッサを代表とする新しいデバイスが登場し始め、リコンフィギャラブル LSI はいよいよ本格的利用の時代に入らしつつある。

本チュートリアルでは、このハードウェア・ソフトウェアという仕分けを超えた新しい統合的なプラットフォームとしてのリコンフィギャラブル LSI について概説するとともに、電子情報通信学会 RECONF 研究会が総力を上げて編集したテキスト「リコンフィギャラブルシステム」発刊 (2005 年) 後に姿を現してきた新たなリコンフィギャラブル LSI について開発者をお招きして解説いただき、リコンフィギャラブル LSI 最前線を俯瞰する。



司 会：末吉 敏則 (熊本大)

1976 年九大・工・情報卒。1978 年同大学院修士課程了。同年九大・工・助手。同大学院助教授、九工大助教授を経て、1997 年熊本・工・教授。2006 年改組により同大学院自然科学研究科情報電気電子工学専攻教授。工博。現在、電子情報通信学会リコンフィギャラブルシステム研究専門委員会委員長、同コンピュータシステム研究専門委員会副委員長、特定非営利活動法人 FPGA コンソーシアム理事長、電子情報通信学会、情報処理学会、電気学会、IEEE 各会員。

● [13:00-13:30] 講演 1：リコンフィギャラブル LSI 総論

[講演概要]

アプリケーションに合わせてハードウェア構成を適応的に変更できるリコンフィギャラブル LSI は、高い柔軟性と性能を兼ね備える手段として大きな期待が寄せられている。リコンフィギャラブル LSI は、論理ブロックあるいは基本セルに実装可能な回路規模の尺度、すなわち粒度 (granularity) の違いによって細粒度方式と粗粒度方式とに分けられる。細粒度方式は、従来の FPGA の構成要素と同じルックアップテーブル (LUT) 等を用いており、任意の回路を実装できる。しかし、デジタル信号処理等でよく使われる演算回路を LUT で構成した場合、実装面積が大きく、速度も遅い。一方、粗粒度方式は ALU などの演算回路を最小構成としており、演算処理の多いアプリケーションには向いているが、演算器間のグルー・ロジックでオーバヘッドが生じる。本講演では、ベンチャー企業のみならず大手各社からも姿を現し始めてきている各種リコンフィギャラブル LSI について全体像を概説する。

末吉 敏則 (熊本大)

写真および略歴は「リコンフィギャラブル LSI 最前線」司会紹介を参照。

● [13:30-14:15] 講演 2 : DAPDNA-IMS の性能と開発環境 (コンパイラ)

[講演概要]

DAPDNA-IMSは、富士通製90nmプロセス上に1500万ゲート相当を集積化したダイミミックリコンフィギュラブルプロセッサである。特に、マルチファンクション・プリンタに代表されるOA機器の市場向けにターゲットを合わせた量産チップである。内部バス構成は、16ビット化を行い、PEマトリックスのクロック周波数を200MHzに上げて画像処理関係のデータ処理効率向上を図った。トータルPE数は955個(DAPDNA-2のPE換算方式にて換算)と大幅に並列演算数を増加させた。PEを高効率化することで、フィードバックループ時のデレイを抑えた。また、データ処理同期機構、JPEG向けハフマンデコード処理等の特殊処理を専用PEとして内蔵した。外部メモリは、高速時266MHzのDDR2 SDRAMを実装してメモリバンド幅を更に向上させた。DAP(CPU)もパイプラインの段数を6段に上げて、マルチCPU化を図り266MHz動作を実現した。



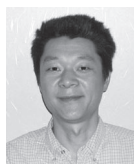
佐藤 友美 (アイビーフレックス)

1983年茨城大学工学部卒業。1983年日立電線エンジニアリング株式会社、1988年アイ・エム・テクノロジー株式会社、1993年ジー・シー・テクノロジー株式会社、1995年株式会社グラフィックス・コミュニケーション・ラボラトリーズ、1997年アスキー株式会社、1998年パシフィックデザイン株式会社、2000年アイビーフレックス株式会社設立、取締役副社長兼CTO就任、現在に至る。電子情報通信学会リコンフィギュラブルシステム研究会副委員長、IEEE会員。

● [14:15-15:00] 講演 3 : デジタルメディア向け再構成型プロセッサ FE-GA

[講演概要]

組込みシステム用SoC(System on a Chip)に搭載するアクセラレータとして開発した動的再構成プロセッサ、フレキシブル・エンジン(FlexibleEngine/Generic ALU array, FE-GA)を紹介する。組込みシステム用SoCは低コストであることが強く求められるため、FE-GA開発においては、小面積であることを主眼に置いたアーキテクチャとした。具体的には、演算系として、動的に機能を変更可変な演算器を二次元配列状に接続した演算セル・アレイ、自由度高い内部データ転送を可能とするクロスバ・ネットワーク、多バンクの演算用ローカル・メモリを組み合わせた。また、構成情報の2レベルの階層記憶とバックグラウンド転送、および自律的に動作するシーケンス制御を可能とする制御系を備えた。これらにより、90nmプロセスによる設計で4.5mm²と、高性能と小面積の両立に成功した。



伊藤 雅樹 (日立)

1987年京都大学工学部情報工学科卒業。1989年同大学院工学研究科情報工学専攻修士課程修了。同年、(株)日立製作所中央研究所に入社。論理DAシステムの研究・開発に従事。1997-98年カリフォルニア大学アーバイン校客員研究員。以降、C言語を用いたシステムレベル設計手法、リコンフィギュラブル・プロセッサの研究・開発に従事。情報処理学会、IEEE各会員。

● [15:00-15:15] 休息 (15分)

● [15:15-16:00] 講演 4 : Flex Power FPGA

[講演概要]

トランジスタの微細化スケールに伴い、漏れ電流に起因する静的消費電力の増大が大きな問題となってきた。柔軟な論理回路実現のために冗長なトランジスタを数多く必要とするFPGAにおいて、静的消費電力の問題はより深刻である。我々は、FPGAの静的消費電力を最小化する手法として、FPGAを構成するトランジスタのしきい値電圧を電氣的にコントロールし、きめ細かくプログラム可能とした低消費電力FPGA「Flex Power FPGA (FP²GA)」を提案し、これまでに、(1)既存デバイス(バルクMOS)および将来デバイス(ダブルゲートMOS)を使用した内部回路の検討、(2)制御粒度などのFlex Power FPGAアーキテクチャの検討、(3)LSI試作サービスによる実験チップの設計・試作、(4)クリティカルパス上のデバイスのしきい値を適切に割り当てるパワーマッピングCADソフトウェアの開発などを進めてきた。本発表では、これらの研究について紹介する。



小池 汎平 (産総研)

1984年 東大・工・電子卒。1989年 同大学院・工・情報・博士課程単位取得退学。同年同大・工・助手。1991年 同講師。1996年 同助教授。この間1994年より1996年までマサチューセッツ工科大学客員研究員。1996年 通産省工業技術院電子技術総合研究所入所。現在、産業技術総合研究所エレクトロニクス研究部門エレクトロインフォマティクスグループ長、工学博士。並列処理ハードウェア・ソフトウェアの研究、リコンフィギュラブルチップの研究、先端デバイスのモデリング・応用回路技術の研究などに従事。

● [16:00-16:45] 講演5：VGLC (Variable Grain Logic Cell) アーキテクチャ RLD

[講演概要]

従来のRLD (Reconfigurable Logic Device) に見られるアーキテクチャは、論理ブロックで扱う入力粒度の違いにより、細粒度方式と粗粒度方式の2種類に大別できる。しかし、実装するアプリケーションには、処理の内容に応じて、細粒度方式と粗粒度方式それぞれに適したものが存在するため、粒度が固定された既存のRLDを、汎用目的で使用することは難しい。結果として、使用するデバイスが実装するアプリケーションの種類を制限しているのが現状である。そこで我々は、両方の粒度方式の特徴を組み合わせた粒度可変構造論理セル (VGLC:Variable Grain Logic Cell) アーキテクチャを提案している。提案論理セルでは、論理ブロック毎に入力粒度の切り替えを行うことで、アプリケーションに左右されることなく、高い面積効率と動作速度の両立が期待できる。本講演では、提案セルの概略と共に評価結果を示し、その有効性について述べる。



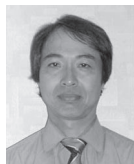
尼崎 太樹 (熊本大)

2000年九州工業大学情報工学部制御システム工学科卒業。2002年同大学院情報工学研究科博士前期課程修了。2002年から2005年までNECマイクロシステム(株)にてアナログコア開発・設計に従事。現在、熊本大学大学院自然科学研究科博士後期課程在学中。次世代リコンフィギャラブルロジックデバイスの研究に興味を持つ。情報処理学会会員。

● [16:45-17:30] 講演6：マトリクス構造の細粒度超並列SIMDプロセッサ

[講演概要]

デジタル家電機器の進展やブロードバンドネットワークの拡大により、画像・動画・音声などのデータ処理量の拡大や、個体認証やコンテンツ検索処理のために、マルチメディアデータの飛躍的な処理性能の向上が要求されている。これらのマルチメディア信号処理を、低消費電力と低コストを維持しながら、より高速に処理を"柔軟"に実行するために、従来のDSPとは異なるアーキテクチャのプロセッサの研究に取り組み、ハードワイヤードロジック相当の性能とプログラマビリティを両立させた新構造のプログラマブルデバイスを開発した。このプロセッサはデジタルコンシューマ分野で多用されるフィルタリング処理、フーリエ処理、マトリクス演算、ソーティング、イメージ処理等を、これらの処理に適した新しいアーキテクチャとして、マトリクス構造の細粒度超並列SIMD構造を基本として実現する。本講演では、プログラマブルデバイスでありながら小面積かつ高い演算処理エネルギー効率を実現するハードウェア構成と超並列処理を効率的に実行するプログラミングのためのソフトウェア構成を中心に紹介する。



有本 和民 (ルネサステクノロジ)

1979年大阪大学基礎工電、1981年同修士卒。1981年三菱電機(株)入社。以後、ダイナミックRAM設計、システムLSIのIP開発(機能メモリ、通信インターフェース、プログラマブルデバイス等)、SOI回路設計に従事。2003年(株)ルネサステクノロジに転籍。現在、システムソリューション統括本部、システムコア技術統括部副統括部長、電子情報通信学会会員、IEEEシニアメンバー、工学博士。

頑張れ日の丸テクノロジー

9月6日(水) 9:00-12:00 [第4イベント会場 (A棟 2F A202)]

[企画概要]

我が国は技術立国を標榜しているにも関わらず、テクノロジー分野、特にIT関連技術において、米国はもとより韓国や台湾などの新興勢力の後塵を拝していると感じている人が多いと思われます。それはある面では真実ですが、だからと言って悲観的になる必要は全くありません。日本には世界でトップレベルのものすごい技術を持っている企業や、他の誰も思いつかない大きな夢を追って元気に頑張っている技術者がまだまだ沢山いるのです。

本企画では、

- 1) 若者文化の必須アイテムとなった携帯音楽端末を支える職人技術
- 2) これからの物流、消費生活に大変革をもたらすであろう世界最先端ICタグ
- 3) 深宇宙探査で大きな成果をあげている日本の誇る世界最大級の望遠鏡「すばる」を支えるセンサ技術
- 4) ロボット技術の実用化で最先端を走っているパワーアシストスーツ

という4つの異なる分野のトップランナーの方々をお招きし、技術に賭ける熱い想いを余すことなく語っていただきます。聴講される方、特に日本の若い研究者の皆様が大いに刺激を受け研究に取り組むエネルギーが倍化されることを期待します。

● [9:00-9:05] 講演会主旨説明

司会・主旨説明：梶原 信樹 (NEC)

● [9:05-9:45] 講演 1：iPod のきれいなボディを支える職人の技



小林 一夫 (小林研業)

昭和 18 年新潟県生まれ。男ばかり 5 人兄弟の長男として、7 代続いた農家を継承する。趣味は、「環境にやさしい農業」を楽しむこと。根っからの負けず嫌いとい意地張り。

< 中卒 >

貧しい農家であったことと、5 人兄弟の生活と、弟達の進学を優先させるために、自ら進学をあきらめ、団体職員として就職の道を選んだ。

< 脱サラと開業 >

自分の腕一本で全てが決まる研磨業に魅力を感じ、6 年余り努めた団体職員を自ら退職し、経験者 2 名と家庭生活用品・ハウスウェアの研磨業を開業する。ホワイトカラーからブルーカラーへの転身で、発足当事は苦労の連続であった。運転資金も底を尽き、取引のある親会社の社長に頭を下げ、銀行借入の連帯保証をお願いして、苦境を乗り越えたりもした。

その後、2～3 年で工場は軌道に乗り出し、ハウスウェアはもとより、魔法瓶・3 層銅耐熱鍋・ゴルフ製品・照明部品・自動車部品・美術工芸品など、受注は多岐に渡り、業況堅調に維持し、特にバブル期景気のおおりの受けた平成 2 年頃からは、特注品の特殊加工を武器に、売上は順調に推移した。

< 苦境とチャレンジ精神 >

平成 10 年。創業以来 30 年間も取引してきた地元大手主力メーカーの部門閉鎖に伴い、受注額の大半を失い、最大のピンチを迎える。思考錯誤の末、家庭生活用品中心の体制から、各種工業部品関係の特殊研磨に進路変更。高レベルの鏡面処理などの特殊加工を強みとして、定評を博した。一方で、アルミニウム・チタン・マグネシウムなど新素材の金属研磨の意欲的に取り組み、IT 部品、ハイテク分野、医療部品なども手掛け、業界内の先駆者として日々挑戦を続けている。

● [9:45-10:25] 講演 2：世界最先端超小型 IC タグチップ「ミューチップ」の開発



宇佐美光雄 (日立)

1971 年東工大・工・電子物理卒。同年 (株) 日立製作所入社。以来、超大型計算機用超高速論理 LSI、非閾値論理 LSI、インタフェース LSI、薄型チップ応用薄型 IC カード、超小型無線 IC タグチップ (「ミューチップ」) の開発に従事。現在、同社中央研究所主管研究長。工博。

● [10:25-10:40] (休憩 15 分)

● [10:40-11:20] 講演 3：音叉式高精度力センサの開発と世界最大の天体望遠鏡「すばる」への応用



小林 政明 (新光電子)

1972 年 3 月 東京理科大学応用物理学科卒業。

1972 年 4 月 新光電子 (株) 本社設計課に勤務。差動トランス、変位計およびこれらの応用製品を開発。

1983 年 6 月 新光電子 (株) つくば事業所開発課に勤務。音叉センサの開発に従事する。

現在 新光電子 (株) つくば事業所統括技術部に勤務。

● [11:20-12:00] 講演 4：人間の身体機能を強化する世界最先端ロボットスーツ HAL



山海 嘉之 (筑波大)

1987 年 3 月 筑波大学大学院 (博) 修了。工学博士 (筑波大学)。

日本学術振興会特別研究員、筑波大学機能工学系助手、講師、助教授、米国 Baylor 医科大学客員教授、筑波大学機能工学系教授を経て現在、筑波大学大学院システム情報工学研究科教授。

日本栓子検出と治療学会会長、日本ロボット学会理事、計測自動制御学会 SI2004 学術講演会実行委員長、第 8 回神経・脈管超音波研究会学術講演会実行委員長、Cyberdyne (株) 創設者、筑波大学産学連携 ILC 山海プロジェクトリーダー、早期動脈硬化研究会世話人、欧文誌 Advanced Robotics 委員長、医学雑誌 Vascular Lab. Executive Editor などを歴任・担当。

Cybernetics, Mechatronics, Informatics を中心として、脳・神経科学、行動科学、ロボット工学、IT 技術、システム統合技術、生理学、心理学などを融合複合した人間・機械・情報系の新学術領域「サイバニクス」を開拓し、人間の機能を強化・拡張・補助する研究を推進。主な研究業績として、人間の身体機能を増幅・拡張する装着型のロボットスーツ HAL (Hybrid Assistive Limb) を世界で初めて開発し、2004 年 6 月には「HAL」の製造/販売を行う大学発ベンチャー「CYBERDYNE (サイバーダイン)」を設立。ネットワーク医療、次世代医療福祉システムの研究開発も精力的に推進している。2005 年 11 月 The 2005 World Technology Awards (IT ハードウェア部門) 受賞。2006 年 5 月、首相官邸での総合科学技術本会議にて、ロボットスーツを披露。

災害時安否確認システムの現状と今後の課題

9月6日(水) 15:30-17:00 [第4イベント会場 (A棟2F A202)]

[企画概要]

災害時において被災者の安否確認を行うシステムにはいくつかの形態があり、様々のところで実用化・試行運用されている。中でも、インターネットベースのIAA (I Am Alive) システムと携帯電話事業者の提供する災害伝言板は、広く一般に利用され始めている。さらに、地方自治体や企業がそのコミュニティ・従業員に提供する安否確認システムもでてきている。最近では、これらの安否確認システムを相互接続する試みも始まった。一方、安否確認システムを狙ったクラッキングも増加してきており、セキュリティ面の対処がますます重要になってきている。今回、安否確認システムの現状について概観するとともに、相互接続やセキュリティ対策など、今後の検討課題とその解決法を討論する。

司 会：中山 雅哉 (東大)

● [15:30-15:50] 講演1：被災者安否確認システムの在り方に関する調査研究



海老名 毅 (NICT)

1990年3月 横浜国立大学大学院工学研究科電子情報工学専攻修了。同年3月 郵政省通信総合研究所知識処理研究室。1995年7月 同研究所ユニバーサル端末研究室。1999年7月 同研究所非常時通信研究室。2004年1月 独立行政法人情報通信研究機構セキュアネットワークグループ。2006年4月 同機構情報通信セキュリティ研究センター推進室。現在に至る。

専門分野：非常時通信，ユニバーサルアクセシビリティ等

● [15:50-16:10] 講演2：安否情報を含めた総合防災情報システム構築例～岩手県宮古市の取り組み



山崎 正幸 (宮古市)

1965年9月28日生 (岩手県下閉伊郡田老町)。1986年4月 田老町採用。1993年4月 岩手県庁派遣 岩手県総務部地方振興課理財係主事。1994年4月 総務課財政係主事。1997年10月 同 主任。1999年4月 税務財政課財政係主任。2001年4月 総務企画課庶務係主任 (IT推進特命：庁内LAN等新設)。2002年4月 同企画防災係主任(地域づくり担当)。2003年6月 同 企画防災係主任(防災担当)。2004年10月 同 副主幹(防災担当)。2005年6月 宮古市危機管理監危機管理室主任 (防災担当)。

● [16:10-17:00] パネル討論：災害時安否確認システムの現状の課題と今後の展開 - 相互接続など]



司 会：山崎 克之 (長岡技術科大)

1980年電通大・通信卒。KDD (現KDDI) (株)においてNo.7, ISDN, ATM, IPの情報通信ネットワークおよびマルチメディア通信の研究開発・実用化と国際標準化に従事。この間、情報通信ネットワークに関わる多くの産学官連携プロジェクトを遂行。2005-2006年九州工業大学情報工学部客員教授。博士 (情報工学)。(株)KDDI研究所・研究戦略室長を経て2006年から長岡技術科学大学電気系教授。



パネリスト：湯瀬 裕昭 (静岡県大)

1986年秋田大・鉱山・電子工卒。1988年秋田大院・鉱山・修士課程修了。同年秋田県立西目高校電子機械科教諭。1991年静岡県大・経営情報学部助手。1996年同学部講師を経て、2002年同学部助教授。現在に至る。大学の安否情報システム、災害情報支援システム (東海地震ドットネット) などの開発と運用に従事。2001年から静岡県災害情報システム研究会の座長。情報処理学会、日本災害情報学会、教育システム情報学会などの会員。



パネリスト：伊藤 正憲 (NTT ドコモ)

1976年芝浦工業大学電子工学科卒。同年日本電信電話公社入社。同社大学部を経て、電話交換機の保守・建設に従事。1992年NTT移動通信網株式会社に移籍。移動通信用交換機開発、ネットワーク系の新機能導入担当課長、iモードセンター運用担当部長を経て、2006年現職。

国土交通省「災害時における公共交通情報システムのあり方に関する検討委員」、内閣府／文部科学省「防災のための地球観測衛星等の利用に関する検討委員」、「電気通信事業者協会 安全・信頼性協議会副会長」



パネリスト：今井 弘 (KDDI)

1979年 埼玉大学理工学部卒。
1994年 第二電電 (株) 入社。以降、携帯電話ネットワークの設計・開発・標準化に従事。
2000年 KDD, DDI, IDO の3社合併により KDDI 設立。au 技術本部技術開発部課長。
2001年 au 技術本部無線アクセス技術部課長。2003年 au 技術本部 au 技術企画部課長。
2005年 技術開発本部 au 技術企画部総括グループリーダー。

パネリスト：中山 雅哉 (東大)

夢を与える情報教育とは？

9月7日(木) 9:00-12:00 [第4イベント会場 (A棟 2F A202)]

[企画概要]

情報技術は21世紀社会の基盤技術として不可欠なものであり、我が国産業経済の重要な位置を占めるものである。このことを考えると、情報分野の人材育成は極めて重要である。しかし、現在、少年少女たちの情報科学・技術への関心が薄れ、大学・情報関連学科への進学希望者が減少傾向にあるという憂慮すべき事態に直面している。

そこで、次代を担う若者たちに「情報」の学問的魅力を与え、情報について深く学んでみようという希望を持たせるような情報教育のあり方について議論する。パネル討論では、情報に関する学問（情報学）が情報科学・工学に閉じたものではなく、理科系・文科系にわたる学際的な領域に広がるものであるという視点にたつて、情報学の学問的意義、大学における情報教育、初等中等教育における「情報学」教育、高校教科「情報」、大学入試への「情報」科目の導入、等、情報教育のあり方について議論する。

● 1. 問題提起パネル討論

● [9:00-9:05] 趣旨説明

[討論概要]

標記パネル討論の趣旨に沿い、若者に夢を与えるような情報教育のあり方について討論を行う。「情報」を文理学際的な広い見地から捉えてその学問的意義を再認識し、大学における情報教育、初等中等教育における情報教育、高校教科「情報」の内容、大学入試科目への「情報」の導入について議論する。これらの議論を踏まえ、「若者に夢を与える」情報教育の実施に向けて高大連携して取り組むことの必要性を議論する。さらに、「情報の学問的意義」について広く世間の理解を得るために産学連携して教宣活動を行うことが重要であることを訴える。

パネル討論では問題意識をパネリストとフロアとで共有し、情報教育のあり方について自由闊達な討論をしたい。特に、この問題を大学関係者だけのものと捉えるのではなく、広く教育界、官界、産業界の人たちの間で忌憚らない意見を交換する場としたい。



司 会：雨宮 真人 (九大)

1967年九州大学工学部電子工学科卒業。1969年同大学院工学研究科修士課程修了。日本電信電話公社（現NTT）研究所勤務を経て、1988年より九州大学大学院総合理工学研究科教授、同システム情報科学研究院教授。現在同大学院特任教授。工学博士。プログラミング言語・処理系、自然言語理解、データフローアーキテクチャ、関数型/論理型言語、並列分散処理、知能処理アーキテクチャ、マルチエージェントシステム等の研究に従事。現在、情報教育について関心をもっている。

情報処理学会理事、電子情報通信学会理事、情報・システムソサイエティ会長を歴任。現在電子情報通信学会副会長。

● [9:05-9:20] 1. 情報学の学問的意義

[講演概要]

情報学という学問分野の変遷と最近の動向と、初等・中等教育における情報教育の変化を踏まえて、大学における情報教育のあり方や京都大学で平成18年度から実施されている全学共通情報教育について紹介する。また、文部科学省の「異メディアアーカイブの横断的検索・統合ソフトウェアの開発」プロジェクトを通じて我々が昨年度から行っている小学校における総合的な学習の時間の学習支援活動を紹介し、今後の初等教育での情報教育のあり方について述べる。



パネリスト：田中 克己 (京大)

1974年京大・工学、1976年同大学院修士課程了。1979年神戸大・教養部・助手、1986年工学部助教授、1994年工学部教授を経て、2001年より京大大学院情報学研究科社会情報学専攻教授。京大・工博。主にデータベースとマルチメディア情報システムの研究に従事。ACM TODS Area Editor、情報処理学会論文誌：データベース共同編集委員長、情報処理学会理事など歴任。情報処理学会フェロー、日本データベース学会副会長、京都大学全学共通教育情報教育専門委員会委員長。

● [9:20-9:30] 2. 大学全学教育における「情報学」教育について

[講演概要]

夢を与える情報教育の一環として、大学での基礎教育としての情報教育について述べる。大学のレベルにおいても、情報教育というと、情報機器の使い方に終始するおそれがある。それに対し、情報学の基礎として、「コンピュータにのせる」ことの意義や重要性、その面白さ、を伝えるような側面も重要である。このような、コンピュータ・サイエンス的な側面を、どのように全学教育の中で展開していくかについて、東工大での教育例などを紹介しながら述べる。



パネリスト：渡辺 治 (東工大)

1980年3月東京工業大学理学部情報科学科卒業。1982年3月東京工業大学理工学研究科情報科学専攻修士課程卒業。1982年6月東京工業大学理工学研究科情報科学専攻博士課程中退。工学博士(東京工業大学1987年5月)。1982年7月東京工業大学理学部情報科学科助手。1986年8月東京工業大学工学部情報工学科助手。1989年3月同学科基礎情報工学講座講師。1990年6月同助教授。1997年10月東京工業大学院情報理工学研究科数値計算科学専攻教授。現在に至る。

● [9:30-9:50] 3. 初等中等教育における「情報学」教育について

[講演概要]

夢を与える情報教育の一環として、初等中等教育における情報教育について述べる。初等中等教育、特に、小中学校における情報教育の現状を、高等学校や高等教育における情報教育への連結性の観点から紹介する。特に、小中学校においては、総合的な学習や各教科の教育を通じて、情報を一つの学問分野として認識し、高等学校や高等教育における情報教育の基盤を形成することが重要である。小中学校において、そのような教育を可能とするために、小中学校の教員と大学教員との連携の方法を探る。



パネリスト：増澤 利光 (阪大)

1982年 阪大・基礎工・情報卒。昭和62年 同大大学院博士後期課程了。同年同大情報処理教育センター助手。同大基礎工助教授を経て、1994年奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助教授。2000年阪大基礎工学研究科教授。2002年阪大情報科学研究科教授。現在に至る。1993年コーネル大客員準教授(文部省在外研究員)。分散システムに関する研究に従事。工学博士。ACM、IEEE、電子情報通信学会、情報処理学会各会員。

[講演概要]

京都市立稲荷小学校では教育目標を「心豊かに自ら学び 活動する子どもの育成」と掲げ、自己教育力の育成を目指している。2003年より京都大学大学院 情報学研究科 生物圏情報学講座 酒井・守屋研究室と共同研究をおこなっている。主に高学年の「総合的な学習の時間」において、児童の情報活用能力の育成のため、モバイル機器を活用して情報を収集し、児童の課題決定支援、コンテンツ作成支援を目的としたアプリケーションなどを開発し、より効果的な支援システムについて、実践し研究を進めている。また京都大学総合博物館、大阪コミュニケーションアート専門学校とも連携し、実体験においても児童の探究心をより満足させ、豊かな感性を育てようとして取り組んでいる。2006年からはさらに田中研究室とも連携し、児童の調べ学習における効果的なインターネット検索の方法等も模索している。私たちがめざしているのは、児童が感動を追究しようとする心であり「自分ですごい」と思える自己肯定感である。そのために情報機器や検索システムを活用し、また実体験をも重視する取組を行っているのである。



パネリスト：綿越 貴久 (京都市立稲荷小学校)

1984年 京都教育大学教育学部卒業。
同年 京都市立学校教員採用。
2002年より現在校勤務。

● [9:50-10:25] 4. 高校教科「情報」について

[講演概要]

大学進学を目指す生徒は、情報の科学的な理解、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響の理解とともに、情報技術の基本原則を十分に理解しておく必要がある。このため、大学進学を希望する生徒向けに、4単位以上の新しい科目を設けることを提言する。新科目では、たとえば、現在の「情報B」と「情報C」を統合し、重複する部分を整理し、「情報B」の「(2) コンピュータの仕組みと働き」の部分を充実させ、情報技術の基本原則を理解させる。情報技術の基本原則の学習に、演習を含め、全体の半分程度の授業時間を割り当てるのが望ましい。演習は「情報処理の仕組み」の理解に重点をおき、問題と基本操作を与え、手順を考えさせる。コンピュータのプログラミングである必要はない。なお、大学進学を希望しない生徒を対象に、現在の「情報A」を若干改訂した科目も用意する。



パネリスト：高木 直史 (名大)

1981年京都大学工学部情報工学科卒業。1983年同大大学院修士課程修了。1984年京都大学工学部助手。1990年～91年スタンフォード大学客員研究員。1991年京都大学工学部助教授。1994年名古屋大学工学部助教授。1998年同大大学院工学研究科教授。2003年同大大学院情報科学研究科教授。

〔講演概要〕

高等学校の教科「情報」では、「考える楽しさ」といった、思考判断を通しての問題解決を1つのポイントにして指導していけたら、と考えている。小中学校の総合的な学習の時間や技術家庭の時間では、確かに発表をしたり、パソコンを使って情報検索をしたりはしているが、それは、「結果は・・・です。以上です」のような調査することのみが主体の発表が多いように見受けられる。高校では、自らがよく考える、つまり、「その・・・の部分に疑問を感じ」「それがそのような理由は・・・と考え」「実際に・・・を試してみた結果、・・・であったので」「私たちの考えは・・・」「さらに・・・といった疑問が・・・」といった思考と論理の展開を感じられる内容を求めたい。そして、広がりや深まりのある、論理的な内容の発表を通して、学ぶことの「楽しさ」、「探求する姿勢」をつくることにより、将来への夢を醸し出すことができたら、と思っている。



パネリスト：小原 格（東京都立町田高校）

東京学芸大学教育学部特別教科教員養成課程数学科専攻卒業。1993年4月東京都立新島高等学校数学科教諭として入都。2000年4月東京都立町田高等学校へ異動。現職教員等講習会により、教科「情報」免許取得。東京都「東京の教育21」研究開発委員（情報）、東京都高等学校情報教育研究会幹事（情報活用部会長）。本校において、文部科学省学力向上フロンティアハイスクール及び教育課程研究指定校情報科担当教員。日本文教出版「情報A」教科書編集委員。

〔講演概要〕

高等学校の教科「情報」は、大学入試になじまないという意見がある。「情報」が文書作成、表計算、プレゼンテーション、図形処理などのソフトウェアの操作方法を習得するためのリテラシー的な教科であり、ペーパーテストには向かない、というのが理由の1つである。しかし、こうした「情報活用の実践力」の部分は、中学校の技術家庭科に移行しつつある。これに対して、「情報の科学的な理解」や「情報社会に参画する態度」の部分は、大学入試に十分耐えうる内容を有しており、教科「情報」では、それらを学習する割合が増加する傾向にある。そこで本校では、「情報の科学的な理解」の指導を、座学やツール型の自作教材を使った実習で行っている。「情報」を得意とする生徒に自己の適性を生かした大学教育を受ける機会を提供するとともに、小中高大を貫いた学問体系にするためにも、大学入試に「情報」を追加することが必要である。



パネリスト：天良 和男（東京都立駒場高校）

三菱電機（株）を経て、都立高校の教諭となる。27年間物理科教諭として従事したのち、2003年度から情報科教諭となる。文部省・高等学校学習指導要領（教科「情報」）作成協力者、郵政省・電気通信審議会（デジタル放送端末）専門委員、日本物理教育学会理事・編集委員などを歴任。現在、東京都立駒場高等学校・情報科教諭、東京都高等学校情報教育研究会・情報科学部長、日本学生科学賞審査委員。

〔講演概要〕

「情報教育＝コンピュータ」と直結するイメージは、最近ようやく薄らいできた。しかし、一部ではまだイメージが残っている。このことに対する理由とコンピュータ操作スキルが情報教育でないことを伝えたい。高等学校における教科「情報」は全教科・全領域に必要な力であり土台になると考える。小・中・高での情報教育の体系化についてモラル、マナー、スキルの点から考えてみたい。また、発展的に情報学を専門的に学んだ子どもの進路についての意見交換を希望する。（将来への展望が夢であると考えている）また、2005-2006年度の二年間の研究として上月情報教育財団（現：上月スポーツ・教育財団）より研究助成を受け「モニタリングシステムを装備した遠隔制御による二足歩行ロボットの教材開発」（＝専門教科「情報」及び工業における指導者養成カリキュラムの作成をとおして）に取組んでいるのでその内容についても紹介したい。



パネリスト：松尾 慶太（福岡県教育センター）

1989年福岡工業大学工学部通信工学科卒業。1989年福岡県立福岡工業高等学校機械科実習助手。1990年福岡県立戸畑工業高等学校 情報技術科教諭を経て2004年より福岡県教育センター指導主事、現在に至る。近年の活動としては、「School Automation（学校の情報化）に関するコンピュータシステムの開発と教育的効果の研究」。福岡県教育センター調査研究事業として「情報通信ネットワークの教育利用に関する研究－地域イントラネット相互のテレビ会議システムの活用に向けて－」及び、「先進的情報技術の教材化に関する研究－学校におけるロボット等先端技術の教育利用を通して－」等の研究活動に従事。

● [10:25-10:50] 5. 大学入試における「情報」科目の導入へ向けて

〔講演概要〕

情報学は数学、物理・化学さらには国語・英語と並んで重要な基礎学問であり、情報学の理解は自然現象、人文現象、社会現象を捉えるために必須である。従って、大学入学試験においても情報学の理解を問う入試科目を導入すべきである。そこで、情報学を入試科目として導入するに至る二つの具体的なロードマップを提言する。一つに、高校教科「情報」の内容を充実し授業時間数を4単位にした上で、大学入試センター試験の入試科目として「情報」を採用し、さらに学部・学科によっては個別入試においても「情報」を独立した入試科目とする。もう一つのロードマップとして、現状の高校教科「情報」を仮定した上で、数学もしくは物理と融合した入試科目を設定し情報に関連した問題を出す。また、後期入試の小論文もしくはAO入試において、情報に関連した問題を出すことも現実的な方策として推進すべきである。



パネリスト：萩谷 昌己（東大）

1982年東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻修士課程修了。京都大学数理解析研究所を経て、現在、東京大学大学院情報理工学系研究科教授（コンピュータ科学専攻）。計算システムをモデル化し、特に演繹的な方法を用いて、その性質を計算機上で検証することに興味を持っている。最近では、電子計算機から成る計算システム以外にも、生物系や分子系も研究の対象としている。特に、分子コンピューティングの研究を行っている。

〔講演概要〕

学校教育で大切なことは、ものごとを考える筋道を教えることだと思います。考える筋道の教育とは、対象のしくみを教えることであり、ブラックボックス化を排除することです。現在、社会の新しい発展のために、国民の「情報」活用能力を高めることが求められています。それには、学校で、ブラックボックス化された情報機器の操作方法を教えるのではなく、コンピュータを用いた問題解決とは何かを体験的に学ばせることが必要です。東京農工大学情報工学科のアドミッションポリシーはそのような観点から策定され、入試に「情報」を出題しております。講演・パネル討論では「情報」入試の決定に至るまでの検討経過を紹介したいと思います。



パネリスト：中森眞理雄（農工大）

1977年東京大学大学院修了、工博。同年東京農工大学講師、現在同大学教授。専門分野は最適化アルゴリズムとその応用。情報処理教育のモデルカリキュラム J90 の策定に参画。情報処理学会「数理モデル化と問題解決」研究会主査、「コンピュータと教育」研究会主査、カリキュラム委員会（現情報教育委員会）幹事等を歴任。日本オペレーションズ・リサーチ学会理事。

● [10:50-11:10] 6. 情報学教育に関する高大連携及び産学連携

〔講演概要〕

現在、高校と大学が連携して教育活動を行う「高大連携」の取り組みが全国で盛んになりつつある。提言書で述べられている高校教科「情報」の改善、ひいては大学入試における情報科目の導入に向けた施策を検討するとき、高大連携の枠組みは現時点で最も現実的かつ有効な手段を提供すると思われる。ここ数年の高大連携の急速な活性化の状況や、高校・大学に与える影響を考慮すると、高校と大学の連携協力は情報教育の将来を考える上でもきわめて重要な潮流であると考えられる。各大学の情報系学部・研究科が中心となって、情報教育を中心とした新しいスタイルの高大連携を活性化させていくことが、とりもなおさず、学問としての情報分野の社会的認知を高めることにつながるものと期待される。



パネリスト：青木 孝文（東北大）

1988 東北大学工学部電子工学科卒業。1992 同大学大学院工学研究科博士課程修了。同年同大学工学部助手、1994 年同大学大学院情報科学研究科助手、1996 年同助教授、2002 年同教授。1997-1999 年科学技術振興事業団さきがけ研究 21 研究者兼任、現在に至る。超高速デジタル計算アルゴリズム、画像センシング、映像信号処理、バイオメトリクス、VLSI 設計技術、多値論理、分子コンピューティングなどに関する研究に従事。

〔講演概要〕

これまで大学は、学問を納めた優秀な人材を輩出することで産業界に寄与してきた。しかし、少子化と団塊の世代の勇退を控え、より効率的な人材育成が望まれてきている。加えて、理学や工学へと夢を持って進学する学生の減少が心配されている。世界での地位を英知により確保すべき我が国では、学問と産業が手を携えて人材育成を行う必要がある。科学的探求心や好奇心を初等中等教育において育むために共同で何ができるかを考えようではありませんか？



パネリスト：工藤 峰一（北大）

昭和63年4月、北海道大学助手（工学部情報工学科）に採用。

平成13年4月より北海道大学大学院教授。

パターン認識、学習理論に関して研究を続けている。

● [11:10-12:00] II. 総合討論

IT分野から激震が起こる！～産業界から大学への「直接行動」が始まった～
9月7日（木）13:00-16:00 [第4イベント会場（A棟2F A202）]

〔企画概要〕

高校生の情報系離れが止まりません。少子化で全体の志願者数が減っているとはいえ、関東の中堅私大の電気・情報系学科の中には、ここ数年で志願者が半減したところもあります。日本のIT技術者の予備軍は質・量ともに危機的な状況を迎えています。一方で、永らく独自の企業内研修で人材を育成してきたIT産業界からは、国際競争力低下の著しい昨今、大学教育こそ見直すべきという声が高まっています。昨年の経団連による大学のIT技術者教育批判とIT専門職大学院設立の提言は、産業界自らが求める教育の具体的な内容を示すものでした。このように、「入り口」「出口」双方から改革を迫られる情報系の大学教育・研究は、今後どのような方向に進むべきなのでしょう。

今回は、ソフトバンクが設立し、全ての授業をeラーニングで行うサイバー大学、産学連携による大学院教育の新しい可能性を示す東芝、シリコンバレーの大学発ベンチャーからスタートし、現在は世界標準のユビキタスの基礎教育に取り組むシスコシステムズなど、企業発の新しい教育の試みを紹介します。さらに、人材育成政策を強化する経済産業省、「ITスキル標準V2」を新たに打ち出した情報処理推進機構、予備校から総合教育・情報産業に変貌しつつある河合塾を交えた白熱の議論は、まさに「淘汰の時代」の大学像を浮き彫りにするでしょう。



コーディネーター・司 会：阪田 史郎（千葉大）

1974年早稲田大学理工学部電子通信修士卒。同年NEC入社、以来同社中央研究所にて、コンピュータネットワーク、マルチメディア通信、インターネット、モバイルコンピューティング、ユビキタスシステム等の通信とコンピュータの統合領域の研究に従事。工学博士。同社パーソナルC&C研究所所長、インターネットシステム研究所所長を経て2004年より千葉大学大学院教授。1997～1999年奈良先端科学技術大学院大学客員教授。情報処理学会フェロー。電子情報通信学会幹事・理事、情報処理学会理事・監事歴任。著書「マルチメディアとネットワークによるグループウェア実現技術」、「マルチメディアシステム」、「モバイルコンピューティング」、「インターネットとQoS制御」、「インターネットプロトコル」、「ユビキタス技術 無線LAN」、「ワイヤレス・ユビキタス」、「ユビキタスセンサネットワーク」、「SIP/UPnP 情報家電プロトコル」、「ZigBee センサネットワーク」、「UWB/ワイヤレスUSB」、「組込みシステム」他30余。

● [13:05-13:20] [産業技術人材育成政策の針路] ポジションステートメント1：イノベーション型大学への期待



白井 基晴（経済産業省）

1967年10月14日生。最終学歴：東京工業大学理工学研究科無機材料工学専攻。

1992年4月通商産業省生活産業局繊維製品課。1993年6月中小企業庁指導部技術課。1995年6月科学技術庁原子力局調査国際協力課。1997年6月資源エネルギー庁公益事業部原子力発電課。1999年10月科学技術庁原子力安全局原子力安全課原子力安全調査室長補佐。2000年4月総理府大臣官房原子力安全室長補佐。2000年6月同調査室安全調査官。2001年1月経済産業省大臣官房政策評価広報課長補佐。2002年5月外務省在ベネズエラ日本国大使館。2006年1月経済産業省産業技術環境局大学連携推進課課長補佐。

● [13:20-13:40] [new model] ポジションステートメント 2: 『サイバー大学』の挑戦



吉村 作治 (サイバー大学)

早稲田大学客員教授 (工学博士)。1943年東京生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。
1966年、アジア初となるエジプト調査隊を組織しエジプト全土をジェネラル・サーベイ。以来40年にわたり発掘調査を継続している。現在「吉村作治の早大エジプト発掘40年展」が全国巡回中。
近著に『ほつほつはくらはエジプト探検団』。著書多数。
公式HP <http://www.egypt.co.jp> サイバー大学HP <http://www.jcei.co.jp/>

● [13:40-14:00] [new model] ポジションステートメント 3: 産学連携による大学院研究教育の改善への試み



山下勝比拡 (東芝)

1978年イギリス・London大学 Imperial College でPh.D. 取得。1979年株式会社東芝入社 (当時、株式会社東京芝浦電気)。システムエンジニアとして、産業向、官公庁・地方自治体向けアプリケーションシステム開発、設計部長、技術部長、技師長を経て、経営戦略部で事業戦略、事業開発も担当。その後、インターネットサービス事業を立ち上げ、2003年に研究開発センター首席技監、2003年秋に技術企画室へ。現在、国内外の産学連携、技術者教育、海外開発拠点開発などを担当。

● [14:00-14:20] [new model] ポジションステートメント 4: 民間が生んだグローバルなネットワーク・IT教育



太田 順子 (シスコシステムズ)

1993年にアメリカン・スクール・イン・ジャパンでNTTのマルチメディア網を使った4校間教育プログラムのコーディネートをしたのを始めに、世界中の子供たちから世界平和のための意見をインターネットで集約し大人に提言する会議を実施した「GII ジュニアサミット」のインターネット教育プログラムおよび会議でのインターネット技術担当、教育用ウェブコンテンツコンテスト ThinkQuest@JAPAN の立ち上げなど「インターネットと教育」という切り口で、インターネットをK-12の教育にいかに関与するかを中心に仕事をしてきた。1998年からは、インターネットを利用する教育のインフラを支えるネットワーク技術者を学校において養成するプログラム「シスコ・ネットワークングアカデミー」の日本展開を手がけている。現在そのプログラムを開講している学校数は182校。また、特定非営利活動法人インターネット・ラーニングアカデミーの設立メンバーで、現在シスコ・ネットワークングアカデミーの教員トレーニングと学校サポートはそのNPOで実施されている。
主な著作書: 「21世紀コンピュータ教育辞典編者 (旬報社)、インターネット教育イエローページ編著 (旬報社)
主な委員会メンバー: (社) 日本教育工学振興会 情報化推進コーディネータ委員会協力委員、(社) 日本教育工学振興会 新しい学習環境の整備に関する調査研究委員会

● [14:20-14:35] [new proposal] ポジションステートメント 5: ITスキル標準の活用は大学と企業をつなげる



小川 健司 (情報処理振興機構)

1976年日本IBM入社。アプリケーションSW、米国/英国研究所にてOS、ミドルウェア開発を担当後、オフィス製品のAPにおける開発責任者となる。
APソフトウェア製品戦略、ロータス社のマーケティング部長等を歴任後、1998年PMとして長野オリンピックITプロジェクトの成功に貢献した。以降コンピテンシー開発部長としてプロフェッショナル人材の育成を担当。2005年7月独立行政法人 情報処理推進機構 ITスキル標準センター長 就任。

● [14:35-14:50] [new proposal] ポジションステートメント 6: コンピテンシーによる新大学評価手法



山本 真司 (河合塾)

静岡県生れ。1990年学校法人河合塾入塾。高校教員向け雑誌「ガイドライン」編集長を勤めた後、2005年11月には、理工系100分野の学問紹介と大学ランキング、トップ研究者の紹介を兼ねた『学問前線2006』(角川書店)を刊行し、反響をよんだ。他には、別冊宝島『学問の鉄人-大学教授ランキング <文科系編>』『14才と17才のBOOKガイド』(メディアファクトリー)、『わかる!学問 環境・バイオの最前線-大学・研究者ランキング』『わかる!学問 理科系の最先端』<共に角川書店刊>等。

● [15:00-16:00] パネル討論：大学ビックバンの仕掛けとは

[討論概要]

日本のIT産業界の競争力は、久しく世界に大きく引き離されているといわれ、その原因が大学の人材育成の遅れにこそあると言う人も少なくない。昨年日本経団連公表のレポートによる大学のIT教育への批判と、新たなIT専門職大学院設立への提言は、大きな話題となった。小泉首相を座長とするIT戦略本部の新たな大綱、文部科学省による「先導的ITスペシャリスト育成事業」はまさにそれを受けた動きといえる。日本経団連も、産業界による教育支援を実際に行うことを宣言した。

その一方で、経済産業省では大学自らが変わるために、日本技術者教育認定機構（JABEE）を支援し、大学活動評価手法開発事業では質的・量的ミスマッチを可視化させることに始まり、大学自らが教育目標にするにたるだけの産業界サイドのデータや教育手法の抽出、教員評価や大学経営評価手法も検討している。また、情報処理推進機構も、「ITスキル標準」を大学との連携の中で位置づけようとしている。

そのような動きを受けて、本パネル討論では産業界も関与して本格的に変えようとしている大学のIT教育のあり方について、有識者による議論を行う。

司 会：阪田 史郎（千葉大）

写真および略歴は「IT分野から激震が起こる！」司会紹介を参照。

パネリスト：太田 順子（シスコシステムズ）

写真および略歴は「ポジションステートメント4：民間が生んだグローバルなネットワーク・IT教育」を参照。

パネリスト：小川 健司（情報処理振興機構）

写真および略歴は「ポジションステートメント5：ITスキル標準の活用は大学と企業をつなげる」を参照。

パネリスト：白井 基晴（経済産業省）

写真および略歴は「ポジションステートメント1：イノベーション型大学への期待」を参照。

パネリスト：山下勝比呂（東芝）

写真および略歴は「ポジションステートメント3：産学連携による大学院研究教育の改善への試み」を参照。

パネリスト：山本 真司（河合塾）

写真および略歴は「ポジションステートメント6：コンピテンシーによる新大学評価手法」を参照。

パネリスト：吉村 作治（サイバー大学）

写真および略歴は「ポジションステートメント2：『サイバー大学』の挑戦」を参照。

ウェブアルゴリズム - サイバー空間のためのIT技術の新潮流 -
9月6日（水）9:00-12:00 [第5イベント会場（A棟2F A203）]

[企画概要]

World Wide Web（ウェブ、WWW）は、この10年間でマルチメディアやオンラインデータベースをとりこみながら急速に発展し、サイバー空間と呼ばれる巨大な情報の集積を構成している。これらの情報データ量の爆発的な増大は、人間がもつ情報理解能力の限界をはるかに超えている。そのため、サイバー空間の膨大な情報から、誰もが必要な情報を容易にとりだすことを可能にするための新しい技術が求められている。本企画では、サイバー空間の大規模情報処理に関して、社会との関わりを意識しつつ、情報技術の研究開発を指向している研究者の方々をお招きして、現在遂行中の研究プロジェクトの最新の研究成果を紹介し、サイバー空間のための情報技術の未来像を探る。また、情報分野の若手研究者に対しては、基礎研究と応用研究の関わりや、基礎技術が社会・人間に接する技術として発展する可能性について考えるための機会を提供したい。



司 会：有村 博紀（北大）

北海道大学大学院情報科学研究科教授。博士（理学）。1990年九州大学大学院総合理工学研究科修了。九州工業大学助手、助教授、九州大学助教授等を経て、2004年より現職。1996年ヘルシンキ大学客員研究員。1999-2002年科技団さきがけ研究員。データマイニングと情報検索等の大規模データ処理アルゴリズムの研究に従事。2005年より文科省科研費特別推進研究「知識基盤形成のための大規模半構造データからの超高速パターン発見」研究代表者（2007）。ACM、情報処理学会、人工知能学会各会員。

● [9:00-9:50] 講演 1：新世代型データベースのための基盤技術

[講演概要]

高速パターン照合は、テキストデータをはじめとする大規模非定型データの高速処理において核となる技術である。本講演では、高速パターン照合技術の理論と実践の最前線を紹介する。第一の話題は、講演者らの研究グループで研究を進めてきた圧縮パターンマッチング技術である。圧縮パターンマッチングは、圧縮されたデータに対して直接パターン照合を行う情報検索技術である。最近、講演者らのグループは、データを圧縮することでパターン照合を高速化することに成功し、情報検索の新しい技術パラダイムを提案した。第二の話題は、超高速パターン照合技術の実社会での応用事例である。SIGMA エンジンは、一方向逐次処理による超高速パターン照合技術であり、1980年代に九州大学の有川節夫らによって提案されて以来、九州大学大型計算機センター（現 情報基盤センター）で公開運用され、研究開発が進められてきた。最近では官民の大規模情報システムにおいて高速で柔軟な検索のための核技術として用いられている。このSIGMA技術の最近の進展について紹介する。



竹田 正幸 (九大)

九州大学大学院システム情報科学研究院情報理学部門教授、博士（工学）。

1989年九州大学大学院総合理工学研究科修士課程修了後、同大学助手、助教授を経て、2004年より現職。

2000年よりJST さきがけ研究 21「情報と知」研究員、2003年よりJST 戦略的創造研究推進事業「発展・継続」研究員。文字列パターン照合、データ圧縮、発見科学、データマイニングなどに興味を持つ。

● [9:50-10:40] 講演 2：情報を発想力に変える連想エンジン

[講演概要]

汎用連想計算エンジン GETA は、1000万件規模の文書DBに対して高速な類似計量計算機構を提供して、連想検索や特徴語抽出などを簡単に実装できるようにした。我々はGETAを用いて、これまでに図書館の蔵書DB (Webcat Plus)、古書店の在庫DB (JIMBOU)、テーマ別新書棚 (新書マップ)、博物館収蔵品DB (文化遺産オンライン)などの各種情報源に連想機構を付加して、それらを「知識の公共財」とすべく発信を行ってきた。

本講演では、制作目的やメディアの異なるこれら多数の情報源を動的に関連づけて人間の発想を刺激する、まったく新しい情報探索環境「想・IMAGINE」を紹介する。



高野 明彦 (国立情報学研)

国立情報学研究所連想情報学研究開発センター長、教授。博士(理学)。1980年東京大学理学部数学科卒業。同年、日立製作所入社。2001年より現職。2002年より東京大学大学院情報理工学系研究科教授 (併任)。

関数プログラミング、プログラム変換、連想計算、連想の情報学に興味をもつ。ACM、日本ソフトウェア科学会、情報処理学会、言語処理学会各学会に所属。Webcat Plus、文化遺産オンライン、新書マップ、ブックタウン JIMBOU など「連想する情報サービス」の構築に情熱を燃やしている。

● [10:40-11:30] 講演 3：Web 時代のツールとしての知識検索技術

[講演概要]

World Wide Web 上の検索ツールを使って、様々な調べ物や探し物をするのが日常的になっている。しかし、Webには統制がないため、必要かつ信頼できる情報だけを選び、そこから新たな知識を得ることはユーザの腕次第である。講演者は、Webから知識を効率よく取得するための研究プロジェクトを行っている。本講演は、こうした研究事例を紹介しながら、Web時代のツールとしての知識検索技術について概観する。知識検索では、情報検索、自然言語処理、人工知能などの技術融合が重要である。講演では、領域横断的な視点から概観することで、エンドユーザだけでなく、知識検索システムについて自ら研究開発しようとする研究者にとっても役立つ情報を提供する。



藤井 敦 (筑波大)

1998年3月東京工業大学大学院情報理工学研究科博士課程修了。現在、筑波大学大学院図書館情報メディア研究科助教授、博士(工学)。自然言語処理、情報検索、音声言語処理、Webマイニングの研究に従事。IPA 未踏ソフトウェア創造事業にて事典検索サイト Cyclone を開発し、2003年に「天才プログラマー／スーパークリエイター」を受賞。その後も科研費特定領域研究「情報学」・「情報爆発」等を通じて Cyclone を高度化している。NTCIR や NEDO「2005年度第1回産業技術研究助成事業」では特許情報処理の研究プロジェクトを行っている。

ACL、情報処理学会、人工知能学会、言語処理学会、電子情報通信学会各学会に所属。

● [11:30-12:00] 講演 4：ウェブ・アルゴリズムーウェブグラフにもとづく検索やマイニングー

[講演概要]

ウェブで動作するアプリケーションの多くは、ウェブページのリンク構造を表現するウェブグラフと呼ばれるモデル上で、設計・開発されている。本チュートリアルでは、はじめにウェブグラフに関して知られている、基本的な観察事実や性質を概観する。その上で、検索エンジンを例として、それらが必要とするアルゴリズムをとりあげ、その特徴や解決すべき問題点などを考察する。つづいて、ウェブグラフをもとにして、ウェブ上の隠れた情報を発見する構造マイニングについて、その手法や研究成果のいくつかを紹介する。



宇野 裕之 (大阪府大)

1987年 京都大学工学部数理工学科卒業、1989年 同工学研究科修士課程修了、1992年 同工学研究科博士課程退学、工学博士。大阪府立大学総合科学部助手などを経て、同大学理学系研究科講師。主として離散構造とアルゴリズム、組合せ最適化、およびそれらの手法の現実問題への適用に関する研究に従事。ACM、電子情報通信学会、情報処理学会など会員。

ビジュアル最新動向 2006

9月6日(水) 15:30-17:30 [第5 イベント会場 (A棟 2F A203)]

[企画概要]

昨今の画面薄型テレビの普及や、Blu-ray disc、HD DVD等の次世代DVD、そしてIPTVやデジタル放送・ワンセグ放送、ブロードバンドインターネット上でのビデオストリーミングやVODなど映像に関連する様々なコンテンツ・サービスが急速に拡大しています。このたび企画しましたチュートリアルでは、これらの映像関連の最新動向についてわかりやすく説明し、更に今後拡大が見込まれる将来の技術として3次元画像をはじめ静止画・動画に関連する興味深いかつ我々に身近になりつつある技術に関する説明を行います。本チュートリアルでは映像に関連する業務を行う全ての方を対象とします。

● [15:30-16:10] チュートリアル 1：次世代 IPTV に対する NTT の取り組み

[講演概要]

2005年ごろより、IPTVサービスを通信事業者が提供する共通サービスとの認識から仕様共通化の検討が各国で開始されています。米国では本年4月、IPTVの標準化に向けて家電メーカ(CEA)とAT&T社、Verizon社、ベルサウス社の間でネットワークと端末の接続についてのガイドライン協約を結びました。また、IPTVの普及が著しい中国では、国策として通信、放送、家電業界を跨り、IPTV市場の拡大を図っています。また、本年4月、ITU-TにおいてもIPTVの標準仕様策定を目指したIPTVフォーカスグループ(IPTV-FG)が発足しました。

本講演では現在、世界各国で検討が開始された次世代IPTVサービスのねらい、これまでのNTTの取り組み状況、ITUの動向、今後の技術的課題について説明します。



川添 雄彦 (NTT)

1987年NTT通信網第二研究所に入社以来、衛星通信システム、パーソナル通信システム、誤り訂正技術の研究開発に携わる。

2003年サイバーソリューション研究所第一推進プロジェクトにおいて放送と連携したブロードバンドサービスの研究開発プロジェクトのディレクタ/主幹研究員。ARIBサーバ型放送作業班副主任としてARIB-B38の策定に従事。

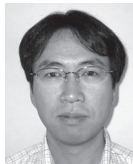
● [16:10-16:50] チュートリアル 2 : AVC/H.264 と高品位映像アプリケーション

[講演概要]

AVC/H.264 は、ブルーレイ、HD-DVD への採用により HDTV 高圧縮技術として着目され、最近ではデジタル放送の IP 再送信を含む IPTV 向け映像符号化方式としても注目を集めつつある。また、海外においても、HDTV 放送に AVC/H.264 を採用するケースが目立っているなど、放送・ストレージ分野での HDTV 利用に際して、AVC/H.264 の重要性が高まってきている。

HDTV は近年の薄型大画面テレビの急激な普及のトリガとなっており、映像表示技術の進展に伴って、コンテンツ側の品質改善に対する期待も高まっている。現在 AVC/H.264 標準化では、映像コンテンツの高品位化に向け、色信号のサブサンプルを行うことなく 4:4:4 RGB 信号の直接符号化を可能とする 4:4:4 プロファイルの検討が進められている。

以上の現状を踏まえ、本講演では、高品位映像アプリケーションの視点から AVC/H.264 の実用化動向と最新標準化動向、ならびに今後の展望について述べる。



関口 俊一 (三菱)

1992 年早大・理工修士卒、同年三菱電機株式会社入社。

以来、映像符号化アルゴリズム、デジタル映像伝送システム、コーデック LSI・ミドルウェアの開発に従事。

1996 年より MPEG 標準化に参加。1999～2001 年 (株) NTT ドコモ出向。

現在、三菱電機株式会社 情報技術総合研究所 専任。

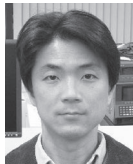
電子情報通信学会、映像情報メディア学会、SMPTE 各会員。

● [16:50-17:30] チュートリアル 3 : MPEG における 3 次元映像符号化 MVC の標準化動向

[講演概要]

3 次元映像の映像信号の表現手法と符号化について、MPEG 国際標準化団体で標準化が進められている。現在では、MVC という活動名での多視点映像符号化と、SSV という活動名での奥行き情報ベース符号化の標準化が進められている。このうち、MVC では 3D シーンを撮影した複数のカメラ映像を効率よく圧縮符号化するための符号化方式の標準化が進められている。MVC は MPEG-4 AVC(H.264) の拡張標準として標準化が開始されている。MVC ではカメラパラメータを積極的に利用した予測符号化やカメラの個体差を予測する符号化方法が提案されている。また機能面においては、多視点映像ならではのスケラビリティやランダムアクセスを実現するための手法が提案されている。

本講演では 3 次元映像符号化に関する MPEG での国際標準化動向を、MVC の活動と SSV の動向を中心に紹介する。



木全 英明 (NTT-AT)

1993 年、名古屋大学工学部応用物理学科卒業。1995 年、同大学院修士課程了。同年、日本電信電話 (株) に入社。

ヒューマンインタフェース研究所およびサイバースペース研究所において、画像符号化・誤り耐性および

画像通信方式の研究開発に従事。現在、NTT アドバンステクノロジー(株)に所属。MPEG MVC アドホックグループ co-chair。

日常生活を変えるサイバーワールド技術とは？ (デモ展示つき)

9月7日 (木) 10:00-16:00 [第6 イベント会場 (A棟 7F A715)]

[企画概要]

ネット検索, ネットショッピング, ネットゲーム, 携帯メール, 携帯音楽プレーヤなど, ネットワークの普及や機器の小型化によって, 情報システム技術が日常生活に深く関係する時代が到来している。これは, 従来, 実社会またはリアルワールドで行われてきた人々の行動の一部がネット社会に移行し, サイバーワールドが自然と形成されつつあることの現れでもある。そこで, デモが可能な具体性のある技術を取りあげるとともに, Web2.0を中心としたネット検索に関する技術に焦点を当てることで, 日常生活を変える次のサイバーワールド技術とは何かを探る。

● [10:00-12:00] デモセッション

デモ講演 1: A Remote Diagnosis System for Rotating Machinery Using Virtual Reality

ベラミン・モエズ, 安部 憲広, 田中 和明 (九工大), 瀧 寛和 (和歌山大)

デモ講演 2: タンジブルな N-to-1 コミュニケーションのための電子寄せ書きツール

井原 雅行, 小林 稔 (NTT)

デモ講演 3: GUEST:GUI Editor by STate diagram; 状態遷移図に基づく Web ブラウザプログラミング

山本 瑞秋, 米倉 達広 (茨城大), 岡本 秀輔 (成蹊大), 鎌田 賢, 荒木 俊郎 (茨城大)

デモ講演 4: 嗜好の個人差と状況依存性を考慮した映画推薦システム

小野 智弘 (KDDI 研), 本村 陽一, 麻生 英樹 (産総研)

デモ講演 5: 状態遷移図に基づく Flash ムービー記述環境

中川 昌幸 (茨城大), 岡本 秀輔 (成蹊大), 鎌田 賢, 米倉 達広 (茨城大)

● [13:00-14:00] 招待講演 1: 情報爆発 NLP

黒橋 禎夫 (京大)

● [14:00-15:00] 招待講演 2: 「Web2.0」へ導く技術

佐々木 稔 (茨城大)

● [15:00-16:00] デモセッション発表者による講演

デモセッション発表者による講演 (各 10 ~ 15 分程度) を予定。

A 分野：モデル・アルゴリズム・プログラミング（第1分冊）

[アルゴリズム (1)]

- 9月5日(火) 9:00～12:00 1T会場 (A棟 A713教室) 座長 高橋 淳也 (宮城大)
- A-001 「P=NP?」問題の最終解決 :Part 2○山口人生 (インターナショナル インテリジェント インフォメーション)
- A-002 企業イントラグリッドでのジョブ割当てアルゴリズムの比較評価
..... ○薄田昌広 (関西電力)・峰 久也・藤本典幸・萩原兼一 (阪大)
- A-003 (講演取消)
- A-004 キュービック補間を用いた魚眼レンズ画像の高画質補正アルゴリズムの提案
.....◎森 隆寛 (早大)・外村元伸 (大日本印刷)・池永 剛 (早大)
- A-005 量子ビット表現と対交換戦略を用いた進化的アルゴリズム中山 茂・今別府孝洋・◎小野智司 (鹿児島大)
- A-006 正規表現関数を用いた文字列照合アルゴリズムの高速化に関する研究
.....◎石田俊一 (九大)・大塚 寛 (愛媛大)・本多和正 (九大)
- A-007 Approximation Algorithms for Optimal RNA Secondary Structures Common to Multiple Sequences
.....◎Takeyuki Tamura・Tatsuya Akutsu (京大)
- LA-001 繰返し表現木最小化アルゴリズム◎斉藤智哉・中村篤祥・工藤峰一 (北大)
- LA-002 単語幅を制約した接尾辞木の効率のよい構築アルゴリズム◎上村卓史・喜田拓也・有村博紀 (北大)

[アルゴリズム (2)]

- 9月5日(火) 13:00～15:00 2T会場 (A棟 A713教室) 座長 有村 博紀 (北大)
- A-008 The Representation of SEBP Orientation by PLCP Orientation
.....◎Jiro Nishitoba・Sonoko Moriyama・Hiroki Nakayama・Hiroshi Imai (東大)
- A-009 Improving Exponential-Time Bound for the 3-Domatic Number Problem
.....Magnus Halldorsson (University of Iceland)・○渡辺 治 (東工大)・山本正基 (京大)
- A-010 平面領域上の最小スタイナ木を求めるアルゴリズム◎菊地 融・高橋淳也 (宮城大)
- A-011 Balanced (C_4, C_5) -2t-Foil Decomposition Algorithm of Complete Graphs○潮 和彦 (近畿大)
- A-012 不完全なスターグラフの新しい構成と経路選択算法◎岩崎達矢・金子敬一 (農工大)
- A-013 (n, k) -パンケーキグラフにおけるハミルトン閉路◎澤田直樹・金子敬一 (農工大)

[プログラミング]

- 9月5日(火) 15:30～17:30 3T会場 (A棟 A713教室) 座長 西崎 真也 (東工大)
- A-014 時間オートマトンのタイム付き有限状態機械への変換法◎岡田 嶺・樋口昌宏 (近畿大)
- LA-003 後継関数を持つリスト型非線形再帰プログラムに対する再帰除去法◎市川祐輔・上田和紀 (早大)
- A-015 メソッドキャッシュへのメソッド呼び出し回数を用いたエージングアルゴリズムの導入◎長田 忍・橋崎修二 (長崎大)
- A-016 メモリダンプとロードによる組み込み Java(TM) 実行環境の起動高速化◎川崎進一郎・池原 潔・井奥 章 (日立)
- A-017 Ruby と拡張可能構文解析器生成系による COINS を用いたコンパイラの自動生成
.....◎舞田純一・中井 央・佐藤 聡 (筑波大)
- A-018 リッチクライアント・プラットフォームに基づく数値計算プログラムの統合開発環境の開発
.....古賀雅伸・◎松永隆徳 (九工大)

[数理モデル化と問題解決 (1)]

- 9月6日(水) 9:00～12:00 4T会場 (A棟 A713教室) 座長 鈴木 泰博 (名大)
- A-019 混合のエントロピーを利用したコミュニティ検出アルゴリズム◎大久保 潤・田中和之 (東北大)
- A-020 A Measure of Reputation for More Precise Representation◎米澤弘毅 (北大)
- A-021 売上データ分析に基づく新商品仕様の決定方法◎安藤伸幸 (大阪工大)
- A-022 セルオートマトンモデルを用いた反応・拡散・対流現象に関する考察◎梅木真衣・鈴木泰博 (名大)
- A-023 並列型近傍幅調節機能を持つシミュレーテッドアニーリング三木光範・◎平尾洋樹・廣安知之 (同志社大)
- A-024 探索中の良好な解と交叉を行うシミュレーテッドアニーリング三木光範・◎平岩健一郎・廣安知之 (同志社大)
- A-025 ロットルーピング問題への最適化技術の適用事例
.....○手塚 大・伊藤俊明・山崎伸晃・宗形 聡 (日立東日本ソリューションズ)
- A-026 PERT における資源需要の均衡化を求めるアルゴリズム王 瑞剛・◎趙 華安・三原徹治 (九州共立大)

[数理モデル化と問題解決 (2)]

- 9月6日(水) 15:30～17:30 5T会場 (A棟 A713教室) 座長 三木 光範 (同志社大)
- LA-004 デュアルモードビークルに対する利用者デマンドと走行時分の変動を考慮した確率的スケジューリングアルゴリズム
.....北村亮介 (電通大)・◎富井規雄 (鉄道総研)
- A-027 等数原理に基づく適応ベクトル量子化の特徴○前田道治 (久留米高専)・重井徳貴・宮島廣美 (鹿児島大)
- A-028 分散・集中型コントロールに基づく知的照明システム◎後藤和宏・三木光範・廣安知之 (同志社大)
- A-029 ロボットナビゲーション問題におけるシミュレーテッドアニーリングプログラミングの有効性の検討
.....三木光範・◎西村 悟・廣安知之 (同志社大)
- A-030 シリアルリンクロボットの跳躍最適化問題に対するソフトコンピューティング手法に基づく解法
.....◎松井 猛・宇野剛史・加藤浩介・坂和正敏・東森 充・金子 真 (広島大)
- A-031 ドローネ三角形分割を用いたアダプティブリメッシング法の研究◎小野大輔・岡本 覚 (島根大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2006年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

B 分野：ソフトウェア（第1分冊）

[ソフトウェア工学]

- 9月5日(火) 9:00～12:00 1S会場 (A棟 A712教室) 座長 古川 善吾 (香川大)
- B-001 列車統合管理システムのシステム試験仕様再利用技術の提案 … ○辰巳尚吾・吉田 実・河田 薫・増渕洋一 (三菱)・梶田清明 (三菱電機コントロールソフトウェア)
- B-002 分野特化編集ツールと汎用表計算ソフトウェアによる大規模データの構築-監視制御設備モデルと仕様表のデータ変換- … ○北村操代・原内 聡・荻山哲平 (三菱)
- B-003 シーケンス図と状態遷移図で記述されたUMLモデルを対象としたモデル検査による形式的検証 … ○佐藤貞仁・宮崎 仁・横川智教・佐藤洋一郎・早瀬道芳 (岡山県大)
- B-004 詳細仕様書を用いたテストコード自動生成ツールに関する研究 … ○川田将照 (香川大)
- B-005 記録内容の柔軟かつ迅速な変更が可能な業務記録システムの提案 … ○田代大輔・川本真一 (日立)
- B-006 (講演取消)
- B-007 (講演取消)
- B-008 適切なクラス抽出を行うためのユースケース記述推敲支援 … ○山梨敦志・松浦佐江子 (芝浦工大)

[スケジューリングとネットワーク]

- 9月5日(火) 13:00～15:00 2S会場 (A棟 A712教室) 座長 緑川 博子 (成蹊大)
- B-009 CP/MISFにおけるタスク優先順位の決定と評価 … ○菅田尚大・六沢一昭 (千葉工大)
- B-010 PCクラスタ上での階層統合型粗粒度タスク並列処理のMPI実装手法 … ○吉田明正 (東邦大)
- B-011 状況に応じて変化する負荷に適応可能な自律協調型タスクスケジューリングに基づくキャンパスグリッドの構築 … ○泉澤秀樹 (北大)・長尾光悦 (北海道情報大)・大宮 学 (北大)
- B-012 大規模移動体シミュレーションを対象とした動的タイムステップ制御方式
～ロボカップレスキューシミュレータへの適用検討～ … ○尾崎敦夫 (三菱)・松下和隆 (三菱電機インフォメーションシステムズ)・白石 将・渡部修介・青山 功・原田雅之・古市昌一 (三菱)
- B-013 SNTPにおける取得時刻の精度向上に関する一考察 … ○牛木一成・橋本圭輔・伊藤智子・小河原成哲 (NTTコムウェア)
- B-014 SNTPとPCクロックを用いたパケット到着時刻取得の精度向上に関する一考察 … ○橋本圭輔・牛木一成・伊藤智子・中村 誠・渡邊岳彦・小河原成哲 (NTTコムウェア)

[高性能計算]

- 9月5日(火) 15:30～17:30 3S会場 (A棟 A712教室) 座長 吉田 明正 (東邦大)
- B-015 異オペレーティングシステム混合クラスタによる並列計算の検討 … ○戸倉由貴・當山孝義・谷澤 茂 (日本工大)
- B-016 並列言語MpCの高機能化 … ○小山浩生・緑川博子・甲斐宗徳 (成蹊大)
- B-017 高速自動微分のためのC言語プリコンパイラ … ○吉岡 毅・久保田光一 (中大)
- B-018 S-TCIによる球対称重力場における運動方程式の数値計算 … ○佐藤 哲 (オプトリンクス)
- B-019 CIP法の並列計算による大規模電波伝搬解析 … ○古賀雅典・園田 潤 (仙台電波高専)

[ソフトウェア・サイエンス]

- 9月6日(水) 9:00～12:00 4S会場 (A棟 A712教室) 座長 甲斐 宗徳 (成蹊大)
- B-020 ソースコードにおけるコメント文の割合と保守性との関係に関する考察 … ○岡崎博和・阿萬裕久・山田宏之 (愛媛大)
- B-021 自律分散処理システムのための強マイグレーション化モバイルエージェント … ○櫻井康樹・田久保雅俊 (成蹊大)・佐々木竜介 (横河電機)・甲斐宗徳 (成蹊大)
- B-022 直交表のソフトウェアテストへの応用-多因子・多水準・強さ2,3,4対応の直交表生成ソフトの応用- … ○須田健二 (群馬高専)
- B-023 プログラムの自動生成における入出力条件について … ○恐神正博 (福井工大)
- B-024 鉄道路線モデルに基づくプログラムの動作の可視化 … ○西尾嘉矩・六沢一昭 (千葉工大)
- B-025 モデル検査器を用いたFUCEマルチスレッドプログラムの開発 … ○越村三幸 (九大)・梅田真由美 (パナソニックITS)・平兮 亮・藤田 博・長谷川隆三 (九大)
- B-026 博物館情報を用いた複合的メタデータスキーマの実現手法に関する検討 … ○秋元良仁・亀山 渉 (早大)
- B-027 RDF自動生成システムの構築-形態素解析を利用したメタデータの抽出- … ○鈴木育男・久保 洋 (室蘭工大)

[OSとシステム構成法]

- 9月6日(水) 15:30～17:30 5S会場 (A棟 A712教室) 座長 高汐 一紀 (慶大)
- B-028 Tenderにおけるプロセス実行途中状態の保存と復元の基本機能 … ○難波弘樹・田端利宏・谷口秀夫 (岡山大)
- B-029 ヘテロジニアスマルチコアCPUの特性を考慮したOS … ○東 賢一朗・小林良岳・中山 健・前川 守 (電通大)
- B-030 AnTにおける高速なプロセス間通信の実現 … ○梅本昌典・田端利宏・乃村能成・谷口秀夫 (岡山大)
- B-031 アプリケーションの継続利用を考慮したリポート高速化手法 … ○小比賀亮仁・菅原智義 (NEC)
- B-032 プロセスとして実現したデバイスドライバにおける仮想空間切り替えの影響 … ○野村裕佑・岡本幸大・乃村能成・谷口秀夫 (岡山大)・丸山勝巳 (国立情報学研)
- B-033 制御系モデリング言語CSMLを用いた制御系設計 … ○竹井佑介・古賀雅伸 (九工大)

[ファイルシステムとストリーミング]

- 9月7日(木) 9:00~12:00 6S会場(A棟 A712教室) 座長 北須賀輝明(九大)
- B-034 Hi-Tactix ストリーミングデータ転送ライブラリ(GDSL)を応用したIフレーム蓄積配信機能の開発および評価
.....◎峯 博史・高田有明・野村 賢・竹内 理(日立)
- B-035 Xenのストレージ仮想化に関する考察◎藤田智成・稲垣博人(NTT)
- B-036 ディレクトリに着目したバッファキャッシュ制御法の評価
.....◎小峠みゆき・齊藤 圭・田端利宏・乃村能成・谷口秀夫(岡山大)
- B-037 ユーザによるファイルシステム拡張機能の管理操作を可能にするコマンドファイル方式の提案
.....◎石井陽介・藺田浩二(日立)
- B-038 遅延書き込みを用いた暗号化ファイルシステムの高速度手法の提案◎松田直人・田端利宏(岡山大)

C 分野：ハードウェア (第1分冊)

[リコンフィギャラブルシステム]

- 9月5日(火) 9:00~12:00 1B会場(8号館 812教室) 座長 久我 守弘(熊本大)
- LC-001 入力粒度に依存しない再構成論理セルのフィジビリティスタディ
.....◎尼崎太樹・山口良一・中山英明・飯田全広・末吉敏則(熊本大)
- LC-002 FPGA 遠隔再構成技術と遠隔検証手法◎永田和生・原田英雄・牛嶋和行(熊本大)・
柴村英智(熊本大/九州システム情報技研)・久我守弘・末吉敏則(熊本大)
- LC-003 超並列コプロセッサ IP を用いたリコンフィギャラブル高速ビジョンシステムの構築と評価
.....◎渡辺義浩・小室 孝(東大)・鏡 慎吾(東北大)・石川正俊(東大)
- C-001 プログラマブルなロードストアユニットと演算部が協調する再構成プロセッサアーキテクチャ
.....◎下尾浩正(佐世保高専)・山脇 彰・岩根雅彦(九工大)
- C-002 Handel-C による SHA-1 の設計とハードウェア/ソフトウェア最適分割の検討
.....◎船附誠弘・山崎勝弘・小柳 滋(立命館大)
- C-003 ハードウェアによる N-Queens 問題の解決
.....◎中園浩司(九大)・松崎隆哲(近畿大)・越村三幸・藤田 博・長谷川隆三(九大)
- C-004 Mersenne Twister の IP コア化について◎吉田勝彦・辻 洋平・佐々木 稔・岩井啓輔・黒川恭一(防衛大)
- C-005 (講演取消)
- C-006 2次割当問題に対するタブー探索法に基づくハードウェア解法◎木村義洋・若林真一(広島市大)

[システム LSI 設計技術]

- 9月5日(火) 13:00~15:00 2B会場(8号館 812教室) 座長 小松 聡(東大)
- LC-004 システムレベル設計へのアスペクト指向技術の応用
.....◎山崎亮介・小林憲貴・Zakaria Nurul Azma(埼玉大)・橋崎修二(長崎大)・吉田紀彦(埼玉大)
- C-007 システムレベル設計におけるリファクタリング規則の抽出とカタログ化
.....◎木村正裕・小林憲貴・山崎亮介・吉田紀彦(埼玉大)
- C-008 Rip-up IP を用いたカスタマイズ設計環境◎亀井智紀(早大)
- C-009 OpenMP によるハードウェア動作合成システムの検討◎中谷高之・山崎勝弘(立命館大)
- C-010 FPGA 向大規模回路分割手法に関する研究◎李 ユウ・吉村 猛(早大)
- C-011 ECC 回路内蔵 16 ビットマイコンの設計◎姜 珂・野平江梨・鈴木五郎(北九州市大)

[コンピュータシステム]

- 9月5日(火) 15:30~17:30 3B会場(8号館 812教室) 座長 安里 彰(富士通研)
- LC-005 ハイブリッド並列プログラミングによる MPEG2 エンコーダの高速化◎山崎勝弘・池上広済・小柳 滋(立命館大)
- LC-006 スレッド特徴量に基づくマルチコアプロセッサスケジューリング
.....◎船矢祐介・小寺 功・滝沢寛之・小林広明(東北大)
- C-012 高速画像認識のための超並列ビジョンプロセッサの設計◎山口光太・渡辺義浩・小室 孝・石川正俊(東大)
- C-013 サーバ主導型リクエスト多重度決定アルゴリズムの提案と iSCSI への適用
.....◎中塚大樹(日立)・白木伸二郎(日立コンピュータ機器)・岩満幸治(日立)
- C-014 仮想ストレージ向け性能管理方法の提案◎宮崎扶美・田口雄一・佐藤雅英・篠原大輔・兼田泰典(日立)
- C-015 SMI-S 準拠コピーサービスの実現方式◎柴山 司・篠原大輔・坂下幸徳・小野卓也・守島 浩(日立)

[ディメンダブルシステム]

- 9月6日(水) 9:00~12:00 4B会場(8号館 812教室) 座長 温 暁青(九工大)
- C-016 モジュールセット化による低面積組込み自己テストの実現
.....◎岩田大志(奈良高専)・青山瑠美(奈良先端大)・山口賢一(奈良高専)
- C-017 VLSI のランダムパターンテストにおける残存故障数分布について
.....◎福本 聡・黒川晴申・新井雅之・岩崎一彦(首都大)
- LC-007 Proposal of Dependable Clock Signal Distribution◎三浦幸也(首都大)
- C-018 自己組織化ハードウェアによる耐故障性向上手法の CPU への適用について◎実方友裕・新井浩志(千葉工大)
- C-019 FPGA を用いたスポッティバイト誤り制御符号の能力検証◎笹田武志・金子晴彦(宇宙航空研究開発機構)
- C-020 大規模ディザスタリカバリシステム向け非同同期リモートコピーの研究
.....◎出口 彰・二瀬健太・荒川敬史・山本康友(日立)
- C-021 ストレージ横断リモートコピーにおけるライトデータ順序保証方式
.....◎牧 晋広・平岩友里・渡辺和彦・宮田和久(日立)
- C-022 画像処理用 Small World CNN のフォルト・トレラント実装◎松本勝慶・森 秀樹・上原 稔(東洋大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチ賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2006年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

D 分野：データベース（第2分冊）

[行動パターン・検知]

9月5日(火)	9:00～12:00	1N会場(8号館 844教室)	座長 廣川佐千男(九大)
LD-001	アクセスオブジェクトの順序対に着目したふるまい検知		
◎山原裕之・藤原聡子(立命館大)・野口豊司(内田洋行)・島川博光(立命館大)		
D-001	状況に応じたサービスを提供するための人や物に共通の情報管理		◎毛利有貴・島川博光(立命館大)
D-002	変化していく危険領域と避難状況を可視化した避難誘導		◎石井 悠・島川博光(立命館大)
D-003	動的グループ形成による災害現場適応型シミュレーション		◎山本大輔・島川博光(立命館大)
D-004	グラフ・マッピングとパッシブ型RFIDを用いた避難経路誘導		◎濱上和也・島川博光・山本大輔・石井 悠(立命館大)
D-005	自動収集された活動関連情報の整理と可視化		◎江坂直紀・島川博光(立命館大)
D-006	目的と時間による実体と電子情報の統一化された管理		◎清水彰浩・島川博光(立命館大)
D-007	経験データに基づく開示対象者との関係に応じた情報の自動変換		◎小林勇人・島川博光(立命館大)

[マイニング・オブジェクト]

9月5日(火)	13:00～15:00	2A会場(8号館 811教室)	座長 島川 博光(立命館大)
D-008	A Framework for Top-k Frequent Closed Patterns Mining		
◎QUANG TRAN MINH・SHIGERU OYANAGI・KATSUHIRO YAMAZAKI(立命館大)		
D-009	制約充足確率を用いた非逆単調な制約に関するパターンマイニング		◎北原洋一・折原良平・櫻井茂明(東芝)
D-010	設計仕様書を用いた分析クラス図の生成に関する研究		池辺正典・田中成典・古田 均・中村健二・◎細島啓史(関西大)
D-011	言語透過的なネイティブオブジェクトデータベースの研究		◎高野光弘(千葉大)
D-012	接触履歴における物体間関連を考慮した行動クラスタの抽出		◎藤原聡子・島川博光(立命館大)

[データベース・ストレージ]

9月5日(火)	13:00～15:00	2N会場(8号館 844教室)	座長 金子 邦彦(九大)
D-013	データ統合サーバのトランザクション対応		◎善家直己・杉寄百合子(日本IBM)
LD-002	重複レコード照合における分割統合照合方式の提案と有効性評価		◎立石健二・久寿居 大(NEC)
D-014	安否確認システムにおける不完全なデータベースのマッチング		◎経田拓馬・鈴木 優・川越恭二(立命館大)
D-015	IP-SAN 統合 PC クラスタにおける NPB 実行性能比較		◎神坂紀久子(お茶の水女子大)・山口実靖(工学院大)・小口正人(お茶の水女子大)・喜連川 優(東大)
D-016	複数イニシエータ接続 iSCSI ストレージの性能に関する考察		◎山口実靖(工学院大)・小口正人(お茶の水女子大)・喜連川 優(東大)
D-017	DLCM におけるデータ再配置を支援するストレージ管理ソフトウェアの開発		◎花井知広・坂口明彦(日立)

[データ解析]

9月5日(火)	15:30～17:30	3N会場(8号館 844教室)	座長 渡辺知恵美(お茶の水女子大)
LD-003	記事の印象を伝えるニュースリーダー wEE の開発と評価		◎熊本忠彦・灘本明代(NICT)・田中克己(京大)
D-018	PC 内の操作履歴を用いた Web 閲覧行動の分析		◎金澤功尚(電機大)・森田哲之・田中明通・加藤泰久(NTT)・高橋時市郎(電機大)
D-019	多次元データマイニングを用いた Web 空間の構造解析の評価		◎林 和宏・大森 匡・山下由展・星 守(電通大)
D-020	マハラノビスタグチ法を用いた監視サーバの異常発見・診断の検討		◎酢山明弘・森 紘一郎・折原良平(東芝)
D-021	相関ルールを用いた 24 時間自由行動下血圧データの解析		◎米永和倫・長尾智晴(横浜国大)
D-022	データ分析の医療への応用		◎岩井幸子(産業医大)・石野福弥・阿万広大(早大)

[情報検索(1)]

9月6日(水)	9:00～12:00	4N会場(8号館 844教室)	座長 石田 栄美(駿河台大)
D-023	検索のパーソナライズにおける文脈の追跡		◎緒方宏紀・小柳 滋(立命館大)
D-024	ユーザの意思を反映した WEB 検索の効率化		◎大石哲也・長谷川隆三・藤田 博・越村三幸(九大)
D-025	リンク航行時の HTML パスからのユーザ興味抽出		◎酒井まり穂・◎島川博光(立命館大)
D-026	閲覧履歴からの興味抽出に基づく情報の整理		◎篠池未咲・江坂直紀・島川博光(立命館大)
D-027	PC 操作履歴に基づいた行動検索 / 提示システム		◎森田哲之・倉 恒子・日高哲雄・大浦啓一郎・田中明通・加藤泰久(NTT)
D-028	視聴者の好みとニュースの重要度を考慮したダイジェストの作成		◎澤井里枝・沼田 誠・松村欣司・上野幹大・金次保明・八木伸行(NHK)
LD-004	Fair News Reader: バランス感覚のある記事推薦方式の提案		河合由起子(京産大)・◎熊本忠彦(NICT)・田中克己(京大)
D-029	ユーザ間の類似性に着目したユーザ格付け		◎辻 隆生・柳本豪一・福永邦雄(大阪府大)

[分類]

9月6日(水)	15:30～17:30	5N会場(8号館 844教室)	座長 古川 哲也(九大)
D-030	縮約構造とカーネル法を利用した分類手法の検討		◎大野博之・稲積宏誠(青学大)
D-031	階層表現可能な時系列データからの有用な特徴抽出の試み		◎福田遼平・大野博之・稲積宏誠(青学大)
D-032	構造類似性を基にしたグラフクラスタリング手法の検討		◎和田貴久・大野博之・稲積宏誠(青学大)
D-033	確定的アンニリング EM アルゴリズムを用いたクロスメディアレコメンデーション方式		◎柳原 正・帆足啓一郎・松本一則・菅谷史昭(KDDI 研)
D-034	カテゴリーに特徴的な名詞の抽出と利用による Web サイトの自動分類		◎本田崇智・山本雅人・大内 東(北大)
D-035	苦情受付内容に対するクラスタリングシステムの提案		◎阿部匡史(千葉工大)

[Web・オントロジ]

- 9月7日(木) 9:00～12:00 6N会場(8号館 844教室) 座長 酒井 哲也(東芝)
- D-036 Webデータの自動抽出とデータ変換……………○小沼寛明・全 眞嬉・徳山 豪(東北大)
- D-037 複数事例を用いたHTML文書からXML文書へのラッピング……………○森 康真・山本雅人・大内 東(北大)
- D-038 ファンサイトのチャットデータを用いた番組メタデータ自動生成……………○有安香子・八木伸行(NHK 技研)
- D-039 協調型 Web アーキテクチャのためのリンク情報同期方式の検討……………○小林亜樹(メディア教育開発センター)・山岡克式・酒井善則(東工大)・曾根原 登(国立情報学研)
- D-040 WebDBをコンポーネントとするセマンティック・メタ検索の提案……………○森 雅生・中藤哲也・廣川佐千男(九大)
- LD-005 高度コミュニティ空間におけるオントロジ言語 OWL を用いた意味層の構築……………○渡邊優作・富井尚志(横浜国大)
- D-041 概念共有環境 CONSENT における現実状態と概念的状態の整合支援手法の提案……………○麦嶋慎也・富井尚志(横浜国大)
- LD-006 絵文字のセマンティックオーサリングのためのオントロジー設計……………○伊藤一成(青学大)・橋田浩一(産総研)

[情報検索(2)]

- 9月7日(木) 13:00～16:00 7N会場(8号館 844教室) 座長 岸田 和明(慶大)
- LD-007 NTCIR 公式結果に基づく文書検索技術の進歩に関する一考察……………○酒井哲也(東芝)
- D-042 類似文書群特徴に基づく重要文抽出方式……………○川越智史・絹川博之(電機大)
- D-043 単語と解説文の対応関係を用いた短歌の内容検索手法……………○千葉将貴・鈴木 優・川越恭二(立命館大)
- LD-008 ダブル配列におけるキャッシュの効率化……………○矢田 晋・森田和宏・泓田正雄・平石 亘・青江順一(徳島大)
- D-044 ダブル配列上の一方向分岐に着目した探索手法の提案……………○芳本貴男・中村康正・入江祐司・望月久稔(大阪教育大)
- D-045 大規模文字列ソートのための適応的なデータ分割アルゴリズム……………○浅井達哉・岡本青史(富士通研)・有村博紀(北大)
- D-046 駅社員向け情報配信システムのための情報フィルタリングルールの獲得……………○野末道子・尾崎尚也・土屋隆司(鉄道総研)
- D-047 Research on Text Mining Techniques to support Patent Map generation……………○Maryjane Andal・Shigeru Oyanagi(立命館大)

[Web 利用技術]

- 9月7日(木) 13:00～16:00 7P会場(8号館 845教室) 座長 川越 恭二(立命館大)
- D-048 メールテキストを用いた検索エンジンの検索結果の並び替え……………上田 洋(大阪市大)・福居和男(インターネット)・◎宮原良一・村上晴美(大阪市大)
- D-049 機械学習を用いた Web 上の表情情報の例示検索方式……………◎横川智浩(電機大)・吉田 稔(東大)・山田剛一・絹川博之(電機大)・中川裕志(東大)
- D-050 分散 Wiki による Web ページ間自律的関係創出システム……………◎小瀬水浩昭・河木孝治・村田大樹・大矢健太・鎌田浩嗣・武田正之(東理大)
- D-051 Blog 内容に基づく Blog 情報のリコメンデーション……………◎吉原 豊(千葉工大)
- D-052 RSS アクセス履歴を用いたユーザの購読傾向の分析……………◎不破 拓・和田雄次(電機大)
- D-053 (講演取消)
- D-054 SNS にユーザ信頼値を付与した推薦システム……………◎山口修平・小柳 滋(立命館大)
- D-055 SNS におけるユーザの関係の視覚化……………◎吉田英樹・小柳 滋(立命館大)

E 分野：自然言語(第2分冊)

[情報検索と WWW]

- 9月5日(火) 9:00～12:00 1R会場(A棟 A711教室) 座長 村田 真樹(NICT)
- E-001 相互文脈関連度による検索質問拡張……………◎坂口朋章・平松丈嗣・平澤茂一(早大)
- E-002 ブックマーク情報に基づく RSS 情報のフィルタリング……………○吉田光範・藤沢匡哉・倉林 有・八嶋弘幸(東理大)
- E-003 検索に有効な知識の自動獲得 - 質問拡張を超えて -……………○山本英子・井佐原 均(NICT)
- E-004 単語の属性名らしさを利用した Web 上の表の構造認識……………◎北山 翼・嶋田和孝・遠藤 勉(九工大)
- E-005 WWW からの概念属性値獲得と属性値集合の洗練……………◎森田悠介・榊井文人・河合敦夫・井須尚紀(三重大)
- E-006 Web ページからの評価表現の抽出……………◎石井基一・山田剛一・絹川博之(電機大)
- E-007 Blogger の嗜好を利用した協調フィルタリングと内容類似性による Web 情報推薦システム……………◎寺田道生・小原恭介・山田剛一・絹川博之(電機大)・中川裕志(東大)
- E-008 ウェブ・ページ内での共起を使った曖昧性解消……………○隅田英一郎(NICT/ATR)・菅谷史昭(KDDI 研)

[対話と質問応答]

- 9月5日(火) 13:00～15:00 2R会場(A棟 A711教室) 座長 榊井 文人(三重大)
- E-009 モジュール性の高い対話制御開発環境の試作……………◎繁田佳宏・池ヶ谷有紀・野口靖浩・小暮 悟(静岡大)・伊藤敏彦(北大)・小西達裕・近藤 真・伊東幸宏(静岡大)
- E-010 対話履歴と事例に基づく発話意図の推定……………◎岩下 薫・嶋田和孝・遠藤 勉(九工大)
- E-011 常識判断に基づく非常識会話応答方式の提案……………◎吉村枝里子(同志社大)・土屋誠司(三洋電機)・渡部広一・河岡 司(同志社大)
- E-012 応答文生成に向けた内容語選択における精度向上……………◎佐藤 和・福田雅志・延澤志保・太原有夫(東理大)
- E-013 表構造を利用した質問応答システム……………◎大久保和之(北海道工大)
- E-014 質問タイプとトピックを用いる QA 検索手法の提案……………○石川 開・赤峯 享(NEC)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチアワード」受賞候補の資格対象であることを示します。(2006年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

[自然言語処理 (インターフェースと応用)]

- 9月5日(火) 15:30～17:30 3R会場 (A棟 A711教室) 座長 乾 健太郎 (奈良先端大)
- LE-001 テキストからの主要数値ベア群の抽出とそのグラフ化 ……○村田真樹 (NICT)・一井康二 (広島大)・馬 青 (龍谷大/NICT)・白土 保 (NICT)・金丸敏幸 (NICT/京大)・塚脇幸代・井佐原 均 (NICT)
- E-015 漢字の構成方式を利用した中国語表示方式の提案 ……○朱 樞・浦野義頼 (早大)
- E-016 シソーラスによる意味処理を用いた派生語の子音入力方式 ……○市丸夏樹 (鳥取環境大)
- E-017 クローズドキャプションを対象とした被写体の動作推定 ……○三浦菊佳・山田一郎・住吉英樹・八木伸行 (NHK)・奥村 学・徳永健伸 (東工大)
- LE-002 クメール文字 TrueType フォントのレガシ符号化方式とその自動識別可能性 ……○鈴木俊哉 (広島大)・佐藤 大 (東北大)
- E-018 法令改正文の形式化に基づく新法テキストの自動生成 ……○外山勝彦・稲垣真太郎・小川泰弘 (名大)

[自然言語処理 (解析)]

- 9月6日(水) 9:00～12:00 4R会場 (A棟 A711教室) 座長 井佐原 均 (NICT)
- E-019 Achilles: a Chinese Morphological Analyzer ……○るい ちゃんつあん・Eiichiro Sumita (NICT)
- E-020 古文における形態素解析実用化に関する研究 ……○柳川 亮・河合敦夫・榊井文人・井須尚紀 (三重大)
- E-021 節構造の推定に基づく統語森解析の高精度化 ……○釜谷聡史・知野哲朗・降幡建太郎 (東芝)
- E-022 二分依存関係に基づく深層格推測手法 ……○渋谷英潔 (北海学園大)・荒木健治 (北大)・桃内佳雄・柄内香次 (北海学園大)
- E-023 セグメントレベルを考慮した話し言葉のセグメンテーション ……○福田雅志・佐藤 和・延澤志保・太原晋夫 (東理大)
- LE-003 ゼロ照応解析のための統語的パターンの学習 ……○飯田 龍・乾 健太郎・松本裕治 (奈良先端大)
- LE-004 言語識別技術を応用した英語における母語話者文書・非母語話者文書の判別 ……○青木さやか・富浦洋一・行野顕正・谷川龍司 (九大)
- E-024 補強対象を選ばない英語名詞の可算性判定補強手法 ……○永田 亮 (兵庫教育大)・河合敦夫 (三重大)・森広浩一郎 (兵庫教育大)・井須尚紀 (三重大)
- E-025 対象となる名詞を選ばない規則を用いた英語名詞の可算/不可算の判定手法 ……○若菜崇宏・河合敦夫 (三重大)・永田 亮 (兵庫教育大)・井須尚紀 (三重大)

[機械翻訳]

- 9月6日(水) 15:30～17:30 5R会場 (A棟 A711教室) 座長 中岩 浩巳 (NTT)
- E-026 英語-ウイグル語機械翻訳システムにおけるウイグル語生成方式 ……○プラト カデル・山田剛一・絹川博之 (電機大)
- E-027 文書全体の情報の利用による機械翻訳の高精度化 ……○鈴木博和 (東芝)
- E-028 (講演取消)
- E-029 関係節の英日翻訳法に関する統計的特徴抽出の試み ……○九津見 毅 (シャープ)・吉見毅彦 (龍谷大/NICT)・小谷克則 (NICT)・飯田将人・佐田いち子 (シャープ)・井佐原 均 (NICT)
- E-030 日英翻訳における訳語統一支援システム ……○今井一裕・小川泰弘・外山勝彦 (名大)
- E-031 自動通訳システムのユーザインタフェースレベルでの統合 ……○長田誠也・山端 潔・花沢 健・奥村明俊 (NEC)

[自然言語処理 (知識処理)]

- 9月7日(木) 9:00～12:00 6R会場 (A棟 A711教室) 座長 富浦 洋一 (九大)
- E-032 LSAに基づいた辞書語義文の用語自動生成 ……○福田ムフタル・小川泰弘・外山勝彦 (名大)
- E-033 概念属性の動的評価に基づく概念関連度計算方式 ……○奥村紀之・荒木孝允・渡部広一・河岡 司 (同志社大)
- E-034 概念ベースを用いた場所連想システムの構築 ……○手原信太郎・渡部広一・河岡 司 (同志社大)
- E-035 状況表現を考慮する発話文章からの感情判断手法の提案 ……○土屋誠司 (同志社大/三洋電機)・吉村枝里子・渡部広一・河岡 司 (三洋電機)
- E-036 情緒タグ付き日記コーパスの作成と評価 ……○徳久雅人・松浦大樹・村上仁一・池原 悟 (鳥取大)
- LE-005 受け身文の能動文への変換における機械学習を用いた格助詞の変換に関する実験 ……○村田真樹 (NICT)・○金丸敏幸 (NICT/京大)・白土 保・井佐原 均 (NICT)
- E-037 ミャンマー語の形式名詞構造の分析と日本語との対応 ……○Ma Ngin Khaw Cing・池田尚志 (岐阜大)
- E-038 日本語文末表現の取り扱いについて ……○本田聖晃・○田辺利文・吉村賢治・首藤公昭 (福岡大)・高橋雅仁 (久留米工大)・小山泰男 (セイコーエプソン)

F 分野：人工知能・ゲーム (第2分冊)

[学習アルゴリズムと複雑系]

- 9月5日(火) 9:00～12:00 1G会場 (8号館 832教室) 座長 嶋田総太郎 (明大)
- LF-001 e-混合モデルの推定 ……○藤本 悠・村田 昇 (早大)
- F-001 学習アルゴリズムの車両チューニングシステムへの応用 ……○泉名克郎・笠置誠佑 (富士重工)
- LF-002 逐次学習型顔画像認識における SMC サンプル数の動的制御 ……○松井 淳 (NHK 技研/早大)・Simon Clippingdale (NHK 技研)・松本 隆 (早大)
- F-002 (講演取消)
- F-003 高頻度価格時系列の進化計算による予測 ……○徳岡聖二・田中美栄子 (鳥取大)
- F-004 方策こう配法を用いた行動学習-方策中での状態遷移確率の表現- ……○石原聖司 (近畿大)・五十嵐治一 (芝浦工大)
- F-005 GAを用いた金融市場のテクニカルパターン生成とその予測可能性に関する考察 ……○遠藤淳一・佐々木孝雄・豊嶋久道 (神奈川大)
- F-006 強化学習を用いた株式取引シミュレーション ……○松井藤五郎・大和田勇人 (東理大)
- F-007 学習機能を持った株式投資システムの試作 ……○小澤 悟 (千葉工大)

[オントロジ]

- 9月5日(火) 13:00～15:00 2G会場(8号館 832教室) 座長 桑原 和宏 (立命館大)
- F-008 Bluetooth通信を用いた生体情報監視システムの構築◎栗山 大・和泉 諭(仙台電波高専)・富樫 敦(宮城大)・高橋 薫・加藤 靖(仙台電波高専)
- F-009 健康アドバイス導出のための領域オントロジと推論ルール◎和泉 諭・栗山 大(仙台電波高専)・富樫 敦(宮城大)・加藤 靖・高橋 薫(仙台電波高専)
- F-010 オントロジに基づいた健康アドバイス導出システム◎三浦祐太郎・和泉 諭・栗山 大(仙台電波高専)・富樫 敦(宮城大)・加藤 靖・高橋 薫(仙台電波高専)
- F-011 (講演取消)
- F-012 定性シミュレーションに基づく栄養士養成支援システム◎内藤英智(名工大)・田中雅章(鈴鹿国際大)・松尾徳朗(宮城大)・金 慶喜・伊藤孝行・大園忠親・新谷虎松(名工大)
- F-013 ウェブ・オントロジのサブセット動的生成方式の検証◎野口敦史(日本IBMシステムズエンジニアリング)

[AI基礎・GA]

- 9月5日(火) 15:30～17:30 3G会場(8号館 832教室) 座長 市瀬龍太郎 (国立情報学研)
- F-014 (講演取消)
- F-015 進化計算アルゴリズムにおける構造と数値の同時最適化◎藤嶋 航・長尾智晴(横浜国大)
- F-016 ネットワーク構造状画像変換の自動構築◎白川真一・長尾智晴(横浜国大)
- F-017 説得力のある時系列予測に関する研究◎伊藤友基・長尾智晴(横浜国大)
- F-018 Constructing and Using a Web Service to Find Theorems◎何 成(日大)・鈴木秀男(職能開発大)・小林英恒(日大)
- F-019 データベース解析のためのゼロサプレス型二分決定グラフの簡単化について◎岩崎玄弥・湊 真一・Thomas Zeugmann(北大)

[知能と複雑系]

- 9月6日(水) 9:00～12:00 4G会場(8号館 832教室) 座長 小野 哲雄 (ほこだて未来大)
- LF-003 木構造表現を用いたデジタル生命モデルの構築◎鈴木輝彦・梶田友貴・延澤志保・太原育夫(東理大)
- F-020 マルチエージェントシステムを用いた複雑系モデルの計算環境 TEA◎赤嶺有平(琉球大)・根路銘もえ子(沖縄国際大)
- F-021 ブートストラップ法による少数時系列データのリアプノフ指数の精度向上◎今野良彦・森 康久仁・松葉育雄(千葉大)
- F-022 ワクチンを考慮したウイルス感染エージェントモデルの提案◎小坂勇士・武藤敦子・加藤昇平・伊藤英則(名工大)
- F-023 人間乱数を用いた診断の可能性について◎三島雅史・田中美栄子(鳥取大)
- F-024 組み合わせ最適化アルゴリズムを用いた有限語長多項式近似におけるハードウェアコスト最小化◎小谷光史・佐々木孝雄・豊嶋久道(神奈川大)
- F-025 遺伝的アルゴリズムを用いた線形変換回路合成における分割最適化に関する考察◎鈴木麻衣・佐々木孝雄・豊嶋久道(神奈川大)
- F-026 視覚対象物の可動性及び上下方向の認識が視覚性動揺病に及ぼす影響◎大西邦光・大谷昌代・榊井文人・河合敦夫・井須尚紀(三重大)
- F-027 自律的な負荷分散と遅延時間増大の抑制を実現する適応的経路制御手法 iREI の性能評価◎柏崎礼生・高井昌彰(北大)

[ゲーム情報学]

- 9月6日(水) 15:30～17:30 5G会場(8号館 832教室) 座長 中村 貞吾 (九工大)
- F-028 電位分布の計算によるコンピュータ囲碁の局面解析◎西中 剛・中村克彦(電機大)
- F-029 9路盤問題によるコンピュータ囲碁の評価(その1)◎鎌田真人・下館実之(岩手県大宮古短大)・松原 仁(ほこだて未来大)
- F-030 人間の思考を模倣した利己的先読み～将棋の駒の取り合い問題に関する考察～◎蛭田雄一(農工大)・伊藤毅志(電通大)
- F-031 オセロ局面の冗長情報の破棄による探索の効率化◎松尾英和・植崎修二(長崎大)
- F-032 ゲーム Amazons における可能手数に特化した探索アルゴリズムの提案◎伊豆野慎二・佐藤貴之・佐藤公男(仙台電波高専)
- F-033 心理的要因を考慮したネットオークションの解析◎松本恵右・◎大田健一郎・長尾智晴(横浜国大)

[データマイニング・Web]

- 9月7日(木) 9:00～12:00 6G会場(8号館 832教室) 座長 北村 泰彦 (関西学院大)
- LF-004 知識の関係構造を用いた新しい関数の生成◎金盛克俊・延澤志保・太原育夫(東理大)
- F-034 CONCOR によるリンク解析を反映した Web 文書の要約◎山下長義・福井健一・森山甲一・栗原 聡・沼尾正行(阪大)
- LF-005 契約期間を延ばすためのリコメンデーション法◎岩田具治・斉藤和巳・山田武士(NTT)
- F-035 文脈自由文法の漸次学習のための準最適規則集合探索の方式◎中村克彦・◎杉田雄大(電機大)
- LF-006 緩和法に基づく系列データからの頻出部分系列の高速マイニング◎丸山育嗣・岩沼宏治・鍋島英知(山梨大)
- F-036 NewsML エディタのための SubjectCode 階層に基づく記事分類システムの試作◎児玉政幸・大園忠親・新谷虎松(名工大)
- F-037 継続性が存在するニュースのためのニュース記事作成支援システムの試作◎伊藤正都・大園忠親・新谷虎松(名工大)
- F-038 コンテンツエージェントモデルに基づく Web ページの自動編成システムの試作◎浅見昌平・大園忠親・伊藤孝行・新谷虎松(名工大)
- F-039 検索質問拡張に基づく伏せ語検索システムの試作◎河合利政・宮下恒雄・大園忠親・伊藤孝行・新谷虎松(名工大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2006年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

[エージェント・学習]

- 9月7日(木) 13:00～16:00 7G会場(8号館 832教室) 座長 栗原 聡(阪大)
- LF-007 複素評価値を用いた Profit Sharing に関する研究 ……◎島田慎吾・澁谷長史・濱上知樹(横浜国大)
- F-040 Modular Profit Sharing によるマルチエージェント強化学習 ……◎相良幸範・延澤志保・太原育夫(東理大)
- F-041 マルコフ決定過程に基づくマルチエージェントシステムの漸近的性質
……………◎岩田一貴(広島市大)・池田和司・酒井英昭(京大)
- F-042 非同期分散最適化アルゴリズムに基づく負荷分散のための探索手法 ……◎橋本大樹・松田元敏・能登正人(神奈川大)
- F-043 自律移動ロボットにおける意図モデルの検討 ……◎小田桐良一(園田学園女子大)
- F-044 モバイルエージェントによるコンテキストウェアサービスの実現
……………◎杉山久人(立命館大)・庄野康裕(NTTドコモ四国)・服部文夫(立命館大)
- F-045 異種エージェント相互運用機構の開発と評価 ……◎打矢隆弘・前村貴秀・木下哲男(東北大)
- LF-008 モデル誤差を利用したモデルベース強化学習 ……◎但馬慶行・鬼沢武久(筑波大)
- F-046 Boosting Using Classifiers With Nearly One-sided Error ……◎Kohei Hatano(九大)

G 分野：音声・音楽(第2分冊)

[音声・音楽(1)]

- 9月7日(木) 9:00～12:00 6T会場(A棟 A713教室) 座長 大川 茂樹(千葉工大)
- G-001 時刻ごとの音量最大周波数を基準とした野鳥の品種識別 ……◎牧野洋平・三田長久・東谷幸治(熊本大)
- G-002 音声情報によるニューラルネットワークを用いた夜行性野鳥の識別 ……三田長久・◎東谷幸治・牧野洋平(熊本大)
- G-003 ギター視奏での先読み時間に影響を及ぼす要因 ……◎小堀 聡・高橋勝則(龍谷大)
- G-004 (講演取消)
- G-005 関数データ解析による楽曲の旋律からの特徴抽出 ……◎東海林智也(函館高専)
- G-006 Support Vector Machine を用いた多重音の音源同定手法の検討 ……◎北原聡志・野元悠一・甲藤二郎(早大)
- G-007 Arbitrary Listening-point Generation Using Acoustic Transfer Function Interpolation in A Large Microphone Array
……………◎ Mehrdad Panahpour Tehrani・Yasushi Hirano・Shoji Kajita・Toshiaki Fujii・Kazuya Takeda・Kenji Mase(名大)
- G-008 聴覚イメージモデルによるミッシングファンダメンタル情報の抽出に関する検討 ……◎飯富 裕・松岡孝栄(宇都宮大)
- G-009 符号化情報を用いた音響信号の分類に関する検討 ……◎斎藤睦巳(富士通九州ネットワークテクノロジーズ)

[音声・音楽(2)]

- 9月7日(木) 13:00～16:00 7T会場(A棟 A713教室) 座長 大淵 康成(日立製作所)
- LG-001 口唇動作抽出ヘッドセットの開発と単語認識への応用
……………◎吉田孝博(東理大)・福士 謙(弘前大)・半谷精一郎(東理大)
- G-010 映像コンテンツと関連文書の連携によるシーン検索システム
……………◎寺尾 真・越仲孝文・安藤真一・磯谷亮輔・奥村明俊(NEC)
- LG-002 タスク指向対話とチャットを統合した対話ロボットインターフェース ……◎星野 厚(筑波大)・中野幹生・竹内誉羽・長谷川雄二(ホンダRIJ)・加藤和彦(筑波大)・辻野広司(ホンダRIJ)
- G-011 分散型対話管理による複数話者対話システムの構築 ……◎鈴木智彦・大下義弘・小林恵太・関口芳廣・西崎博光(山梨大)
- G-012 Using Ontological Knowledge to Disambiguate Unknown Words in Semantic Tagging
……………◎ Andrew Finch・隅田英一郎(NICT/ATR)
- LG-003 統計翻訳のための言語モデルのオンラインタスク適応 ……◎山本博史・隅田英一郎(NICT)
- G-013 Web上の類似記事自動収集によるニューストピック適応言語モデル ……◎高橋伸弥・森元 暉・入江由紀(福岡大)
- G-014 中規模語彙を対象とした音声認識システム用の FSA 言語モデルの自動獲得 ……◎森元 暉・高橋伸弥・吉原龍市(福岡大)

H 分野：生体情報科学(第2分冊)

[ニューロコンピューティング(1)]

- 9月5日(火) 9:00～12:00 1Q会場(A棟 A710教室) 座長 麻生 英樹(産総研)
- H-001 線形連想写像を用いた相互想起セルラニューラルネットワーク ……◎難波道弘・渡辺智美(山梨英和大)
- H-002 スモール・ワールド・ニューラル・ネットワーク(SWNN)の連想記憶としての評価
……………◎大口尚紀・森 秀樹・上原 稔(東洋大)
- H-003 パターン分析・合成型連想メモリ ……◎小川剛史(九工大)・時田洋輔(早大)・横井博一(九工大)
- LH-001 機能的分離海馬 CA3 による重複時系列の曖昧性解消への寄与
……………◎佐村俊和(慶大)・服部元信(山梨大)・石崎 俊(慶大)
- LH-002 神経力学系間の相互作用に基づく文脈依存的時空間パターン処理 ……◎蓮尾高志・山根 健・森田昌彦(筑波大)
- LH-003 文脈に基づくモジュール切り替え型学習モデル ……◎郷古 学・菅谷至寛・阿曾弘具(東北大)
- H-004 強化学習とペイズ推定による言語的コミュニケーション学習モデル ……◎荒木隆史・坪根 正・和田安弘(長岡技科大)
- H-005 既存知識の統合による複合的知識獲得モデル ……◎矢部達也(山梨大)

[ニューロコンピューティング(2)]

- 9月5日(火) 13:00～15:00 2Q会場(A棟 A710教室) 座長 和久屋 寛(佐賀大)
- H-006 一対比較型 BP の性能評価実験 ……◎多田 晃・長沼秀典・大堀隆文(北海道工大)
- H-007 自己組織化マップ(SOM)を用いたクラスタ分析アルゴリズムの評価 ……◎河村進吾・森 秀樹・上原 稔(東洋大)
- H-008 階層成長型自己組織化マップを用いた内容に基づく画像検索の距離尺度の改良 ……◎中島聖志・服部元信(山梨大)

- LH-004 デジタル型リカレントネットの学習特性◎長沼秀典・大堀隆文・渡辺一央 (北海道工大)
 H-009 ダフニング方程式を用いたカオスニューロン素子の設計
◎田中稔次郎 (広島県大)・日浦悦正 (福山能開短大)・保道浩司・渋谷光博 (広島県大)
 H-010 量子回路に対応した神経回路網の論理演算 ○前田道治 (久留米高専)・宮島廣美 (鹿児島大)

【医用画像 (1)】

- 9月5日 (火) 15:30～17:30 3Q会場 (A棟 A710教室) 座長 金子 邦彦 (九大)
 H-011 3D-ACTIT を用いた3次元拡散強調画像からの異常信号領域自動抽出◎中野雄太・長尾智晴 (横浜国大)
 H-012 3D-MR Angiographyを用いた脳内血管の解析に関する研究
◎河西菜美子・長尾智晴 (横浜国大)・竹林茂生 (横浜市大)
 H-013 Color Kinesis 負荷心エコー画像処理による虚血性心疾患の識別
◎徐 健・汐崎 陽・丸岡玄門 (大阪府大)・平野 豊 (近畿大)・増山 理 (兵庫医大)
 H-014 CT 画像を対象とした知識ベースの複数臓器・疾病知的診断支援システムに関する研究 ◎佐藤徹哉・安部恵広・
 田中和明 (九工大)・木下良正 (産業医大)・He Shoujie (Eastman Kodak I.N.C.)
 H-015 三次元生体医用カラー画像からの watershed 法による臓器領域抽出の実験
◎城戸英彰 (九大)・牧之内顕文 (久留米工大)・金子邦彦 (九大)
 H-016 神経細胞内の顆粒物体の運動解析 森江健吾・◎小野寺 徹・長尾智晴 (横浜国大)

【バイオ情報学】

- 9月6日 (水) 9:00～12:00 4Q会場 (A棟 A710教室) 座長 石井 信 (奈良先端大)
 LH-005 計算速度比10,000倍を達成する相同性検索専用PCクラスタシステム◎杉江崇繁・戎崎俊一 (理研)・
 青見文博・増田信之・伊藤智義 (千葉大)・高田直樹 (湘北短大)・下馬場朋禄 (山形大)
 LH-006 Multi-Domain HMMsearch: マルチドメインを持つ遠縁なタンパク質のための相同性検索ツール
◎瀬下真吾・賀屋秀隆・松井藤五郎・朽津和幸・大和田勇人 (東理大)
 H-017 HMM プロファイルの類似性に着目した遠縁の相同体検出手法の提案◎河村真平 (東理大)
 H-018 時系列データからの植物遺伝子ネットワークのロバストな推定
 三井重之・昇 博也・西林双龍 (三菱スペース・ソフトウェア)・
 長村吉見・Baltazar A. Antonio (農業生物資源研究所)・小松節子 (作物研究所)・
 渡辺克昭・○坂田克己 (三菱スペース・ソフトウェア)
 H-019 DNA を用いたタイル構造における接着結合部の塩基配列設計
 ◎飯村直記 (北大)・山本雅人 (北大/CREST-JST)・田中文昭 (北大)・
 亀田充史 (CREST-JST)・大内 東 (北大/CREST-JST)
 H-020 モデル植物の購買履歴からの変異体選択支援システム◎佐藤貴命 (東理大)
 H-021 利用者ごとにカスタマイズ可能なLIMSの構築◎森田直樹 (愛媛女子短大)

【医用画像 (2)】

- 9月6日 (水) 15:30～17:30 5Q会場 (A棟 A710教室) 座長 田中 和明 (九工大)
 H-022 3次元医用画像セグメンテーションにおける心臓モデルの局所変形法
 ◎村下純也・金子邦彦 (九大)・牧之内顕文 (久留米工大)
 H-023 変形シミュレーションに対応した高速なスライススペース DRR◎川島礼子・中尾 恵・湊 小太郎 (奈良先端大)・
 小久保雅樹 (先端医療センター)
 H-024 胸腔鏡下手術計画におけるボリューム像操作環境の開発◎松雪大貴・中尾 恵・湊 小太郎 (奈良先端大)
 H-025 医用画像における画質評価指標としてのフラクタル特徴距離の有用性◎今井國治・池田 充 (名大)・
 遠地志太 (阪大)・新美孝永 (名古屋第二日赤病院)
 LH-007 CT 画像再構成におけるフィルタ処理の高速化 ◎村上純一 (詫間電波高専)・森川良孝 (岡山大)
 H-026 医療用液晶ディスプレイのための3倍密度誤差拡散法とその拡散係数の改善
◎中出優志・黒木修隆・沼 昌宏 (神戸大)

【ME とバイオサイバネティクス】

- 9月7日 (木) 9:00～12:00 6Q会場 (A棟 A710教室) 座長 伊賀崎伴彦 (熊本大)
 H-027 A Health Life-style Checke List and Analysis ○Atsushi Togashi・Yotaro Miyanishi (宮城大)・
 Ko Mizuno・Mitsuaki Yamamoto (東北福祉大)・Goutam Chakraborty (岩手県大)・
 Shoichi Noguchi (仙台応用情報学研究振興財団)
 H-028 非接触計測によるドライバーの覚醒度評価
◎坂本 涼・野澤昭雄 (青学大)・田中久弥 (工学院大)・井出英人 (青学大)
 LH-008 独立成分分析を用いた多指筋電義手制御システム◎末松 悟・横井博一 (九工大)
 H-029 NSFDTD 法を用いた散乱体中の光パルス応答解析時間短縮◎加藤宏樹・小泉植吾・松浦啓文・谷藤忠敏 (北見工大)
 H-030 統合 Yee 格子を用いたヒト頭部光パルス伝搬解析時間の短縮◎小泉植吾・松浦啓文・加藤宏樹・谷藤忠敏 (北見工大)
 H-031 Conjugate Gradient 法を用いた光散乱体中の光学パラメータ推定
◎松浦啓文・加藤宏樹・小泉植吾・谷藤忠敏 (北見工大)
 H-032 暗算課題遂行時における心拍変動と房室伝導時間変動の周波数解析◎長谷川裕紀・陳野悠人・魚住 超 (室蘭工大)
 H-033 多次元脳波データの解析に関する研究 ◎吉良健太郎・長尾智晴 (横浜国大)・武者利光 (脳機能研究所)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチアワード」受賞候補の資格対象であることを示します。(2006年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

I 分野：画像認識・メディア理解（第3分冊）

[三次元画像処理]

- 9月5日(火) 9:00～12:00 1E会場(8号館 821教室) 座長 岡田 稔(早大)
- I-001 視点情報量に基づく3次元物体の代表的景観の選択◎加藤達郎(大阪府大)
- I-002 Java3Dによるリンク連鎖機構の3次元モデリングツールの開発.....古賀雅伸・◎森宗翔吾(九工大)
- LI-001 遮蔽領域の再現性を向上させた視点依存信頼度マッピング法
.....◎國田 豊・上野雅浩(NTT)・田中敬二(NTTコミュニケーションズ)
- I-003 任意経路で撮影された全方位画像群からのステレオ画像生成◎堀 磨伊也・神原誠之・横矢直和(奈良先端大)
- I-004 XMLサーバ上でのモーションキャプチャデータの加工システム◎川崎篤史・梶山智史・椎名広光(岡山理大)
- I-005 投球シーンにおけるボールの画像解析◎小関泰広・前川 仁(埼玉大)
- I-006 モーションキャプチャを用いた野球バッティング動作の三次元解析◎奥田昭博・岡本 覚・難波礼治(島根大)
- LI-002 パーティクルフィルタによる単眼動画からのサッカーボール3次元軌道推定
.....◎三須俊彦・高橋正樹・藤井真人・八木伸行(NHK)

[顔画像処理]

- 9月5日(火) 9:00～12:00 1F会場(8号館 822教室) 座長 榎田 修一(九工大)
- I-007 ラブラシアンフィルタを用いた照明変動に頑健な顔検出◎枝澤一寛・羽島一夫・松下雅仁・笹川耕一(三菱)
- I-008 GibbsBoostによる正面顔画像検出:事前情報を考慮するBayes的アプローチ
.....◎木村彰夫・松本 隆・松井 淳・中田洋平(早大)
- I-009 可視光照明装置を用いた屋外環境での顔認識◎河田耕三・安達和隆・山下真生・亀山博史(グローリー工業)
- I-010 可変固有顔による顔画像認識◎檜垣幸司・南角吉彦・徳田恵一・北村 正(名工大)
- I-011 目鼻配置の整合性に基づく顔検出に関する検討◎松尾賢治・橋本真幸・小池 淳(KDDI研)
- I-012 全方位イメージセンサを用いた掌形バイオメトリック認証◎寺下調史・つる浩二(大分高専)
- LI-003 大規模データベースに適用可能なバイオメトリクス検索アルゴリズム
.....◎阪田恒次・前田卓志・松下雅仁・笹川耕一(三菱)
- I-013 番組の出演者一覧生成のための顔画像クラスタリング手法◎奥村真澄・大網亮磨・平田恭二(NEC)

[トラッキング]

- 9月5日(火) 13:00～15:00 2E会場(8号館 821教室) 座長 加藤 丈和(和歌山大)
- LI-004 背景・照明・対象サイズの変化に頑健なパーティクルフィルタ
.....◎河中治樹(愛知県大)・岩堀祐之(中部大)・高井敏裕(名工大)
- I-014 分散カメラ環境におけるパーティクルフィルタの拡張◎味八木 崇・山崎俊彦・相澤清晴(東大)
- I-015 Optimization of 3D Egomotion Computation in Image Sequence◎謝 英弟・大谷 淳(早大)
- I-016 帰場法を利用した色ヒストグラムに基づく物体追跡法◎荒田礼治・末松伸朗(広島市大)
- I-017 逐次モンテカルロ動画追跡:速度パラメータ,検索範囲の自動調整による追跡精度の向上
.....◎中尾忠義・松井 敦・中田洋平・松本 隆(早大)
- I-018 HSヒストグラムを用いた動画中の対象物体トラッキング◎山口鉄平・鈴木 寿(中大)

[パターン認識基礎]

- 9月5日(火) 13:00～15:00 2F会場(8号館 822教室) 座長 大城 英裕(大分大)
- I-019 一般化された相関関数とSPSAアルゴリズムを用いた高速高精度画像照合
.....◎朴 龍勲・市毛弘一・石井六哉(横浜国大)
- I-020 複数の探索窓の相関制約を用いた時系列信号の高速探索手法◎大盛善啓(東芝)
- I-021 A Modification of Otsu's Thresholding Method for Pattern Matching
.....◎ Sang-Woon Kim・Zhe-Xue Li(Myongji University)
- I-022 二次元CSPによる目領域探索の高速化◎鈴木亜紀子・滝口哲也・有木康雄(神戸大)
- I-023 ナイストロム法を用いた時系列データの高速類似検索法の検討◎澤村康匡・林 朗・末松伸朗(広島市大)
- I-024 階層的クラスタリングにおけるWard法と情報理論的な非類似度との関係◎斧城悠大・岩田一貴・林 朗(広島市大)

[画像処理システム]

- 9月5日(火) 15:30～17:30 3E会場(8号館 821教室) 座長 長原 一(阪大)
- I-025 流体速度場可視化のための計算機システムの研究開発◎増田信之(千葉大)・伊藤智義(千葉大/JST)・
加増祐大(千葉大)・佐竹信一(東理大)・功刀資彰(京大)・佐藤一穂(豊田自動織機)
- I-026 海馬時系列符号化モデルに基づく移動体検出法のデジタルLSIアーキテクチャ
.....◎梁 海超・森江 隆・中山浩之・中田一紀・林 初男(九工大)
- I-027 レジストレーション誤差を考慮した超解像処理◎戸田真人・塚田正人・井上 晃(NEC)
- I-028 多様体学習に基づく単フレーム超解像◎溝内義章・末松伸朗・林 朗(広島市大)
- LI-005 赤外線スキャナと陰影モデルを使用した手書き文字の筆圧痕の検出◎古川 猛(茨城県警)
- I-029 Extracting Common Feature for Automatic Image-Map Registration Using Diffusion Process
.....◎田 黎・鎌田清一郎(早大)・恒吉和幸(FAIS)

[パターン認識応用]

- 9月5日(火) 15:30～17:30 3F会場(8号館 822教室) 座長 有木 康雄(神戸大)
- LI-006 物体のマルチモーダルカテゴリゼーション◎長井隆行(電通大)・岩橋直人(ATR/NICT)
- I-030 動き領域の見えに基づく物体認識◎細井利憲・石寺永記(NEC)
- I-031 マハラノビス距離を用いたガラス検査用画像判別の実現◎松崎裕樹(立命館大)
- I-032 色情報を用いた野鳥の品類識別三田長久・◎久保山 裕・吉岡俊英・原 徹也(熊本大)

- I-033 特微量選択型 SVM を用いた欠陥画像分類◎余部治昭・長尾智晴 (横浜国大)
 I-034 フィルタ列自動構築型の画像分類学習法の研究森 喬顕・◎安藤 宏・長尾智晴 (横浜国大)

[人物追跡・解析]

- 9月6日(水) 9:00～12:00 4E会場(8号館 821教室) 座長 来海 雅俊 (オムロン)
 LI-007 MCMC法に基づく3次元環境情報を用いた複数人物追跡
◎大澤達哉・ウ 小軍・数藤恭子・若林佳織・安野貴之 (NTT)
 I-035 無線LANマルチカメラサーベイランスシステムにおける帯域割り当てに関する検討
◎林 辰也・味八木 崇・山崎俊彦・相澤清晴 (東大)
 I-036 (講演取消)
 I-037 指文字画像からの手指形状特微量抽出方法の検討○舟川政博・平山 亮 (金沢工大)
 I-038 インタラクティブな情報支援システム実現のための個人差に頑健なジェスチャ認識
◎冠城久芳・岡谷 (清水) 郁子 (農工大)・西村拓一 (産総研)
 I-039 マルチメディア信号におけるタイミング構造のモデル化◎川嶋宏彰・堤 公孝・松山隆司 (京大)
 I-040 ビデオ画像と熱画像を用いた単語認識◎齊藤剛史・小西亮介 (鳥取大)
 I-041 多数の移動軌跡情報を用いた群集内の主要な流動抽出アルゴリズム
◎帷子京市郎・趙 卉菁・柴崎亮介 (東大)・坂本圭司 (JR 東日本)

[文字文書]

- 9月6日(水) 9:00～12:00 4F会場(8号館 822教室) 座長 内田 誠一 (九大)
 LI-008 同一目的の対話型異種文書からの標準文書構造の抽出○青山正人・小迫政幸・棕木雅之・浅田尚紀 (広島市大)
 I-042 複写学習モデルによる文字列の復元◎金 万福・岡部成将・須崎健一 (福岡工大)
 I-043 稜線特微量による手書き文字認識鈴木道孝・◎石川幸司・伊藤彰義 (日大)
 I-044 線分の境界線を用いたPDF文書からの矩形枠抽出◎佐藤 仁 (日本IBM)
 LI-009 共起確率行列を用いた数式文字認識の誤り訂正法の評価◎瀧口祐介・岡田 稔 (早大)・三宅康二 (中部大)
 I-045 Sub-word Structure Analysis of Uyghur Language and Its Application to Character Recognition
◎Zaydun Yidayet・齊藤 剛 (電機大)
 I-046 アスペクトに基づくソフトウェアの非侵襲的利用法を用いた数式認識ツールの開発◎木村裕樹・古賀雅伸 (九工大)
 I-047 文書構造要約化による情報提供システム◎関 峰伸・永崎 健・丸川勝美 (日立)

[画像処理応用]

- 9月6日(水) 15:30～17:30 5E会場(8号館 821教室) 座長 倉川 亮 (九大)
 I-048 高分解能衛星画像からの道路領域抽出法◎大峯光晴・久保田 仙 (日立ソフトウェアエンジニアリング)
 I-049 航空写真からの建物屋根形状の判別手法の開発○具 源龍・瀧澤重志・加藤直樹 (京大)
 I-050 道路標識の自動検知における照度と露出補正の利用◎滝根 透・坂井一雄 (山梨大)
 I-051 4本Snakeによる道路両端白線の両エッジ追跡の検討◎澤野弘明・岡田 稔 (早大)
 I-052 移動カメラ画像からの移動体抽出手法○新保雅俊 (三菱)・平澤雅人・于 笑然・大島正毅 (東京海洋大)
 I-053 Object Detection by Using Marker Assistance◎Qi Zhang・Jun Ohya (早大)・Shunichi Yonemura (NTT)

[メディア検索・生成]

- 9月6日(水) 15:30～17:30 5F会場(8号館 822教室) 座長 井手 一郎 (名大)
 LI-010 隣接性に基づく個人行動記録の構造化類似検索◎小泉敬寛・中村裕一 (京大)
 I-054 キーワード検索との組み合わせによるオブジェクト画像検索方式の評価検討○高橋祐介・平田恭二 (NEC)
 LI-011 Modified Shape Distribution法による3Dビデオの類似動作検索◎山崎俊彦・相澤清晴 (東大)
 I-055 デジタルカメラワークによるサッカー映像生成鈴木健司・◎誉田雅彰 (早大)・村上 真 (東洋大)・白井克彦 (早大)
 I-056 カメラマンのカメラ操作に基づいたロボットカメラ制御手法の提案
◎津田貴生・奥田 誠・武藤一利・西田幸博 (NHK 技研)
 I-057 地理情報データベースによる半自動写真キャプションの効率向上
◎岩崎季世子・山澤一誠・横矢直和 (奈良先端大)

[三次元復元]

- 9月7日(木) 9:00～12:00 6E会場(8号館 821教室) 座長 藤木 淳 (産総研)
 I-058 受動型ステレオビジョンを用いた3次元顔認証システム
◎早坂昭裕・柴原琢磨・伊藤康一・青木孝文 (東北大)・中島 寛・小林孝次 (山武)
 I-059 カメラ2台による因子分解法に基づく3次元復元法
○田房友典 (弓削商船高専)・山田敬太郎 (香川大)・石川聖二 (九工大)
 I-060 画像の逐次入力に対応したボクセルモデルによる立体復元◎奥田透也・末松伸朗・林 朗 (広島市大)
 LI-012 線分要素に基づく画像列からの3次元形状モデルの生成◎藤村一之・棕木雅之・浅田尚紀 (広島市大)
 I-061 粒子フィルタによる三次元復元◎吉岡和志 (広島市大)
 I-062 輝度変化バンパモデルを用いた物体表面凹凸の計測◎佐々木健太・馬場雅志・棕木雅之・浅田尚紀 (広島市大)
 LI-013 単眼・両眼推定器を複合した自己位置と環境の同時推定
◎坂口雄介・Ngo Thanh Trung・長原 一・谷内田正彦 (阪大)
 I-063 自律移動ロボットの経路探索◎松田日嘉・浮田浩行 (徳島大)

[メディア解析]

- 9月7日(木) 9:00～12:00 6F会場(8号館 822教室) 座長 中村 裕一 (京大)
 I-064 広帯域音の実時間映像化◎霜山竜一 (日大)
 LI-014 ワイブ・DVEのパターン非依存な検出手法◎岩元浩太・平田恭二 (NEC)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2006年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

- I-065 AdaBoost を利用したスポット候補映像区間の抽出手法 …… ◎河合吉彦・山田一郎・住吉英樹・八木伸行 (NHK)
 I-066 視覚的特徴に基づく Web ページ閲覧履歴検索 ……◎渡井康行・中平浩二・山崎俊彦・相澤清晴 (東大)
 I-067 メタデータ制作フレームワークの提案とメタデータエディタの開発
 …… ◎佐野雅規・河合吉彦・住吉英樹・八木伸行 (NHK 技研)
 I-068 スポーツ中継映像における RGB ヒストグラムと DCT を用いたショット分割
 ……◎藤原雅樹・泉 正夫・福永邦雄 (大阪府大)
 I-069 (講演取消)
 I-070 Proxy 上での Web 画像分類 ……◎中平浩二・山崎俊彦 (東大)・相澤彰子 (国立情報学研)・相澤清晴 (東大)

[領域抽出]

- 9月7日(木) 13:00～16:00 7E会場(8号館 821教室) 座長 羽下 哲司 (三菱電機)
 I-071 (講演取消)
 LI-015 Region Extraction with Cooperative Active Contours
 …… Takatoshi Muramatsu・Suguru Yamaguchi・○Toru Abe・Tetsuo Kinoshita (東北大)
 LI-016 複数の類似領域を利用するバイラテラルフィルタリング ……◎南葉宗弘 (東京学芸大)
 I-072 輝度情報の時間的性質を用いた背景のモデル化とそれに基づく物体検出 …… ○池田浩雄・石寺永記 (NEC)
 LI-017 半教師付き物体抽出による自然画像マット合成 ……◎杜 偉薇・浦浜喜一 (九大)

[画像修復・画像符号化]

- 9月7日(木) 13:00～16:00 7F会場(8号館 822教室) 座長 有田 大作 (九大)
 I-073 エネルギー最小化原理に基づく画像欠損領域の修復 ……◎河合紀彦・佐藤智和・横矢直和 (奈良先端大)
 I-074 Study Of Color Contrast Enhancement Based on Wavelet Transform ……◎Xiao Ding・Jun Ohya (早大)
 LI-018 ガウシアングラフィカルモデルを用いた画像補修アルゴリズム ……◎安田宗樹・大久保 潤・田中和之 (東北大)
 I-075 統計的ゆらぎによる画像修復の外部磁場の特性 …… ○前田道治(久留米高専)・宮島廣美 (鹿児島大)
 I-076 Relevant Motion Detection From Motion Vectors in MPEG2/4 Stream
 …… ◎Josue A. Hernandez Garcia (Instituto Politecnico Nacional)・
 Hiroyoshi Morita・Yu Hua・Baskara Nugraha I Gusti Bagus (電通大)・
 Hector Perez Meana (Instituto Politecnico Nacional)
 I-077 グラフスペクトル法を利用した画像圧縮 ……◎山田真義・末松伸朗・林 朗 (広島市大)

J分野：グラフィクス・画像 (第3分冊)

[景観シミュレーション]

- 9月5日(火) 9:00～12:00 1H会場(8号館 833教室) 座長 馬場 雅志 (広島市大)
 J-001 3DCGによる江戸の町並み復元のための対話型家屋構造描画ツールの開発
 ……◎谷村知洋・勝村 大・青木香織・森谷友昭・高橋時市郎 (電機大)
 J-002 3DCGによる江戸の町並み復元のための家屋の自動屋根葺き手法
 ……◎勝村 大・谷村知洋・森谷友昭・高橋時市郎 (電機大)
 J-003 実写画像を用いたモデリングと都市景観生成への応用に関する研究 ……◎黒田真由美・齊藤 剛 (電機大)
 J-004 インタラクティブな自然景観生成に関する研究 ……◎佐藤菜々子・齊藤 剛 (電機大)
 J-005 ビルボードを用いた効率的な降雨シーンのレンダリング手法 ……◎吉田有希・土橋宜典・山本 強 (北大)
 J-006 相互反射を考慮した炎のリアルタイムシミュレーション ……◎圓淨義紘・土橋宜典・山本 強 (北大)
 J-007 CGによる大気散乱のシミュレーション ……◎中井真悟 (山梨大)
 J-008 建物境界線の一般化ボリゴン分割法に基づく3次元建物モデルの自動生成 ……◎杉原健一 (岐阜経済大)

[画像符号化・評価]

- 9月5日(火) 9:00～12:00 1J会場(8号館 834教室) 座長 米山 暁夫 (KDDI研)
 J-009 画素ビット長拡張による動画像符号化効率改善方式 ……◎野田玲子・中條 健 (東芝)
 J-010 ウェーブレット変換を用いた動画像のブロックひずみ低減手法 …… ◎後藤富朗・山崎達也・桜井 優・北村 正 (名工大)
 J-011 低密度パリティ検査符号と多元 Sum-Product アルゴリズムを用いた動画像圧縮法 …… ◎金子晴彦 (宇宙航空研究開発機構)
 J-012 IP HDTV コーデックにおけるネットワーク QoS 変動に応じた符号化レート更新方式
 ……◎吉野知伸・内藤 整・小池 淳 (KDDI研)
 J-013 画像品質と仮想バッファ遷移を考慮した2パスエンコード方式に関する一検討
 …… ◎村上 剛 (KDDI)・宮地悟史 (KDDI研)・松田雅之 (KDDI)
 LJ-001 時間解像度変換時の低域通過特性を考慮したフレームレート・符号量モデルの構築
 …… ◎坂東幸浩・土倉一人・八島由幸 (NTT)
 J-014 マルチメディアアプリケーション映像品質の自動客観評価法の精度改善の検討
 ……◎杉本 修・酒澤茂之・小池 淳 (KDDI研)
 J-015 視覚モデルの視点・視野の二乗誤差率による検討 …… ◎川崎順治 (金沢高専)・池田航将 (金沢工大)・
 安高智貴 (金沢高専)・佐藤 誠・飯島泰蔵 (東工大)

[キャラクタシミュレーション]

- 9月5日(火) 13:00～15:00 2H会場(8号館 833教室) 座長 乃万 司 (九工大)
 LJ-002 モーションカーブの線分近似を用いたキーフレーム抽出 ……◎鈴木唯道・栗山 繁 (豊橋技科大)
 J-016 モーションキャプチャデータの類似検索に関する一手法 ……◎竹林佑介・西尾孝治・小堀研一 (大阪工大)
 J-017 モーションキャプチャデータを用いた人体簡易モデル表現の検討 ……◎田代裕子・齊藤 剛 (電機大)

- J-018 テンプレートモデルを用いた3Dキャラクターのデフォルメーション
.....◎相馬大作(北大)・高井那美(北海道情報大)・高井昌彰(北大)
- J-019 多関節弾性物体モデルのための計算コストと使用メモリ削減法の検討
.....◎渡辺隆史・大谷 淳(早大)・棚沢 順(千葉商科大/早大)・徳永幸生(芝浦工大)
- J-020 デジタルアクタシステム実現のための感情表出モデルの構築
.....島尻絵理奈・板野貴之(早大)・村上 真(東洋大)・菅田雅彰・白井克彦(早大)

[H.264 / AVC]

- 9月5日(火) 13:00～15:00 2J会場(8号館 834教室) 座長 境田 慎一(NHK 技研)
- J-021 H.264のIntra予測モードにおける計算量低減.....◎野口達也・金田海渡・平澤茂一(早大)
- J-022 H.264の符号化処理におけるDCT省略に関する一検討.....◎鈴木真吾・川島裕司・菊池義浩(東芝)
- J-023 隣接ブロックの相関関係を利用したH.264動画像可逆符号化.....◎佐野利行・作田 豊・平澤茂一(早大)
- J-024 DCTを利用したH.264/AVCにおけるIntra予測モードの決定手法.....◎服部貴光・市毛弘一(横浜国大)
- J-025 H.264/AVCの適応誤り耐性アルゴリズムに関する一検討.....◎出原優一・関口俊一・山田悦久(三菱)
- LJ-003 符号化アーチファクトを抑制するH.264符号化モード選択方式.....◎蝶野慶一・宮本義弘(NEC)

[CG 応用]

- 9月5日(火) 15:30～17:30 3H会場(8号館 833教室) 座長 斎藤 隆文(農工大)
- J-026 Haptic Deviceを用いたバーチャル金魚すくいの開発.....◎堀 高範・中村徳裕・西尾孝治・小堀研一(大阪工大)
- J-027 ベクトル角度と不変モメントによる人体3次元データでの特徴点の認識研究.....◎趙 昌錫(韓神大)
- J-028 ロググラフィによる仮想物体の3D表示の基礎研究.....◎古賀準一・野口義夫・築地 浩・徳島尚生(佐賀大)
- J-029 Weblogの長期間履歴データの可視化法
.....◎森谷友昭(電機大)・田中明通(NTT)・高橋時市郎(電機大)・加藤泰久(NTT)
- LJ-004 素人のための手描き曲線改良支援システム.....森 啓年・◎岩崎 慶・高木佐恵子・吉本富士市(和歌山大)
- LJ-005 配色をインタラクティブに反映するデザイン支援ツール.....◎賀川経夫・西野浩明・宇津宮孝一(大分大)

[画像符号化]

- 9月5日(火) 15:30～17:30 3J会場(8号館 834教室) 座長 坂東 幸浩(NTT)
- J-030 超高精細映像用ソフトウェアベースリアルタイムエンコーダの分散処理実装.....◎内藤 整・小池 淳(KDDI研)
- J-031 複素ウェーブレット変換を用いた画像符号化に関する一検討.....◎高橋良知・川村 圭・渡辺 裕(早大)
- J-032 文字や網点を含む低解像度多値画像のベクター表現に関する検討.....◎河村 圭・山本勇樹・渡辺 裕(早大)
- J-033 分割線選択によるコミックのコマ分割処理に関する検討.....◎石井大祐・河村 圭・渡辺 裕(早大)
- J-034 MPEG-2/H.264低遅延HDTVソフトウェアトランスコーダ.....◎佐野 卓・岩崎裕江・長沼次郎(NTT)

[CG レンダリング]

- 9月6日(水) 9:00～12:00 4H会場(8号館 833教室) 座長 齋藤 豪(東工大)
- J-035 CGと実写のリアルタイム合成時におけるレンズ歪の考察
.....◎大久保英彦・津田貴生・三ッ峰秀樹・山内結子・井上誠喜(NHK)
- J-036 グラフィックスボードを用いたDelaunay三角形分割.....◎鈴木和愛・西尾孝治・小堀研一(大阪工大)
- J-037 (講演取消)
- J-038 (講演取消)
- J-039 視覚混合を考慮した貼り絵画像生成法.....◎杉田純一・高橋時市郎(電機大)

[高解像・3次元映像]

- 9月6日(水) 9:00～12:00 4J会場(8号館 834教室) 座長 藤井 俊彰(名大)
- J-040 デジタルロググラフィにおけるスペckルノイズの低減手法.....◎菅原裕一・吉川宣一(埼玉大)
- J-041 非負のDCT基底によるホログラムの合成.....◎成田皇司・大坊真洋(岩手大)
- J-042 半球表面上で撮影したビデオ映像を用いる仮想空間構築法.....◎石田勝紀・山本 強・土橋宜典(北大)
- J-043 圧縮符号化情報を利用したHDTV映像の高速画面結合手法.....◎清水智行・米山暁夫・滝嶋康弘(KDDI研)
- J-044 FFTを用いたパノラマ映像生成について.....◎米本 良・上杉 徹・川村尚生・菅原一孔(鳥取大)
- J-045 2次元カメラ配列の多視点映像符号化における予測構造に関する一検討.....◎石川彰夫・酒澤茂之・小池 淳(KDDI研)
- J-046 TV正則化法を用いたJPEG圧縮画像の超解像復元法.....◎小松 隆・齊藤隆弘(神奈川大)
- J-047 視覚特性を考慮した誤差拡散法によるディスプレイの高階調化.....◎山本和秀・黒木修隆・沼 昌宏(神戸大)

[エンタテインメントコンピューティング]

- 9月6日(水) 15:30～17:30 5H会場(8号館 833教室) 座長 杉本 雅則(東大)
- J-048 10万点の動画ロググラフィを可能にする専用クラスタシステム
.....◎市橋保之・伊藤智義・白木厚司・増田信之(千葉大)・杉江崇繁(理研)
- LJ-006 GPUを用いた計算機合成ホログラム・リアルタイム再生システム.....◎伊藤智義(千葉大/JST)・阿部幸男・田中 喬・増田信之(千葉大)・杉江崇繁(理研)
- LJ-007 複数の液晶ディスプレイパネルを用いた電子ロググラフィ再生像の拡大.....◎白木厚司(千葉大)・伊藤智義(JST/千葉大)・増田信之(千葉大)・下馬場朋禄(山形大)
- J-049 PC画面のビデオキャプチャによる圧縮の効率化.....◎進 隆治・森 秀樹・上原 稔(東洋大)
- J-050 充電地点へのドッキングを行なう室内バルーンロボットの学習制御.....◎皆川良弘・川村秀憲・山本雅人(北大)・高谷敏彦(北大/リコーソフトウェア)・大内 東(北大)
- LJ-008 次世代パペット向けインタフェースの提案.....◎志波 歩・松下宗一郎(東洋大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FITヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2006年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

[暗号化・電子透かし]

- 9月6日(水) 15:30～17:30 5J会場(8号館 834教室) 座長 如澤 裕尚 (NTT レゾナント)
- J-051 印刷テキスト画像を用いたステガノグラフィ◎大鳥浩史 (豊橋技科大)
- J-052 DCT係数を操作するMPEG動画画像電子透かし方式における平行移動耐性解析
.....◎明堂絵美・高木幸一・酒澤茂之・滝嶋康弘 (KDDI 研)
- J-053 公開鍵暗号を用いたJPEG圧縮デジタル写真の改ざん位置特定可能な電子透かし法○汐崎 陽 (大阪府大)
- J-054 JPEG圧縮に耐性のあるデジタル画像の改ざん検出・修復可能な電子透かし法
.....◎安田拓矢・汐崎 陽・岩田 基・荻原昭夫 (大阪府大)
- LJ-009 単一周波数平面スペクトル拡散を利用した時間同期外し耐性を持つ動画電子透かし
..... ◎山本 奏・中村高雄・片山 淳・安野貴之 (NTT)

[映像編集]

- 9月7日(木) 9:00～12:00 6H会場(8号館 833教室) 座長 小池 淳 (KDDI 研)
- J-055 (講演取消)
- J-056 SemiANNOTATE: A Semi-automatic Approach to Personal Photo Album Annotation
Based on Public/Personal Information ◎Supheakmungkol SARIN (早大)・長橋敏則・
三沢 正 (セイコーエプソン)・亀山 渉 (早大)
- J-057 BROADREFERENCE-A Study on Automatic Support for Building Emotion Oriented Networked Communities
..... ◎Uwe Kowalik・Terumasa Aoki・Hiroshi Yasuda (東大)
- J-058 映画の構造化のためのショットサイズ抽出とシーン解析 ◎伊藤 学・Uwe Kowalik・青木輝勝・安田 浩 (東大)
- J-059 デジタルシネマコンテンツファイルフォーマットの構成
.....◎小暮拓世・小池真由美・妹尾孝憲・青木輝勝・安田 浩 (東大)
- LJ-010 H.264/MPEG-4 AVCの重み予測を利用したフェード編集に関する一検討
.....◎加藤晴久・米山暁夫・滝嶋康弘 (KDDI 研)
- J-060 台本記述によるビデオログシステム ◎浜口齊周・道家 守・林 山樹・八木伸行 (NHK 技研)

[画像解析]

- 9月7日(木) 9:00～12:00 6J会場(8号館 834教室) 座長 内海 章 (ATR)
- J-061 高信頼動き推定に基づく動きオブジェクト推定◎青木恭太・猪野祐司・野辺昌史 (宇都宮大)
- J-062 曲平面を含むレンジデータからの幾何学的構造の抽出◎浅野佑己・齊藤隆弘・小松 隆 (神奈川大)
- J-063 動画画像の圧縮表示と移動物体の特徴抽出
.....◎斎藤寛著 (電機大)・齊藤朋子・柏村文郎 (帯広畜産大)・齊藤 剛 (電機大)
- J-064 パラメトリック固有空間法を用いた画像中の野鳥の個体数推定三田長久・◎原 徹也・久保山 裕 (熊本大)
- J-065 投球の次ショットに重きを置いたシーンのパターン化による野球映像イベント識別
..... ◎望月貴裕・藤井真人・八木伸行 (NHK 技研)
- J-066 ゼロ値予測による両方向動き検出の最適化 右田泰司・◎Vasily Moshnyaga (福岡大)
- J-067 シーンチェンジに適用したMPEG2動き検出手法 山岡成彰・◎Vasily Moshnyaga (福岡大)
- J-068 シーン中の領域に対するカテゴリカル色知覚 ◎矢田紀子・長尾智晴 (横浜国大)・内川恵二 (東工大)

[画像処理]

- 9月7日(木) 13:00～16:00 7H会場(8号館 833教室) 座長 諸岡 健一 (九大)
- J-069 動きオブジェクトベースのフレーム補間手法に関する検討◎東 正史・渡辺 裕 (早大)
- J-070 GPUを用いた木構造状画像処理の高速化に関する研究◎安藤 淳・長尾智晴 (横浜国大)
- J-071 ガウシアンフィルタによるディザ文字画像の復元に関する実験的検討 ◎石渡洋考・久保田裕紀・小倉卓也・
加園博之・くわ原貴昭・齊城嘉孝・原 和規・嶋 好博 (明星大)
- J-072 画像からの陰影抽出と画像処理への応用◎西原弘晃・長尾智晴 (横浜国大)
- J-073 主成分分析を用いた動画画像中の字幕の除去◎尾関孝史・福永裕也・小林富士男 (福山大)
- LJ-011 2段階主成分分析による多重画像のモノクロ化◎景 琳琳・井上光平・浦浜喜一 (九大)

[画像処理システム]

- 9月7日(木) 13:00～16:00 7J会場(8号館 834教室) 座長 谷口倫一郎 (九大)
- J-074 モルフォロジーを用いたコンクリート画像からの亀裂抽出 ◎手島裕詞 (静岡理工科大)・
原 徹 (フェニックスエンジニアリング)・小堀研一 (大阪工大)
- LJ-012 複数領域抽出のための新しい引力項を持つ動的輪郭モデルのハードウェア実現について
.....◎三秋俊雄・川村尚生・菅原一孔 (鳥取大)
- J-075 動的輪郭モデルを利用した読唇母音認識システムの開発について◎中邨 覚・川村尚生・菅原一孔 (鳥取大)
- J-076 主観的輪郭のCaptchaへの応用◎橋本弥弦 (早大)
- J-077 画像情報処理の組込み設計・アスペクト比・圧縮・画像情報保存・組込み処理◎今井幸雄 (東海大)

K 分野：ヒューマンコミュニケーション & インタラクション（第3分冊）

[VR とシミュレーション]

- 9月5日(火) 9:00～12:00 1C会場(8号館 813教室) 座長 柳田 康幸(名城大)
- LK-001 混成型遠隔力覚共有システムの開発と評価……………○山開真二・賀川経夫・西野浩明・宇津宮孝一(大分大)
- K-001 直感的操作による服飾デザインシステム……………◎宮原克典・岡田義広・新島耕一(九大)
- K-002 改良 Mass-Spring モデルに基づく布の動的シミュレーション……………○羅 軍・味八木 崇・山崎俊彦・相澤清晴(東大)
- K-003 ボールアイトレッドミル(BAT)における歩行方向を考慮した歩行者位置制御……………◎稲葉 潤・岩崎周平・小笠原陽輔・永森 彰・伊藤 稔(工学院大)
- K-004 ボールアイトレッドミル上の歩行者に働く力の検討……………◎小笠原陽輔・岩崎周平・稲葉 潤・永森 彰・伊藤 稔(工学院大)

[ヒューマンコミュニケーション基礎(1)]

- 9月5日(火) 9:00～12:00 1D会場(8号館 814教室) 座長 伊藤 京子(阪大)
- K-005 ロボットの状況判断モデル構築のための人物動作分析……………◎松井和教・市川貴浩(早大)・村上 真(東洋大)・菅田雅彰・白井克彦(早大)
- K-006 遠隔作業支援における作業環境の情報構造化に関する研究……………◎河田博昭・町野 保・岩城 敏(NTT)・柳原義正(NTT ファネットシステムズ)・南條義人・下倉健一朗(NTT)
- K-007 画像処理を用いた視線検出システムと入力インターフェースの開発-誤差原因の検討-……………城戸大輔・◎西村仁志(熊本大)・米沢徹也(八代高専)・緒方公一(熊本大)
- LK-002 仮想括約筋を用いた目と口の表情生成……………◎安 ソンジュ・小沢慎治(慶大)
- K-008 分析的記憶表象領域における顔記憶の階層的構造とそのコンピュータシミュレーション……………～デフォルメ似顔絵自動生成システムへの応用～……………○榎本 誠・大谷 淳(早大)・棚沢 順(千葉商科大)
- LK-003 チャットシステムにおけるタイプ速度の引き込み現象……………◎金城郁子・北村泰彦(関西学院大)
- K-009 多人数同時発話型チャットシステムを通じた視覚対話コミュニケーションの検討……………◎山田祐士・竹内勇剛(静岡大)
- K-010 GPS 携帯電話を用いたエリア限定コミュニケーションシステム……………○井上道哉・長澤可也・草野友徳・末住野久之(湘南工科大)

[e-learning]

- 9月5日(火) 13:00～15:00 2C会場(8号館 813教室) 座長 藤原 康宏(岩手県大)
- LK-004 繰り返し小テストによる学習者の知識構造の評価手法……………◎生田目康子(広島国際大)・植野真臣(電通大)
- K-011 e-Learnig における学習支援システム……………◎土屋嘉宏・伊興田光宏・前川仁孝(千葉工大)
- K-012 電子教材のキーワード関係の可視化による評価手法に関する研究……………池辺正典・田中成典・古田 均・中村健二・◎吉村智史(関西大)
- K-013 仮想的集団学習の提供を目的とした非同期型 e-Learning System の開発とその評価……………◎梅村 透・赤倉貴子(東理大)
- K-014 学習者の集中状態に応じた e-learning システム構築のための動作分析……………◎五味真理子・村上 真・米山正秀(東洋大)
- LK-005 学習者が感情を発信できる VOD 型 e-Learning System の開発……………◎西久保健太・赤倉貴子(東理大)

[ヒューマンコミュニケーション基礎(2)]

- 9月5日(火) 13:00～15:00 2D会場(8号館 814教室) 座長 青木 義満(芝浦工大)
- K-015 幼児の発達過程観察のためのマルチモーダル幼児行動コーパス……………◎仲川 淳・山本 剛・大谷尚史・坂根 裕・桐山伸也・竹林洋一(静岡大)
- LK-006 パーソナル・コミュニケーションによる流行現象のパターン解析……………河合孝尚・○田所洋輔・林 太朗・泰中啓一(静岡大)
- K-016 パブリックスペースでの情報利用時の安心感の国際比較……………○飯塚重善(NTT/京大)・石田 亨(京大)・小川克彦(NTT)
- K-017 遠隔地間ユーザのための協調的論文作成支援システム……………◎藤本貴之(園田学園女子大)・松尾徳朗(宮城大)
- K-018 聴覚障害者のための学年別レピ付きリアルタイム字幕提示システムを用いた講義支援……………○小林正幸・西川 俊・三好茂樹・石原保志(筑波技術大)

[情報技術教育ツール]

- 9月5日(火) 15:30～17:30 3C会場(8号館 813教室) 座長 中村 直人(千葉工大)
- K-019 (講演取消)
- K-020 フレームワークとオブジェクトモデルを用いた制御系シミュレーション・実験統合環境……………◎矢野健太郎・古賀雅伸(九工大)
- K-021 e-Learning によるプログラミング学習におけるプログラム評価システムの開発……………◎右田照明・谷川 健(北海道情報大)
- K-022 OPE プロジェクトと OPE インストール CD-ROM 実装について……………○原 元司(松江高専)・桐山和彦(鳥羽商船高専)・山本喜一(OpenEdu プロジェクト)・白濱成希(北九州高専)・本間啓道(奈良高専)・岡田 正(津山高専)・白石啓一(詫間電波高専)
- K-023 カスタマイズ可能なユーザー利用環境自動構築ツールの開発……………◎桐山和彦(鳥羽商船高専)・白石啓一(東京工業高専)・原 元司(松江高専)・山本喜一(OpenEdu プロジェクト)・本間啓道(奈良高専)・白濱成希(北九州高専)・岡田 正(津山高専)
- K-024 手書きインタフェースを備えた式の計算を指導する知的教育システムの開発～バグ知識による学習者の誤り同定～……………◎林 楊・岡崎泰久(佐賀大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチ賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2006年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

[ウェアラブルと空間情報処理]

- 9月5日(火) 15:30～17:30 3D会場(8号館 814教室) 座長 木村 篤信 (NTT)
- LK-007 ウェアラブル拡張現実感システムにおけるハイブリッドP2Pを利用したユーザへの注釈付け
.....◎牧田孝嗣・神原誠之・横矢直和 (奈良先端大)
- K-025 装着した3次元磁気センサを用いた歩行・走行に対応した自己位置推定手法
.....◎山中一樹・神原誠之・横矢直和 (奈良先端大)
- K-026 注釈対象物体の形状を考慮したARオーサリングシステム.....◎小谷享広・牧田孝嗣・神原誠之・横矢直和 (奈良先端大)
- LK-008 超音波を用いた実音場の拡張に関する基礎検討.....◎吉野祥之・橋田朋子・苗村 健 (東大)
- LK-009 赤外可視変換素材を用いた選択的情報提示に関する基礎検討.....◎木村 翔・寛 康明・苗村 健 (東大)
- LK-010 DMDを用いた空間分割型可視光通信の基礎検討.....◎北村匡彦・苗村 健 (東大)
- K-027 加速度センサ付RFIDと赤外線センサを用いた物体位置検出手法の提案.....◎中尾浩章・芳賀博英・金田重郎 (同志社大)
- LK-011 Sound Source Localization for Multimedia Retrieval in a Ubiquitous Environment
.....◎GAMHEWAGE DE SILVA・山崎俊彦・相澤清晴 (東大)

[画像処理・CG教育利用]

- 9月6日(水) 9:00～12:00 4C会場(8号館 813教室) 座長 赤倉 貴子 (東理大)
- K-028 画像によるドラムスティックの動作解析.....◎上遠野 優・前川 仁 (埼玉大)
- K-029 身体動作に対する遠隔教育支援システムー動作教育の提示・簡易評価手法の研究ー
.....◎高内一平 (近畿大)・飯田尚紀 (産業技術短大)・武田昌一 (近畿大)
- K-030 工学実験における学生の視線と習熟度の関係
.....◎比嘉 修・野口健太郎・神里志穂子・野崎真也・佐竹卓彦・比嘉 信・鈴木龍司 (沖縄高専)
- K-031 状態遷移図を用いたキャラクター定義に基づくゲーム記述環境
.....◎下村達也 (茨城大)・岡本秀輔 (成蹊大)・鎌田 賢・米倉達広 (茨城大)
- K-032 シナリオ記述言語による3DCGカメラワークの制作技法.....◎有馬寛子・松田 洋・新藤義昭 (日本工大)
- K-033 Creative Lesson: 高校生を対象とした3D-CGアニメーション制作教材の開発と実験授業
.....◎渥美朋繁・松田 洋・新藤義昭 (日本工大)
- K-034 Cyber Assistant Professor(CAP)による小学校理数教材の開発.....◎松林武士・松田 洋・新藤義昭 (日本工大)
- K-035 3次元CGを用いたアニメーションの提示速度の検討.....◎安井孝児・重田和弘 (高松高専)

[ヒューマンインタフェース(1)]

- 9月6日(水) 9:00～12:00 4D会場(8号館 814教室) 座長 岡田 英彦 (京産大)
- K-036 キー押下時間に着目したキーストロークダイナミクス解析.....◎佐村敏治 (明石高専)・西村治彦 (兵庫県大)
- LK-012 力量ボタンマウスの操作特性の検証.....◎小俣昌樹・松村健次・今宮淳美 (山梨大)
- K-037 ビジョンチップシステムの小型化とウェアラブルマンマシンインタフェースへの応用
.....◎小室 孝・ビョーン ウェアクマン・駒井崇志 (東大)・鏡 慎吾 (東北大)・石川正俊 (東大)
- LK-013 指先の動きを利用した仮想ボタン入力インタフェースの検討
.....◎森本一広・宮島千代美 (名大)・伊藤克亘 (法大)・武田一哉 (名大)
- K-038 大型ディスプレイを用いた手書き文字・図形の認識システム.....◎川田貴俊・長尾智晴 (横浜国大)
- K-039 複数輝点レーザポイントによる3次元情報入力装置.....◎飯尾 淳 (三菱総研)・井上健司・新井健生 (阪大)
- LK-014 レーザポイントを用いたPC入力システム.....◎和田敏治・高橋正信・朝日勝雅 (芝浦工大)・山本幸司・香川景一郎・太田 淳 (奈良先端大)
- K-040 赤外線ポイントと画像処理によるプレゼンテーション支援システム.....◎二宮憲一・黒木修隆・沼 昌宏 (神戸大)

[異文化コラボレーション]

- 9月6日(水) 15:10～17:30 5B会場(8号館 812教室) 座長 中西 英之 (阪大)
- LK-015 産官学連携における参加者の興味についての対応分析
.....◎大杉直樹・大平雅雄・松村知子・森崎修司・玉田春昭 (奈良先端大)
- K-041 共同研究プロジェクト「<人文学の討議空間>のデザイン」について
.....◎加藤謙介・久保田美生 (阪大)・森 宣雄 (英知大)
- K-042 ソフトウェア要求抽出における異分野コラボレーションの分析.....◎田中秀一郎・大平雅雄・松本健一 (奈良先端大)
- LK-016 コミュニティ指向の異文化コラボレーションツールの開発.....◎重信智宏 (NICT)・藤井薫和 (和歌山大/NICT)・宮部真衣・藤原義功 (和歌山大)・吉野 孝 (和歌山大/NICT)
- K-043 AnnoChat2: 意味情報を共有可能な異文化間コミュニケーション支援システム
.....◎藤井薫和 (和歌山大)・重信智宏 (NICT)・吉野 孝 (和歌山大)
- LK-017 絵文字チャットコミュニケーター.....◎宗森 純・宮井俊輔・伊藤淳子 (和歌山大)
- K-044 絵文字コミュニケーションにおける言語類型の比較.....◎稲葉利江子 (NICT)・高崎俊之・森 由美子 (バンゲア)

[コミュニケーションと教育]

- 9月6日(水) 15:30～17:30 5C会場(8号館 813教室) 座長 森田 裕介 (長崎大)
- K-045 携帯電話を利用した協調学習に関する研究.....◎田代久美 (宮城大)
- K-046 携帯電話を用いた授業支援システムの構築と試行
.....◎川幡拓矢・岡崎哲夫 (北海道工大)・遠藤大二 (酪農学園大)・山野孝則 (HBA)
- K-047 WWW言語資源を利用した英文作成支援ツールーユーザの語彙レベルに基づく適応型用例提示ー
.....◎安藤一秋・網嶋祐一 (香川大)・溝渕昭二 (近畿大)
- K-048 韓国語学習者のための自習ソフトウェアの開発
.....◎嶋倉和基 (北海道情報大)・金 義鎮 (東北学院大)・金 惠鎮 (久留米大)
- K-049 モダンプロマネによる効果的なフィールドトレーニング.....◎馬場泰志 (シーイーシー)
- K-050 PBLを応用したITプロジェクトマネージャーの効果的な育成方法
.....◎佐藤康則・松沢隆一 (富士通ラーニングメディア)・上野新滋 (富士通)

[ヒューマンインタフェース (2)]

- 9月6日(水) 15:30～17:30 5D会場(8号館 814教室) 座長 大向 一輝(国立情報学研)
- K-051 逃げる目覚まし時計の実現に向けた人体センサの検討 ……◎谷田円花・松下宗一郎(東洋大)
- K-052 事例提示による抽象情報と具体情報の対応登録インタフェース
……………◎渡辺 裕・川成宗剛(立命館大)・井上信介(内田洋行)・島川博光(立命館大)
- K-053 状況から推定されるユビキタスサービス起動のための即興セレクタ ……◎相馬孝宣・島川博光(立命館大)
- K-054 携帯電話フルブラウザによる Web ページ閲覧のユーザビリティ評価 ……◎和氣早苗(同志社女子大)・岡田英彦(京産大)・西村弘絵・田中尋子(同志社女子大)・谷本 諒・河井悠毅(京産大)
- K-055 数字入力による情報の絞り込み検索の検討 ……◎水口武尚・佐々木幹郎・桐村昌行(三菱)
- K-056 携帯端末向け検索ナビゲーションシステムの開発と評価 ……◎宮崎陽司・河野 泉・池上輝哉(NEC)

[ヒューマン情報処理 (1)]

- 9月7日(木) 9:00～12:00 6B会場(8号館 812教室) 座長 喜多 伸一(神戸大)
- LK-018 TV視聴時の車酔い低減対策 ……◎森本明宏(三重大/松下電器)・奥村友裕・日高教孝・朴 丹・荒木佑介・榊井文人・河合敦夫・井須尚紀(松下電器)
- K-057 呼吸終末二酸化炭素分圧による動揺病強度推定法を用いた車酔い低減技術の評価 ……◎日高教孝(三重大)・森本明宏(松下電器)・奥村友裕・朴 丹・荒木佑介・榊井文人・河合敦夫・井須尚紀(三重大)
- LK-019 生体内分泌物質に基づく VDT 作業ストレスの評価および予測 ……◎野村収作・山岸主門・趙 博(鳥根大)
- K-058 (講演取消)
- K-059 感情認識における画像情報と音声情報の統合
……………◎青田 亨・松本哲也(名大)・竹内義則(名大/理研)・工藤博章・大西 昇(名大)
- LK-020 スピンイメージを用いた3次元スキャンデータからの人体の特徴点抽出 ……◎辛 貞殷・小沢慎治(慶大)
- K-060 行動検索アプリケーションの評価方法の検討
……………◎倉 恒子・森田哲之・大浦啓一郎・日高哲雄・田中明通・加藤泰久(NTT)
- K-061 ロボットカメラ協調撮影システムのための撮影規則自動生成
……………◎奥田 誠・津田貴生・武藤一利・西田幸博・井上誠喜(NHK)

[福祉情報工学 (WIT) (1)]

- 9月7日(木) 9:00～12:00 6C会場(8号館 813教室) 座長 中山 剛(国立身体障害者リハビリセンター)
- K-062 視覚障害のためのRFIDによる周辺状況認識支援 ……◎村井保之(日本薬科大)・巽 久行・宮川正弘(筑波技術大)
- K-063 視覚障害のための力覚デバイスによる歩行支援シミュレータ
……………◎村井保之(日本薬科大)・巽 久行・宮川正弘(筑波技術大)
- LK-021 楽譜記述言語 MusicXML からの楽譜自動点訳システム
……………◎田村直良(横浜国大)・後藤大輔(ヤフー)・後藤敏行(横浜国大)
- K-064 自動生成されたメタデータに基づく視覚障害者のためのプレゼンテーション文書アクセスインタフェース
……………◎石原辰也・高木啓伸・伊藤 隆・浅川智恵子(日本IBM)
- K-065 プレゼンテーションドキュメントのアクセシビリティ評価手法 ……◎佐藤大介・高木啓伸・浅川智恵子(日本IBM)

[ヒューマンインタフェース (3)]

- 9月7日(木) 9:00～12:00 6D会場(8号館 814教室) 座長 水口 充(NICT)
- K-066 手のひらサイズの半球型ディスプレイの設計と検討
……………◎川田真史・芝 治也・山口 巧(高知高専)・島村和典(高知工科大)
- LK-022 Reversible Display: 回転動作を利用した空間コンテンツの閲覧 ……◎中村聡史(NICT)
- K-067 透視化機能をもつマルチウィンドウシステムの高解像度化 ……◎幡谷大介・宮岡有希・宮崎 仁・横川智教(岡山県大)・茅野 功(川崎医療短大)・佐藤洋一郎・早瀬道芳(岡山県大)
- K-068 A Visual and Haptic Multimodal Roughness Rendering with a Matrix of Regular Dots: Towards Digitalization of Psychological Haptic Attributes
……………◎Wanhua Hu・Tao Lin・Kazuo Sakai・Atsumi Imamiya・Masaki Omata(山梨大)
- K-069 メディアコンテンツ作成支援のためのバリエーション生成/表示方法の評価 ……◎三原洋平・中島克人(電機大)
- K-070 虫眼鏡メタファによる視認支援機構に関する一検討
……………◎酒巻隆宏(高知工科大)・山口 巧(高知高専)・島村和典(高知工科大)
- K-071 バーチャル空間における油絵具の3D簡易モデルを用いた油絵風画像生成システムの構築 ……◎和田 学(長崎大)
- K-072 水泳教育のための3次元CGを用いた動き表示に関する研究-基本動作の3次元CG化-
……………◎山本奈緒・高内一平(近畿大)・飯田尚紀(産業技術短大)・武田昌一(近畿大)

[ヒューマン情報処理 (2)]

- 9月7日(木) 13:00～16:00 7B会場(8号館 812教室) 座長 加藤 博一(阪大)
- K-073 類義語関係を考慮した語学学習番組の番組再構成手法 ……◎上野幹大・澤井里枝・沼田 誠・松村欣司・金次保明(NHK)
- K-074 オブジェクトの意味と視聴者環境に適応した放送番組の画面再構成手法の検討
……………◎沼田 誠・澤井里枝・松村欣司・上野幹大・金次保明・八木伸行(NHK)
- K-075 MIRACLE におけるシームレスマッピングの提案 ……◎向井新太・田口哲典・青木輝勝・安田 浩(東大)
- K-076 ビデオ映像からのリアルタイム布テクスチャ作成の提案 ……◎田口哲典・向井新太・青木輝勝・安田 浩(東大)
- K-077 医療情報共有システムの検討 ……◎有野真史・野地 保・松浦純士・小野田誠(東海大)
- K-078 赤色の作業効率に与える影響度に関する検討 ……◎渡部容子(東海大)
- K-079 Study on the Evolution of Information Technology in Developing Countries: a Case Study of Malaysia
……………◎Rina Azlin Abdul Rahman・野地 保・平山 守(東海大)
- K-080 洋服の肌感覚を携帯電話で伝える一手法 ……◎高 穎(東海大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2006年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

[福祉情報工学 (WIT) (2)]

9月7日(木) 13:00～16:00 7C会場(8号館 813教室) 座長 縄手 雅彦 (島根大)

- K-081 人物コンピュータグラフィックスによる手話のアニメーション
.....◎辻原和昌・野志恭兵・平山 亮・舟川政博 (金沢工大)
- K-082 発話障害者のための自然対話支援システムの開発 (第4報) ～ユニバーサル入力インタフェースデザインの改善～
.....◎梅舟柄安・大倉典子 (芝浦工大)
- K-083 脳の判断能力回復を目的としたリハビリ支援システムにおけるユーザインタフェースの初期検討
.....◎木滑智美・藤村 誠 (長崎大)・高島秀敏 (高島脳神経内科)・今村弘樹・黒田英夫 (長崎大)
- K-084 頸髄損傷者のスイッチ操作時における接触圧計測○中山 剛 (国立身体障害者リハビリテーションセンター)
- K-085 ソフトウェアキーボードの利用におけるカーソル移動平滑化の効果◎藤川浩一・佐藤基次・縄手雅彦 (島根大)
- K-086 半側空間無視と注意障害を持つ高次脳機能障害者のPC操作練習◎森本大資・藤川浩一・縄手雅彦 (島根大)
- K-087 コンピュータを用いた脳性麻痺児の視知覚能力訓練ツール◎松本敏明 (島根大)

[ヒューマンインタフェース (4)]

9月7日(木) 13:00～16:00 7D会場(8号館 814教室) 座長 鈴木 紀子 (NICT/ATR)

- K-088 ロボットアバタを用いたユーザ親和性向上手法の高齢者による評価
.....◎廣井 富・伊藤彰則 (東北大)・高津宣夫 (石巻専修大)・中野栄二 (千葉工大)
- K-089 Analysis of Communication Prompted by Black “●” Communication System - Effects of Emotional emphasis in comparison with E-mails and Messengers.◎ Li Jen Chen・Jun Ohya (早大)・Yukio Tokunaga・Nobuyuki Harada (芝浦工大)・Shunichi Yonemura (NTT)
- K-090 ユーザーの感性情報と好みを反映したパーソナルフォント作成システムの構築
.....◎田丸雅純・杉本富利・米山正秀 (東洋大)
- K-091 遺伝的アルゴリズムとデジタル信号処理を用いた脳波解析処理の開発◎石澤一紀・千葉慎二 (仙台電波高専)
- K-092 非単調論理の論証状態分析による議論支援◎柴田裕介・山口和紀 (東大)
- K-093 オブジェクト世界の構造化表示方法 - オブジェクト再考 4◎高原利生 (無所属)
- K-094 オブジェクト世界変革の方法について - オブジェクト再考 5◎高原利生 (無所属)

L 分野：ネットワークコンピューティング（第4分冊）

[ネットワーク技術]

- 9月5日(火) 9:00～12:00 1L会場(8号館 842教室) 座長 山井 成良(岡山大)
- L-001 柔軟な割り当て可能な超高性能 VPN システム開発のための性能測定実験
.....○佐藤 聡・中井 央・山口喜教・板野青三(筑波大)
- LL-001 外海離島における衛星インターネット回線品質の評価◎大山 翔・升屋正人(鹿児島大)
- L-002 エンドツーエンド通信用 IKE/IPSec ポリシーを配布・検索する DHCP と DNS の拡張◎平河内竜樹(無所属)
- L-003 コンテンツ同期状態を利用したサーバ選択機構◎岩佐宗幸(九産大)・吉田 充(理研)・下川俊彦(九産大)
- L-004 大規模な管理専用 IP ネットワークのための機器負荷を考慮した経路制御方式の評価
.....◎堀 賢治・吉原貴仁・堀内浩規(KDDI 研)
- LL-002 ネットワーク管理におけるイベントのリアルタイム識別の実現へ向けたログ要約手法の提案
.....長尾真宏・○北形 元・菅沼拓夫・白鳥則郎(東北大)
- L-005 自律調整エージェントによるモニタリングの効率化 ◎藤本洋平・山本直哉・木村順子・山本勝義(日本 IBM)

[モバイルモビリティとサービス]

- 9月5日(火) 9:00～12:00 1M会場(8号館 843教室) 座長 竹下 敦(NTT ドコモ)
- L-006 トランスポート層におけるモビリティサポートに関する提案◎久保 健・横田英俊・井戸上 彰(KDDI 研)
- L-007 M2M リアルタイム通信へのサービスマイグレーション方式の適用◎今井尚樹・磯村 学・堀内浩規(KDDI 研)
- L-008 FMC 環境下でのグループ型通信対応リソース切替のためのセッション制御機構
.....◎田坂和之・今井尚樹・磯村 学・堀内浩規(KDDI 研)
- L-009 モバイル環境向け Web アプリケーションのセッション管理方式
.....◎宗形 聡・樋地正浩(日立東日本ソリューションズ)
- L-010 携帯電話用 Web サービスクライアントの自動構成実験
.....◎山能健治(日立ソフトウェアエンジニアリング)・野口健一郎(神奈川大)
- L-011 携帯電話向け汎用アプリケーションゲートウェイフレームワークの提案と開発
.....◎窪田聡史・安井浩之・松山 実(武蔵工大)
- LL-003 文字情報の画像化による携帯電話向け多言語情報配信システム-在留外国人向け災害情報提供に関する提案-
.....◎平松初珠・石島 悌(大阪府産総研)・堀 一成・高階美行(大阪外語大)
- L-012 階層的な位置表現への広域化ビュー適用における追尾性向上◎川成宗剛・島川博光(立命館大)

[情報検索]

- 9月5日(火) 13:00～15:00 2L会場(8号館 842教室) 座長 門林 雄基(奈良先端大)
- L-013 スマールワールドネットワークにおける最適な検索手法の考案に向けた IRC ネットワークの調査
.....◎長谷川 卓・井出和典・松澤智史・武田正之(東理大)
- LL-004 P2P ネットワーク上の文書検索手法の研究◎成毛源樹(東大)
- LL-005 専門検索エンジンの高速半自動生成法宮川礼子・鈴木悠生・○鍋島英知・岩沼宏治(山梨大)
- L-014 P2P ネットワークを基盤とした分散 Web 検索システムにおける索引情報の損失防止手法の検討
.....◎豊田正隆・勅使河原可海(創価大)
- L-015 利便性の高いメタサーチエンジンの構築とその評価 ◎及川 啓(岩手県大)・西川修平(エーエスエル)・
児玉英一郎・王 家宏・高田豊雄(岩手県大)

[アドホックネットワーク]

- 9月5日(火) 13:00～15:00 2M会場(8号館 843教室) 座長 北形 元(東北大)
- L-016 映像ストリーム収集のためのマルチホップ無線ネットワークにおけるフレーム衝突検出に基づく通信スケジュール制御法
.....◎祐成光樹・三津橋晃丈・野田 潤・小西勇介・中尾敏康・田口大悟(NEC)
- L-017 リアルタイム通信向け広域無線マルチホップネットワークの設計
.....◎板谷聡子・長谷川 淳・長谷川晃朗・ピーター デビス・門脇直人・小花貞夫(ATR)
- LL-006 アドホックネットワークにおける送信電力制御方式の検討◎本多泰理(慶大)
- L-018 携帯電話端末上でのアドホック通信機能・アプリケーションの実装と評価
.....◎野一色裕人・横田英俊・井戸上 彰(KDDI 研)
- L-019 アドホックネットワークにおける無線端末の省電力に向けたルートディスカバリー方式の提案
.....◎有川 隼・松田充敏・能登正人(神奈川大)
- L-020 アドホックネットワークにおける経路探索アルゴリズムの検討
.....◎長倉慎之介・菅野淳一・譚 学厚・水野秀樹(東海大)

[ネットワークコンピューティング]

- 9月5日(火) 15:30～17:30 3L会場(8号館 842教室) 座長 樋地 正浩(日立東日本ソリューションズ)
- L-021 グリッド技術を用いた高効率データ収集システム◎藤井峰夫・長坂康史(広島工大)
- L-022 計算の検証の分散処理に関する一提案◎茂木 篤・山本 宙・辻 秀一(東海大)
- L-023 ユーティリティグリッドにおける計算機設定時間短縮のための状態管理手法◎小倉章嗣・荒木拓也(NEC)
- LL-007 P2P 型資源検索システムにおける動的論理リンク管理機構◎大川拓郎・滝沢寛之・小林広明(東北大)
- L-024 iHORB+P2P ミドルウェアを用いた災害情報システムの開発◎畠 智徳・梶房秀章・杜 恒・大西荘一(岡山理大)
- L-025 JXTA におけるランデブーピアの動的選択手法◎石澤望夢・高井昌彰(北大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2006年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

[ITS]

- 9月5日(火) 15:30～17:30 3M会場(8号館 843教室) 座長 堀内 浩規 (KDDI研)
- L-026 空間認識の概念を考慮した道案内地図作成に関する研究 ……物部寛太郎・田中成典・古田 均・◎持永大輔(関西大)
- L-027 ICカードを用いた自動車運転履歴の管理システムの提案 ……◎武田昌宏・山本 宙・辻 秀一(東海大)
- L-028 車載単眼カメラによる距離計測に関する研究 ……◎乾谷 徹・長尾智晴(横浜国大)
- L-029 車載センサネットワークによる路面計測システム ……◎樋口裕也・本谷秀堅(名工大)

[情報システム]

- 9月6日(水) 9:00～12:00 4L会場(8号館 842教室) 座長 安東 孝二(東大)
- LL-008 SMTPセッションの強制切断によるspamメール対策手法 ……○山井成良(岡山大)・漣 一平(日立)・岡山聖彦・河野圭太(岡山大)・中村素典・丸山 伸(京大)・宮下卓也(津山高専)
- L-030 子どもを対象としたWebアクセス監視支援システムの構築と評価 ……◎上田達巳・高井昌彰(北大)
- L-031 CBTに対応した教育用端末システム ……○久保田真一郎・升屋正人・青木謙二(鹿児島大)
- L-032 DVTSを用いたサテライトオープンキャンパス実験 ……◎井上宗徳・下川俊彦(九産大)
- L-033 プートサーバによるクライアントPCの集中管理システム ……◎武田利浩(山形大)・阿部康一(マジックワークス)・平中幸雄(山形大)
- L-034 Hi-sapへのSELinuxの適用と評価 ……◎福田亮平・原 大輔(電通大)
- L-035 Webベースでの共同プロセッサ開発 ……◎柳澤秀明・上原 稔・森 秀樹(東洋大)
- L-036 Webサービス連携のためのアスペクト指向プログラミング ……◎中口孝雄(NTT-AT)
- L-037 XML文書に適合するRELAX NGスキーマの自動生成実験・スキーマ仕様のサポート範囲の拡大 ……◎小松崎裕介(テクノバン)・野口健一郎(神奈川大)

[トラフィック測定と品質制御]

- 9月6日(水) 9:00～12:00 4M会場(8号館 843教室) 座長 地引 昌弘(NEC)
- L-038 IEEE 802.11e無線LANにおけるVoIPの品質評価 ……◎夏目祐輔・関 多一・土居幸一朗(早大)・北原 亮(NTTドコモ)・後藤滋樹(早大)
- L-039 VoIP向け無線LAN QoS制御方式(EDCA)の拡張 ……◎北原 亮・鈴木偉元・石川憲洋(NTTドコモ)・後藤滋樹(早大)
- L-040 屋外無線システムにおける動的映像品質制御方式の実験評価 ……◎杉本武之・山口実靖・淺谷耕一(工学院大)
- L-041 IPマルチキャストの利用可能帯域測定法に関する一評価 ……◎鳥村和典・◎湯浅賢英(高知工科大)
- L-042 VPN接続環境におけるTCPパラメータと通信性能の相関関係評価 ……◎千島 望(お茶の水女子大)・豊田真智子(NTT)・山口実靖(工学院大)・小口正人(お茶の水女子大)
- LL-009 マルチスケールブートストラップ法によるパケットサンプリング ……◎本多泰理(慶大)
- L-043 輻輳型DoS攻撃を対象にした優先制御・帯域制御の提案 ……◎安齋孝志(情報セキュリティ大)
- L-044 ネットワークシステムとプロセススケジューラとの協調によるUDPパケット破棄の削減 ……◎山本紫乃・檜崎修二(長崎大)

[コミュニケーションシステム]

- 9月6日(水) 15:30～17:30 5L会場(8号館 842教室) 座長 井上 智雄(筑波大)
- L-045 紫禁城 Explorer: 画像共有に重点をおいたガイドシステム ……◎宗森 純・ミンチー タイ・伊藤淳子(和歌山大)
- L-046 故障記録の傾向分析と保守情報の問合せによる不具合への早期対応 ……◎坂上聡子・辻野克彦・堀池 聡(三菱)
- L-047 送受信者の意思に基づく電子メールの早急性と受信者のプレゼンスを考慮した電子メール通知方式の設計 ……◎友岡英一・豊田正隆・勅使河原可海(創価大)
- L-048 投票を利用して有害な投稿を防止する電子掲示板の提案 ……◎大矢明頼・山本 宙・辻 秀一(東海大)
- L-049 フォークソノミーを用いたイントラネット上の組織内情報共有システムの提案 ……◎平島大志郎・田坂未来・勅使河原可海(創価大)
- L-050 参加者の合意に基づく文書隠蔽システムの設計 ……◎岩井 淳・佐渡一広(群馬大)

[センサネットワーク]

- 9月6日(水) 15:30～17:30 5M会場(8号館 843教室) 座長 北須賀輝明(九大)
- L-051 (講演取消)
- LL-010 センサネットワークにおける電源残量に基づいたクラスタヘッド選出方法 ……◎永田智大・小熊 寿・山崎憲一(NTTドコモ)
- L-052 広域分散センサノードのための統合通信基盤の性能評価 ……◎磯村 学・堀内浩規(KDDI研)
- L-053 無線伝播モデルに基づいた無線センサネットワークの性能評価 ……◎楊 濤・De Marco Giuseppe・Leonard Barolli(福岡工大)
- L-054 アドホックネットワークにおけるセンサ情報共有のための優先制御方式 ……◎寺島美昭・河東晴子・宮内直人(三菱)

[Webコンテンツと協調学習]

- 9月7日(木) 9:00～12:00 6L会場(8号館 842教室) 座長 宗森 純(和歌山大)
- L-055 タイルプログラミングを用いた3次元協調創作環境構築の試み ……◎高田秀志(立命館大)
- L-056 国内CSCL関連研究におけるICT利活用動向 ……◎香山瑞恵(専大)
- LL-011 コンテンツの整理を促進する知識コンテンツ構築システムの提案 ……◎吉村直子・井上智雄(筑波大)
- LL-012 Annphony: メタコンテンツ処理のためのプラットフォーム ……◎梶 克彦・長尾 確(名大)
- L-057 Weblogによる評価情報収集と推薦システムの開発 ……◎山下見弘・川村秀憲・大内 東(北大)
- L-058 (講演取消)
- L-059 メタデータ提供自由度の高い録画予約システム ……◎前川智則(東芝)
- L-060 ソーシャルブックマークにおけるタグの関係性分析 ……◎土屋吉寛・和田雄次(電機大)
- L-061 インターネットオークションにおける意思決定支援システム～Web情報の解析に基づく安全性の評価～ ……◎新井純一・高橋貞夫・大倉典子(芝浦工大)

[ストーリーミングと仮想空間]

- 9月7日(木) 9:00～12:00 6M会場(8号館 843教室) 座長 佐藤 文明(東邦大)
- LL-013 QuViE/P: 3次元仮想空間における利用者の知覚に基づく新しいQoS制御方式の提案と応用
.....黒田貴之・北形 元・菅沼拓夫・白鳥則郎(東北大)
- LL-014 複合現実感を用いた分散会議システムにおけるアバタの表示◎野口康人・井上智雄(筑波大)
- L-062 全方位画像に対応したストーリーミング再生プレイヤーの開発
.....上谷 巧・西尾佳祐・岩井儀雄・長原 一・谷内田正彦(阪大)・鈴木俊哉(映蔵)
- L-063 Multiple-channel Streaming Delivery for HyperOmni Vision System Haoran Yang・◎Xiaoqian Wang・
Yoshio Iwai・Hajime Nagahara・Masahiko Yachida(阪大)・Toshiya Suzuki(映蔵)
- L-064 3次元ビデオストーリーミングシステムの提案◎中村暢大・杉田 薫(福岡工大)
- L-065 (講演取消)
- L-066 オープンVライブ対応映像ストーリーミングゲートウェイの特徴的な取り組みと技術
.....◎青山春巳・宮田篤人・大串亮平(NTTドコモ)
- L-067 (講演取消)

[ホームネットワーク]

- 9月7日(木) 13:00～16:00 7L会場(8号館 842教室) 座長 重野 寛(慶大)
- L-068 狭帯域放送のための放送による契約情報の配信技術◎西本友成・藤津 智・砂崎俊二(NHK技研)
- L-069 通信路を問わない汎用通信フォーマットの提案と何でもリモコンの作成
.....◎渡部良平・渡邊高成・平中幸雄・武田利浩(山形大)
- LL-015 組み込みプロセッサを用いたUPnP AV-IEEE1394ゲートウェイの開発
.....◎森田知宏・八木孝介・丸山清泰・湯川真紀(三菱)
- L-070 UPnP機器をグローバルネットワーク越えて利用するためのネットワーク構成の提案
.....◎小川将弘・佐藤健哉・小坂隆浩(同志社大)
- L-071 インタフェースレス志向によるJiniシステムの構築◎門脇恒平・早川裕志・小坂隆浩・佐藤健哉(同志社大)
- L-072 E級増幅器のZVS状態を予測する方法
.....◎泉川周也・末次 正(福岡大)・Kazimierczuk Marian(Wright State University)
- L-073 家庭におけるライフスタイルに基づいた服薬管理システム◎柴垣早映子・伊藤雅仁(東京工科大)

[無線通信制御とQoS]

- 9月7日(木) 13:00～16:00 7M会場(8号館 843教室) 座長 藤野 信次(富士通研)
- L-074 QoS制御を考慮したDSRプロトコルの拡張◎伊藤 雅(愛知工大)・朝居宏明(三洋鋼材)
- L-075 アドホックネットワークにおける中継遅延の削減方式
.....◎瀧本栄二・滝沢泰久・門脇直人・小花貞夫(ATR)・大久保英嗣(立命館大)
- L-076 無線LANにおけるビット誤り率に基づく最適パケット長の導出◎森 隆幸・山口実靖・浅谷耕一(工学院大)
- L-077 無線LAN通信時におけるTCPパラメータの振舞いとパケット転送タイミングの解析
.....◎松井愛子(お茶の水女子大)・豊田真智子(NTT)・神坂紀久子・小口正人(お茶の水女子大)
- L-078 コグニティブ無線における複数無線リンク集約方式の評価
.....◎谷口典之・Stefan Aust・滝沢泰久・山口 明・小花貞夫(ATR)
- L-079 (講演取消)

M分野：アーキテクチャ・ユビキタス・セキュリティ(第4分冊)

[センサネットワーク]

- 9月5日(火) 9:00～12:00 1A会場(8号館 811教室) 座長 長坂 康史(広島工大)
- M-001 センサを用いた生産現場IE活動支援ツールの開発◎板倉豊和・服部可奈子・折原良平(東芝)
- M-002 接触物の役割による可搬行動パターン◎近藤明宏・島川博光(立命館大)
- M-003 階層型位置情報向けユーザインタフェースの設計◎植田健太・小坂隆浩・佐藤健哉(同志社大)
- M-004 位置情報を管理するサービスゲートウェイの設計◎高山洋史・小坂隆浩・佐藤健哉(同志社大)
- M-005 センサネットワークのためのトポロジ制御方式の評価◎茂木信二・吉原貴仁・堀内浩規(KDDI研)
- M-006 水産物トレーサビリティシステムにおける偽装防止技術の実用化◎女川穂高・三上貞芳・長野 章・
高木 剛(はこだて未来大)・鳴海日出人(日本データサービス)・
桑原伸司(北日本港湾コンサルタント)・若林隆司(アルファ水工コンサルタンツ)
- M-007 センサネットワークにおける干渉範囲を考慮した自律分散通信タイミング制御
.....◎久保祐樹(沖電気)・関山浩介(名大)
- M-008 情報家電サービスを対象としたアクセスコントロール方式◎森 航哉・川幡太一・依田育生(NTT)
- M-009 複数のセンサを用いたサービス制御機構の提案と実証実験◎小林英嗣・依田育生(NTT)

[RFID・位置情報]

- 9月5日(火) 15:30～17:30 3A会場(8号館 811教室) 座長 井上 創造(九大)
- M-010 加速度センサを用いたプレゼンス情報の取得方法に関する一考察◎宮口裕司・新井浩志(千葉工大)
- M-011 長距離パッシブRFIDを使用した天井埋め込み型位置検出手法について◎馬場友貴・新井浩志(千葉工大)
- M-012 RFIDタグ間通信アーキテクチャを用いた着衣管理システム
.....◎高橋翔太(高知工科大)・山口 巧(高知高専)・島村和典(高知工科大)
- M-013 Bluetoothを用いたクライアント位置情報管理システム◎金只圭司・長坂康史(広島工大)
- M-014 パッシブ型RFIDを用いた道案内システム◎金子尚人・長坂康史(広島工大)
- M-015 アクティブRFIDを用いた方向検出手法の提案◎橋詰和範・金田重郎・芳賀博英(同志社大)

※このプログラムは、インターネット上で申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FITヤングリサーチアワード」受賞候補の資格対象であることを示します。(2006年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

[ネットワークセキュリティ]

- 9月6日(水) 9:00～12:00 4A会場(8号館 811教室) 座長 寺田 真敏(日立)
- M-016 Web検索サービスを用いたウイルスメール収集手法……………○新井貴之(横河電機)・笹森健司(クルウィット)
- M-017 検疫ネットワークにおけるワーム拡散防止の一手法……………○豊国明子・原田道明・時庭康久・樋口 毅(三菱)
- M-018 エージェントレス型DHCPゲートウェイ方式検疫システムの実装……………○趙 シン・安井浩之・松山 実(武蔵工大)
- M-019 ルーチング情報を用いたIP偽装検知……………○大塚俊範・中村文隆・関谷勇司・若原 恭(東大)
- M-020 サービス可用性を考慮した動的防御のためのACL精緻化方式……………○森田陽一郎・中江政行・小川隆一(NEC)
- M-021 認証プロキシによる認証ポイント統合の実現……………○鈴木美幸(日本IBM)
- M-022 複合的証明情報提供サービスについて……………○宮崎一哉(三菱)
- M-023 マルチドメイン環境におけるプライバシー保護を考慮したID生成管理手法の実装と評価
……………○渡辺 龍・窪田 歩・田中俊昭(KDDI研)
- M-024 シンクライアント環境の完全性検証に関する方式検討と実装
……………○櫻井恒男・丹 英之・阿部大将・北川健司・濱野裕樹・千葉大作(アルファシステムズ)

[組み込みシステム]

- 9月6日(水) 15:30～17:30 5A会場(8号館 811教室) 座長 山崎 進(福岡町のクラスター研)
- M-025 組み込みSWの特性を用いたバージョン間差分抽出方式……………○三井 聡・清原良三(三菱)
- M-026 制御ネットワークの段階的詳細化設計のUML記述……………○白石 崇・小林憲貴・山崎亮介・吉田紀彦(埼玉大)
- M-027 (講演取消)
- M-028 組み込みシステム向けTCP/IPプロトコルスタックにおけるIPsecの実装と評価
……………○堀 大祐・堀 武司・吉川 毅・山本 寧(北海道立工業試験場)
- M-029 マルチメディア向け組み込みタイルプロセッサの設計……………○田路真也・森 秀樹・上原 稔(東洋大)
- M-030 ブロック浮動小数点のためのデータ配置手法……………○浜辺 崇・坂主圭史・武内良典・今井正治(阪大)

[セキュリティ基礎と応用]

- 9月7日(木) 9:00～12:00 6A会場(8号館 811教室) 座長 土井 洋(情報セキュリティ大)
- M-031 順序解法を原方式に持つ非線形持駒方式の安全性に関する一考察……………○福島啓友・伊藤大介・金子敏信(東理大)
- M-032 ミラー・レービン素数判定アルゴリズムの高速化……………○武田雄人・清水将吾・大場 充(広島市大)
- M-033 Distributed Function Oblivious Polynomial Evaluation
……………○小瀬木浩昭・平原耕一・大矢健太(東理大)・折笠大典(日立)・武田正之(東理大)
- M-034 Multi-Variable Oblivious Polynomial Evaluation
……………○小瀬木浩昭・平原耕一・大矢健太(東理大)・折笠大典(日立)・武田正之(東理大)
- M-035 Distributed Privacy Oblivious Polynomial Evaluation
……………○小瀬木浩昭・平原耕一・大矢健太(東理大)・折笠大典(日立)・武田正之(東理大)
- M-036 ヒステリシス署名を利用したデジタル画像の長期保証に関する一考察……………○辰巳卓矢・岩田 基・汐崎 陽(大阪府大)
- M-037 携帯電話を利用した電子印鑑システムの作成実験……………○星 耕平(東横システム)・野口健一郎(神奈川大)
- M-038 個人情報保護と利便性を両立するWebアプリケーションフレームワークに関する研究
……………○瀬高昌弘・天野直紀(東京工科大)
- M-039 エリア・センシティブなドキュメント認証システムの提案……………○半田富己男(大日本印刷)

[計算機アーキテクチャとその応用]

- 9月7日(木) 9:00～12:00 6P会場(8号館 845教室) 座長 井上 弘士(九大)
- M-040 共有メモリ型分散画像処理を利用した屋外自律移動ロボットの研究……………○後藤宏晃・安部憲広・田中和明(九工大)・
瀧 寛和(和歌山大)・He Shoujie(Eastman Kodak I.N.C.)
- M-041 赤外線通信ロボット群を用いた協調行動システムの開発……………○梶川哲広・千葉慎二(仙台電波高専)
- M-042 CHAIN手法とRENAME手法を混用するスーパースカラプロセッサの設計と評価……………○孟 林・小柳 滋(立命館大)
- M-043 電子計算機の本質の追求-命令セットアーキテクチャの切り口から分析する試み-……………○山本 登(日大)
- M-044 FPGAを用いたリアルタイム音響解析システム……………○秋山友孝・松下宗一郎(東洋大)
- M-045 文字列照合のハードウェア設計……………○筒井一雅・小柳 滋(立命館大)
- M-046 多重書きと順序通知を用いた短応答時間データ冗長化方式……………○宮田美知太郎・小川周吾・長谷部賀洋(NEC)
- M-047 パケットフィルタリングのハードウェア設計……………○田所儀大・小柳 滋(立命館大)

[セキュリティ要素]

- 9月7日(木) 13:00～16:00 7A会場(8号館 811教室) 座長 岩村 恵市(東理大)
- M-048 生体情報を鍵とするチャレンジ&レスポンス型認証
……………○森 浩典・鈴木裕之・小尾高史・山口雅浩・大山永昭(東工大)
- M-049 キーストロークタイミングと筆圧情報を用いた個人認証……………土本健二・○堂園 浩・野口義夫(佐賀大)
- M-050 携帯端末におけるモバイル本人認証……………○森廣雅道(大分高専)
- M-051 MRSLによるS-BOXへのDPA対策効果の検証……………○佐々木 稔・岩井啓輔・黒川恭一(防衛大)
- M-052 DPA対策実験による電力解析評価用プラットフォームの検証……………○辻 洋平・岩井啓輔・黒川恭一(防衛大)
- M-053 分散環境におけるセキュアな資源管理方式に関する研究
……………○橋本正樹・金 美羅・辻 秀典・田中英彦(情報セキュリティ大)
- M-054 (講演取消)

N 分野：教育・人文科学（第4分冊）

[プログラミング教育支援]

- 9月5日(火) 9:00～12:00 1K会場(8号館 841教室) 座長 中野 由章(千里金蘭大)
- N-001 LEDディスプレイを用いた電腦キャラクタのデザインおよび高校生の教育効果(2)
.....○増崎武次・牛尾剛聡・富松 潔(九大)
- N-002 Javaプログラミング初学者に対するテスト方法学習支援ツール.....○上河内頌之・松浦佐江子(芝浦工大)
- N-003 コード・イデオムの構造解析を用いたソースコードの自動評価.....○小柳順一・鳥川博光(立命館大)
- N-004 模範解答からのプログラミング実技試験採点システムの自動生成.....○石原 俊・田口 浩・鳥川博光(立命館大)
- N-005 プログラミング理解の契機の抽出に向けた学習者コンテキストのモデル化
.....○田口 浩・奥井善也(立命館大)・島田幸廣(ゴビ)・鳥川博光(立命館大)
- N-006 パス図を用いた学習者のモチベーション構造の可視化.....○土肥紳一・宮川 治・今野紀子(電機大)
- N-007 プログラミング教育における学習者の性格特性と学習意欲の関係.....○今野紀子・土肥紳一・宮川 治(電機大)
- N-008 プログラミング教育における学習者の特徴的状況の定量化.....○藤原理也・田口 浩・鳥川博光(立命館大)

[実習支援システム]

- 9月5日(火) 13:00～15:00 2K会場(8号館 841教室) 座長 板東 宏和(桜美林大)
- LN-001 「電気回路」用教育支援教材開発とその学習効果
.....○宍戸倫歩(日大)・森 幸男(サレジオ高専)・相川直幸・西田保幸(日大)
- N-009 ハード/ソフト協調学習のための命令セット定義ツールとプロセッサデバッグの開発
.....○難波翔一郎・中村浩一郎・Tuan Hoang Anh・山崎勝弘・小柳 滋(立命館大)
- N-010 HDL 設計教育支援のための遠隔実習システムの開発.....○森 哲史・千葉慎二(仙台電波高専)
- N-011 DVTS を用いた多地点遠隔講義支援教室の構築.....○櫻田武嗣・萩原洋一・古谷雅理(農工大)
- N-012 仮想環境ソフトウェアに基づくネットワーク構築トラブルシューティング学習支援システムの開発
.....○立岩佑一郎・安田孝美・横井茂樹(名大)
- N-013 Linux のリアルタイム制御パッケージを用いた実験環境構築システム.....○岸田和也・古賀雅伸(九工大)

[ICTと社会システム]

- 9月5日(火) 15:30～17:30 3K会場(8号館 841教室) 座長 山崎 松男(九州東海大)
- N-014 (講演取消)
- N-015 コンテンツ循環における権利継承システムの実装と評価.....○関 亜紀子・亀山 渉(早大)
- N-016 Model and Consideration on Advertisement Distribution
.....○Pao Sriprasertsuk・Akiko Seki・Wataru Kameyama(早大)
- N-017 “記憶”を辿る観光情報ソーラスの提言.....○守屋 豊・井出 明(近畿大)
- N-018 (講演取消)
- N-019 サービスサイエンスの観点から見た先端技術教育の検討.....○福井一恭・杉山岳弘・竹林洋一(静岡大)

[教育・学習支援]

- 9月6日(水) 9:00～12:00 4K会場(8号館 841教室) 座長 西田 知博(大阪学院大)
- N-020 学生が作成した問題の類似性に基づいた自動分類手法の検討.....○高木正則・勅使河原可海(創価大)
- N-021 講義現場での反応獲得による学生・教員間での理解度共有
.....○奥井善也(立命館大)・島田幸廣(ゴビ)・鳥川博光(立命館大)
- N-022 学習履歴データを活用した教育支援システム Airs の開発.....○高橋泰樹・松澤俊典・山口未来・和田雄次(電機大)
- N-023 「子ども発達相談ブログ」システムの提案と評価.....○白井由希子(同志社大)・井上 明(甲南大)・
新谷公朗・糠野亜紀(常磐会短大)・芳賀博英・金田重郎(同志社大)
- N-024 音声対話可能な計算九学習支援システムの開発～学習者に適応した学習モードの提案～
.....○古城戸 徹・岡崎泰久・渡辺健次(佐賀大)
- N-025 音声対話と手書き入力を組み合わせたひらがな学習支援システムの開発
-音声対話とアニメーションを用いたインタフェースの作成.....○川田鋼平・岡崎泰久・渡辺健次(佐賀大)
- N-026 XML データエントリシステム XDES を用いた Web 用外国語学習教材管理システムの構築
.....○杉本典子・大森洋子・田畑義之(九大)
- LN-002 (講演取消)

[システム開発教育]

- 9月6日(水) 15:30～17:30 5K会場(8号館 841教室) 座長 中平 勝子(長岡技科大)
- N-027 フレームワークでのメッセージ理解のための図式チュートリング.....○上野敦子・鳥川博光(立命館大)
- N-028 オブジェクト指向ソフトウェアの設計教育-上流工程の過程とUML表記-
.....○浅田善久・堀井 健・小谷賢太郎(関西大)
- N-029 (講演取消)
- LN-003 ソフトウェア開発実験におけるPBLの評価方法.....○松浦佐江子(芝浦工大)
- N-030 Spectral Clustering を用いた企業アンケートからのモデルコースの抽出
.....○鶴田直之・森元 逞・前田佐嘉志・高橋伸弥(福岡大)
- N-031 学生を対象としたインスペクション支援方法の考察.....○栗原紘樹(芝浦工大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2006年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

[人文学研究・教育へのIT応用]

- 9月7日(木) 9:00～12:00 6K会場(8号館 841教室) 座長 吉岡 亮衛(国立教育政策研)
- N-032 中高齢者のためのパソコン学習入門コースの提案◎山内章恵・横井茂樹(名大)
- LN-004 学校間交流のための電子観察日誌システムの開発○佐々木 淳・高瀬明浩・船生 豊(岩手県大)
- LN-005 英文読解速度テストの有効性の検証◎小谷克則(NICT)・吉見毅彦(龍谷大)・九津見 毅・佐田いち子(シャープ)・井佐原 均(NICT)
- N-033 複雑系ネットワークの手法を用いた文章の解析◎望月朝香・鈴木泰博(名大)
- N-034 伝統的モンゴル文字書の現代モンゴル語による検索手法の提案
.....◎Garmaabazar Khaltarkhuu・前田 亮(立命館大)
- N-035 ネットワークを利用するデジタルアーカイブ共同構築システム:ASPICO
.....○池崎友博・Dominique Deuff・小野欽司・北本朝展(国立情報学研)
- N-036 官学協働による鎌倉デジタル考古博物館の運営
.....○井上道哉・長澤可也・木野宏亮・草野友徳・出口修次・吉崎亮介・渡辺 翔(湘南工科大)

[e-Learning, 情報教育]

- 9月7日(木) 13:00～16:00 7K会場(8号館 841教室) 座長 田中 雅章(鈴鹿短大)
- N-037 テレワークを意識した疑似企業社会教育における信頼形成○柳原佐智子(富山大)
- N-038 情報倫理教育におけるe-Learning利用の課題柳原佐智子・○上木佐季子(富山大)
- N-039 e-learningにおけるSCORM規格によるコンテンツ分散共有のためのリポジトリシステムの開発
-分散学習コンテンツ作成システムの開発-◎渡辺将史・田中文基・小野里雅彦・伊達宏昭(北大)
- N-040 分散アプリケーションサービスによるe-learning学習支援管理情報基盤
.....○田中文基・渡辺将史・小野里雅彦・伊達宏昭(北大)
- N-041 vi練習ソフトviMasterによるユーザのvi操作履歴の解析◎山口実靖・津田伸秀(工学院大)
- N-042 携帯電話型文字入力練習システムの評価○飯倉道雄・吉岡 亨・樺澤康夫(日本工大)

O分野：情報システム(第4分冊)

[オフィスシステム一般]

- 9月5日(火) 9:00～12:00 1P会場(8号館 845教室) 座長 若原 俊彦(福岡工大)
- LO-001 特定少数のグループ向けP2P型バックアップシステム
.....◎中居大昭・岩野桂太・毛利公美(徳島大)・福田洋治(愛知教育大)・白石善明(名工大)
- O-001 ソフトウェア実装を想定した自己同期型ストリーム暗号の検討◎清本晋作・田中俊昭(KDDI研)・櫻井幸一(九大)
- O-002 Word 2003 文書への情報ハイディングシステム◎北野宗之・増田英孝(電機大)・中川裕志(東大)
- O-003 文書とのインタラクションを考慮した文書情報表現方式の検討◎小西康介・古川直広・池田尚司(日立)
- O-004 紙とペンによる情報アクセス方式の開発◎古川直広・池田尚司・小西康介(日立)
- O-005 文書へのアノテーションを活用する文書管理システムの開発○池田尚司・小西康介・古川直広(日立)

[社会情報システム(1)]

- 9月5日(火) 13:00～15:00 2P会場(8号館 845教室) 座長 金田 重郎(同志社大)
- LO-002 uEyes: 見る側と見られる側の双方にやさしいリアルタイム見守り支援システムの提案
.....高橋幸幸・山中一宏・東海林祥一・北形 元・菅沼拓夫・白鳥則郎(東北大)
- O-006 An Internet Support and Learning Environment for Senior Citizens in China○Wei Zhou(名大)
- O-007 地域医療情報ネットワークを対象にしたメタデータ照合型医療情報通信監視システムの構築
.....○堀井 洋・林 正治・權 仁洙・吉田武稔(北陸先端大)
- O-008 医療情報コードデータベースを用いたメタデータ生成システム
.....◎林 正治・堀井 洋・權 仁洙・吉田武稔(北陸先端大)
- O-009 テンプレートを利用した分散XMLデータの共有システム◎服部 哲・田畑邦晃(神奈川工科大)
- O-010 実用化に向けた水産物トレーサビリティシステムの開発◎香西一人・三上貞芳(はこだて未来大)

[社会情報システム(2)]

- 9月5日(火) 15:30～17:30 3P会場(8号館 845教室) 座長 神沼 靖子(無所属)
- O-011 移動図書館を対象とした配置計画支援システムの構築と評価
.....○南野謙一・小林 慎・平原隆史・阿部昭博・渡邊慶和(岩手県大)
- LO-003 Emerging Patternsを用いた都市の車両犯罪の発生に関する分析
.....○瀧澤重志・川口史恵・加藤直樹(京大)・森 健治・吉田和生(京都府警)
- O-012 自主防災向け洪水ハザードマップ活用ソフトウェアの試作-木屋川流域への適用-
.....◎村上ひとみ・井手上昌記(山口大)
- O-013 災害支援を意識したシステム開発に関する研究
.....○浅野俊幸・佐々木光明・浦山利博(防災研)・佐土原 聡(横浜国大)
- O-014 地図を用いた災害発生初期段階における情報共有システム
.....◎中村喜輝・佐野嘉紀(同志社大)・井上 明(甲南大)・芳賀博英・金田重郎(同志社大)
- O-015 加速度センサ付きRFIDを用いた農業管理システムの提案◎村川友章・金田重郎・芳賀博英(同志社大)

[情報システムの設計・評価]

- 9月6日(水) 9:00～12:00 4P会場(8号館 845教室) 座長 市川 照久(静岡大)
- O-016 電子ジャーナルと電子書籍との統合化システム ……○児玉晴男(メディア教育開発センター)
- O-017 研究者支援のための学術ポータルサイトの開発 ……○寺島賢紀・松尾徳郎(宮城大)・藤本貴之(園田学園女子大)
- O-018 研究者ニーズに対応した多層式情報検索手法の提案 ……◎松尾徳郎(宮城大)・藤本貴之(園田学園女子大)
- O-019 学務情報処理システムにおける選択科目クラス編成支援の実現と効果
 ……◎藤本貴之(園田学園女子大)・松尾徳郎(宮城大)
- O-020 Hit数とSimpson係数を用いた47都道府県の解析 ……◎吉村真弥(日本ユニシス)
- LO-004 IRTによる情報提供型Webサイトのアクセス分析 ……◎橋間智博(兵庫県大)
- LO-005 列車ダイヤ乱れ時における経路選択支援システムとその利用者行動への影響把握
 ……○土屋隆司・杉山陽一・山内香奈・藤浪浩平(鉄道総研)・有澤理一郎・中川剛志(JR東日本)
- O-021 情報セキュリティ対策の評価・選択に関する一考察
 ……○佐藤 直(情報セキュリティ大)・大村博敏(富士通エフ・アイ・ピー)

[ITと経営(モデリング, BP)]

- 9月6日(水) 15:30～17:30 5P会場(8号館 845教室) 座長 松田 順(綜研テクニクス)
- LO-006 ビジネスプロセス実行情報を用いたフロー制御方式 ……○砂田英之・五十嵐政志・小池賢一・小林 毅・茂木 強(三菱)
- O-022 エンタプライズアーキテクチャの1実践方法:そのモデリング ……◎松本正雄(九産大)
- O-023 EAにおけるビジネスプロセスモデル利用方式の提案 ……○片岡信弘(東海大)・大澤貴彦(CIJ)
- O-024 リクエストサイドから制御可能なWebサービスの分散型テストシステム
 ……◎光林 真(電通大)・村山隆彦(NTT)・多田好克(電通大)
- O-025 業務分析作業の効率化に関する基礎的研究 ……◎今井龍一(日本工営)・上山智士・柴崎亮介(東大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FITヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2006年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。